

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第134集

下信濃石遺跡

長野県佐久市岩村田字仁王前下信濃石遺跡発掘調査報告書
(弥生前期遺物群・中世寺院関連遺構)

2006. 3

花園土地区画整理組合
佐 久 市
佐久市教育委員会

下信濃石遺跡

長野県佐久市岩村田字仁王前下信濃石遺跡発掘調査報告書
(弥生前期遺物群・中世寺院関連遺構)

2006. 3

花園土地地区画整理組合
佐 久 市
佐久市教育委員会



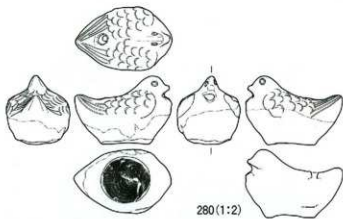
下信濃石道跡航空写真 (1995.4 こうそく撮影)



下信濃石道跡南の端下平への現在の登り口通路 (東より)



下信濃石道跡遠景 (湯川の対岸より西を望む)



古瀬戸灰繪水滴と出土状況 (Ta 3)



T a 3号竪穴建物址 (南より)



T1号寺院関連遺構（西より）



基壇状遺構（北より）



T1号寺院関連遺構 石積1（北より）



D33号井戸址（東より）



石積4（東より）



Eグリッド付近全景（北より）



C・Dグリッド付近全景（北より）



北側A・Bグリッド全景（東より）



Bか2付近弥生前期遺物群出土状況（北より）



Bか2付近弥生前期遺物群除去後のテラス（北東より）



中世陶磁器



弥生前期の土器と土偶

例 言

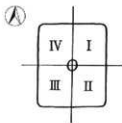
1. 本書は平成16年度の佐久市花園土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書である。調査区北は「下信濃石A」として佐久市、南は「下信濃石B」として花園土地区画整理組合より委託された。報告書は「下信濃石遺跡」として1冊にして報告する。
2. 発掘調査は佐久市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本書に掲載した地図は佐久市発行の基本図（1：2,500）、建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000）、佐久市詳細分布調査報告書の地図を使用した。
4. 本遺跡の調査・報告書の編集は森泉かよ子が担当し、校閲を羽毛田卓也が行った。
5. 分析は自然科学分析をパレオ・ラボ、黒曜石産地推定を望月明彦氏、放射性炭素年代を株式会社加速器分析研究所に依頼した。
6. 陶磁器の分類・年代については長野県埋蔵文化財センター 市川隆之氏に御指導していただきました。
7. 第V章 弥生前期の石器については国立歴史民族博物館研究機関研究員の馬場伸一郎氏に原稿を執筆して戴き、弥生前期の土器について中沢道彦氏にご指導を賜った。
8. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。
T-寺院関連遺構、Ta-建物址、D-土坑、P-単独ピット、M-溝址
2. 挿図中の遺構の縮尺は1/80である。異なる場合は図中に明記してある。
3. 挿図中の遺物の縮尺は1/4・1/3（弥生前期）である。異なる場合は図中に明記してある。
4. 図版の遺物の縮尺は約1/2である。異なる場合は明記してある。
5. 挿図中のスクリーン・トーンは以下のことを示す。

遺 構					
地山断面		焼 土		柱 痕	
堀 方					
遺 物					
須恵器断面		釉		襷	

6. 遺物の出土地点は下図の遺構分割によるものである。



目 次

巻頭図版
例 言
凡 例

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1	
第1節 調査経緯	1	
第2節 調査組織	2	
第3節 調査日誌	2	
第4節 検出遺構・遺物の概要	3	
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	5	
第Ⅲ章 基本層序	9	
第Ⅳ章 遺構と遺物	10	
第1節 中世	11	
1. 寺院関連遺構	11	
2. 竪穴状遺構・竪穴建物址	22	
3. 単独ピット	34	
4. 土坑	38	
5. 溝址	48	
6. グリット・表採出土遺物	49	
第2節 弥生前期	52	
第3節 古代遺物	79	
第4節 試掘遺物	79	
第Ⅴ章 総 括	81	
第1節 中世	81	
第2節 弥生前期	86	
第3節 下信濃石遺跡出土の石器群について	91	
付 表	95	
付 編		
下信濃石遺跡から出土した動物遺体同定	バレオ・ラボ 黒澤 一男	125
下信濃石遺跡から出土した炭化種子	バレオ・ラボ 新山 雅広	129
下信濃石遺跡出土炭化材の樹種同定	バレオ・ラボ 植田 弥生	131
出土炭化物の植物珪酸体	バレオ・ラボ 鈴木 茂	134
赤彩土器の顔料分析	バレオ・ラボ 藤根 久	137
放射性炭素年代測定結果報告書	株式会社加速器分析研究所	139
佐久市下信濃石遺跡出土黒曜石産地推定結果	沼津工業高校専門学校 望月 明彦	140

挿 図 目 次

第1図	下信濃遺跡位置図……………1	第35図	中世グリット出土遺物……………50
第2図	下信濃石遺跡発掘区設定図……………4	第36図	中世グリット・表採出土遺物……………51
第3図	下信濃石遺跡周辺遺跡分布図……………7	第37図	弥生前期遺物ドット図……………53-54
第4図	鹿大井郷之図……………8	第38図	弥生前期遺物(1)土器……………57
第5図	基本層序模式図……………9	第39図	弥生前期遺物(2)土器……………58
第6図	下信濃石遺跡全体図……………10	第40図	弥生前期遺物(3)土器……………59
第7図	T1号寺院関連遺構(1)……………13-14	第41図	弥生前期遺物(4)土器……………60
第8図	T1号寺院関連遺構(2)……………15	第42図	弥生前期遺物(5)土器……………61
第9図	T1号寺院関連遺構(3)遺物……………16	第43図	弥生前期遺物(6)土器……………62
第10図	T1号寺院関連遺構(4)遺物……………17	第44図	弥生前期遺物(7)土器……………63
第11図	T1号寺院関連遺構(5)堀方……………18	第45図	弥生前期遺物(8)土器……………64
第12図	T1号寺院関連遺構(6)堀方……………19	第46図	弥生前期遺物(9)土器……………65
第13図	T1号寺院関連遺構(7)石積1・2……………20	第47図	弥生前期遺物(10)土器……………66
第14図	T1号寺院関連遺構(8)石積3・4……………21	第48図	弥生前期遺物(11)土器……………67
第15図	Ta1号竪穴状遺構……………23	第49図	弥生前期遺物(12)土器……………68
第16図	Ta2・Ta3号竪穴建物址(1)……………24	第50図	弥生前期遺物(13)土器……………69
第17図	Ta3号竪穴建物址(2)遺物……………25	第51図	弥生前期遺物(14)土器……………70
第18図	Ta4・Ta6号竪穴建物址・D25号土坑……………27	第52図	弥生前期遺物(15)土器……………71
第19図	Ta5号竪穴建物址……………28	第53図	弥生前期遺物(16)土器……………72
第20図	Ta9号竪穴建物址……………29	第54図	弥生前期遺物(17)土器……………73
第21図	Ta10号竪穴建物址……………30	第55図	弥生前期遺物(18)土器……………74
第22図	Ta11号竪穴建物址(1)……………31	第56図	弥生前期遺物(19)土器……………75
第23図	Ta11号竪穴建物址(2)……………32	第57図	弥生前期遺物(20)土器……………76
第24図	Ta12号竪穴建物址……………33	第58図	弥生前期遺物(21)土器……………77
第25図	Ta13号建物址・単独ピット(1)・M1号溝址……………34	第59図	弥生前期遺物(22)土器……………78
第26図	単独ピット(2)・M3号溝址……………35	第60図	弥生前期遺物(23)土器……………79
第27図	単独ピット(3)……………36	第61図	古代遺物……………80
第28図	単独ピット(4)・M5・M6号溝址……………37	第62図	試掘遺物……………80
第29図	土坑(1)……………39	第63図	下信濃石遺跡建物址一覧……………83
第30図	土坑(2)……………40	第64図	下信濃石遺跡他中世焼物構成図……………83
第31図	土坑(3)……………41	第65図	下信濃石中世焼物変遷図……………85
第32図	土坑(4)……………42	第66図	浮線網状文模式図……………86
第33図	土坑(5)遺物……………43	第67図	石鏃形態分類模式図……………98
第34図	M2・M4号溝址……………49		

付 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表……………6	第3表	小型剥片石器の石材組成……………98
第2a表	黒曜石・チャート製の石鏃観察表……………95	第4表	石鏃の鏃身形態と茎の形態……………98
第2b表	安山岩・泥岩・砂岩製の石器観察表……………97	第5表	佐久盆地における弥生時代遺跡の黒曜石産地推定結果……………98

第6表	グリット別出土点数と重量(黒曜石) ……99	第11表	単独ピット一覧表……………102
第7表	グリット別出土点数と重量(安山岩・凝灰岩・砂岩) ……99	第12表	中世遺物一覧表……………105
第8表	竪穴建物址一覧表……………100	第13表	弥生前期土器一覧表……………112
第9表	上坑一覧表……………100	第14表	古代遺物一覧表……………123
第10表	溝址一覧表……………101	第15表	試掘遺物一覧表……………124

図 版 目 次

巻頭図版一	下信濃石遺跡航空写真・下信濃石遺跡南の端下平への登り口・下信濃石遺跡遠景
巻頭図版二	古瀬戸灰釉水滴と出土状況・Ta3号竪穴建物址
巻頭図版三	T1号寺院関連遺構・基壇状遺構・T1号寺院関連遺構石積1・D33号井戸址・石積4
巻頭図版四	Eグリット付近全景・C・Dグリット付近全景・北側A・Bグリット全景・Bか2付近弥生前期遺物出土状況
巻頭図版五	中世陶磁器
巻頭図版六	弥生前期の土器と土偶
図版一	中世陶磁器・硯・青銅製品・渡来銭
図版二	カワラケ
図版三	常滑甕・カワラケ・内耳
図版四	近世・近代陶磁器
図版五	砥石・台石・凹石・鉄製品
図版六	五輪塔・碁石
図版七	弥生前期土器(浮線文・沈線文の土器)
図版八	弥生前期土器(沈線文の土器他)
図版九	弥生前期土器(壺口縁部・東海模倣土器)
図版十	弥生前期土器(条痕文の土器)
図版十一	弥生前期土器(条痕文の土器・口縁部沈線文の土器)
図版十二	弥生前期土器(口縁部沈線文・口唇部押捺・刻目の土器)
図版十三	弥生前期土器(条痕文の土器・波状・平口口縁の土器)
図版十四	弥生前期土器(無文の土器)
図版十五	弥生前期土器(条痕文の土器)
図版十六	弥生前期土器(条痕文の土器)
図版十七	弥生前期土器(条痕文の土器)
図版十八	弥生前期土器(条痕文の土器)
図版十九	弥生前期土器(条痕文の土器)
図版二十	弥生前期土器(胴部・底部)
図版二十一	弥生前期土器(底部)
図版二十二	弥生前期土器
図版二十三	弥生前期黒曜石・安山岩製剥片石器
図版二十四	弥生前期黒曜石剥片石器
図版二十五	弥生前期安山岩・凝灰岩・砂岩製等石器
図版二十六	弥生前期土偶・縄文・古墳・奈良・試掘出土遺物

第I章 発掘調査の概要

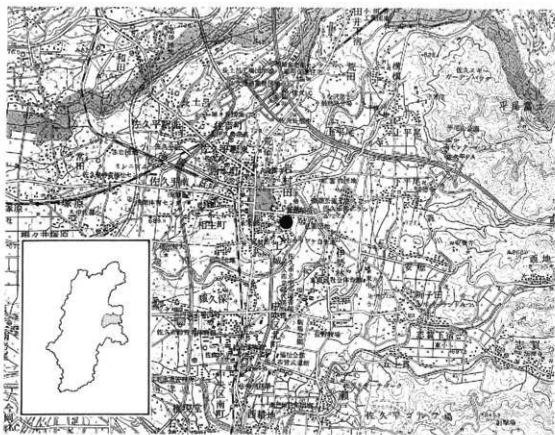
第1節 調査経緯

下信濃石遺跡は、佐久市北部の岩村田市街地東端にあり、湯川の河岸段丘に望む台地の傾斜地点にある。千曲川支流の湯川が南流し、西流に大きく方向を変える地点にあたり、本遺跡地点は南流の最終地点である。

遺跡は岩村田市街からの浅間軽石台地の切れる東傾斜面に立地する。湯川の河川堆積層であるシルト・砂層・黒色土がその上面に堆積している。台地上の端下平（はげのたいら）は中世南北朝時代に大井氏が建立した龍雲寺の伝承地とされている。

本遺跡の岩村田の台地には昭和48年に上の城遺跡、昭和59年に大井城跡（黒岩城）、平成7年に観音堂遺跡、平成10年に柳堂遺跡、平成14年に上ノ城遺跡が発掘調査されている。昭和48年の上の城遺跡は古墳時代から平安時代の集落、平成14年の上ノ城遺跡では古墳～奈良の竪穴住居址と中世の土塼墓・溝が出ている。観音堂・柳堂遺跡は中世の竪穴状遺構や掘立柱建物址が調査されている。

今回、平成16年に佐久市花園土地区画整理事業が計画され、先立って佐久市花園土地区画整理組合と佐久市より、試掘調査の依頼を受けた。試掘調査した結果、遺構遺物が検出されたため、道路によって遺構が破壊される部分の発掘調査を行うこととなった。発掘調査は佐久市花園土地区画整理組合と佐久市より委託を受けた佐久市教育委員会文化財課が行う運びとなった。



第1図 下信濃石遺跡位置図（1：50,000）

第2節 調査組織

調査受託者

教育長 高柳 勉(平成16年度) 三石 昌彦(平成17年度)

事務局

教育次長 赤羽根寿文(平成16年度) 柳澤 健一(平成17年度)

文化財課長 小林 正衛(平成16年度) 中山 悟(平成17年度)

文化財係長 高村 博文(平成16年度) 高柳 正人(平成17年度)

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田卓也 富沢 一明

上原 学 出澤 力 赤羽根太郎 神津 格(平成17年度)

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査副主任 堺 益子

調査担当者 羽毛田卓也 森泉かよ子

調査員

阿倍 和人 市川 昭 碓氷 知子 江原 富子 小林 妙子 小林百合子

小山 功 中條 悦子 林 美智子 橋詰 勝子 羽田 貴恵 比田井久美子

細谷 秀子 武者 幸彦 山浦 豊子 渡辺久美子 渡辺 長子

第3節 調査日誌

平成16年11月1日(月)

重機を入れ北側より表土を剥ぐ。
表土除去とともに地下水が噴出し、検出不可能。
周囲に排水溝を掘る。
検出可能地点の遺構検出を行う。

11月2日(火)

引き続き重機により表土の除去。(9日まで)
斜面地で検出面の把握が困難である。
検出作業と併行しD1から遺構の掘り下げに入る。
湧水のため、遺構検出・発掘が大変である。

11月30日(火)

野菜が栽培されていたため表土の除去ができなかった
地点に再度重機を入れる。(12月13日まで)
調査は斜面地のため足場の確保、検出に苦慮する。
29日より北側斜面の黒色土層中より多量の土器・黒
曜石が出土。分布図を作り始める。

11月13日(月)

寺院関連遺構の調査に入る。

12月14日(火)

人員が増加され体制が整う。

12月15日(水)

寺院関連遺構の東端の黒褐色土を除去し、石積検出。
下げた所より湧水が激しい。

12月22日(水)

県埋文センターの市川隆之氏に寺院関連遺構の調査の
指導を仰ぐ。



12月24日（金）

平成16年の現場の作業終了。

平成17年1月5日（木）

事務所で新年の式後、年末に降った雪を除去し、作業再開。
寺院関連遺構の石積調査続行。

1月16日（日）

大雪（40cm）のため現地説明会中止。

1月17・18日（火・水）

寺院関連遺構の石積を除去し崩方を確認し、
機材撤収し、調査を終了する。

平成17年1月19日（木）～平成18年3月31日（金）

室内にて整理作業を行い、報告書を刊行する。



第4節 検出遺構・遺物の概要

所在地 佐久市大字岩村田字仁王前3311-1 他

調査委託者 佐久市花園土地区画整理組合・佐久市

開発事業名 佐久市花園土地区画整理事業

発掘調査期間 平成16年11月1日～平成17年1月18日

整理期間 平成17年1月19日～平成18年3月31日

調査面積 1200㎡

調査担当 羽毛田卓也 森泉かよ子

遺跡は上の城の台地から湯川に傾斜する東斜面地である。そのため台地からの土砂が堆積し埋もれたため、複数の遺構面があった。上層には中世遺物の包含層が2面、さらにその下層から弥生前期の遺物包含層がみられた。したがって大きくは3面にわたる調査を行った。

検出遺構 寺院関連址（T1） 1址 土坑（D） 47基

竪穴建物址（Ta） 10棟 溝址（M） 6本

単独ピット（P） 258個

出土遺物

中世 カワラケ、内耳（土製鍋）、常滑壺・甕、珠洲壺、古瀬戸灰釉水滴・瓶子・平碗、青磁小杯・碗・盤、白磁口禿皿・碗、青銅製銅佛？・鏡、鉄製刀子、鉄製釘、北宋・明銭、五輪塔、宝篋印塔、石鉢、砥石、碁石、骨、炭化物

古墳後期 土師器・須恵器・白玉

弥生後期 弥生土器

弥生前期 浮線文・沈線文・条痕文・撚糸文土器、打製石斧、台石、石鎌、黒曜石剥片

縄文早期 押型文

中世の注目される所

斜面を削り長さ23mの平場を作り出し、端部は石を積む遺構（23.2×8.4m）が検出された。平場面からは石で囲った基壇、敷きの土間、石積の井戸址、柱穴がみられた。石積には五輪塔の火輪3点が転用されて積まれていた。中世の石積みが残されている例は稀少例である。

遺物は15世紀後半のカワラケ、内耳（土製鍋）、常滑焼の壺・甕、東海系の捏ね鉢、中国製の青磁碗・盤、白磁口禿皿・碗、青銅製鏡、鉄製の刀子・角釘などが出土している。

本地点の字名は仁王前であり、中世能雲寺の伝承地の端気平（はげのたいら）に隣接するため、寺院関連遺構とみられる。またこの整地面には、灰・炭化物層が上面にみられた。文明16年（1484）の村上氏の佐久侵攻により大井城が陥落したが、その際に能雲寺も灰燼に帰したという記録があり、調査

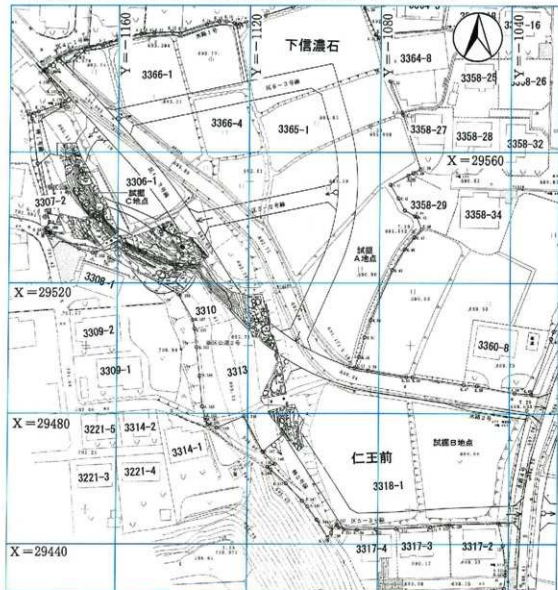
の結果が文献がほぼ一致している。

小規模な平場を作り、掘立柱建物址をもつ竪穴建物址が10棟検出された。中でもT a 3は、長さ10 m×幅3 mほどの平場に3間×1間の掘立柱建物址である。そこからは、カワラケ、北宋・明銭、古瀬戸辰釉水滴などが出土している。古瀬戸の水滴は完全な形で出土し、南北長開(14c)のものである。南北朝期の古瀬戸は流通が少なく稀少であり、ことに水滴は武士または僧侶など所有する人も限られていた。龍雲寺の開基が南北朝期とされており、これに関係する遺物とみられる。

弥生前期の注目される所

佐久市内には多くの遺跡があるが弥生前期の遺跡は、根々井の仲田遺跡、野沢の東五里田遺跡があるのみである。小諸市の水遺跡はこの時期の標識遺跡としても著名である。この時期は県内では遺跡が極端に少なく、この時期の資料は希少なものである。

今回、下信濃石遺跡では長さ12m、幅8mの黒色土層中より、数百点の弥生前期の土器・石製品が出土し、黒色土を下げたところ平場がみられ、出土状態を記録することができた。



第2図 下信濃石遺跡発掘区設定図(1:1,000)

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 自然環境

信濃石遺跡は岩村山の台地が南流する湯川に望む東端にあり、本調査地点は仁土前という小字名である。本調査域は東傾斜面である。標高は台地上で700m、東下の道路で694.9m、遺構検出面では標高697m～692m、標高差約5mを測る。傾斜面地であるため土砂が堆積し、遺構面が3面検出された。標高の高い所の基礎層には浅間火山灰層、その上面に湯川により火山灰が2次堆積した湯川層がある。低い地点では2次堆積した浅間火山灰層の上に黒色土が堆積し、その上面にまた堆積層が載っている。

遺構は斜面地を切って平場を作り出し建物を構築している。

第2節 歴史的環境

中世の岩村田は大井氏の居館が構えられた地であり、江戸時代の吉澤孝謙の著した『四隣譚載』に国府にまされりとかかれている。発掘調査において観音堂・柳堂遺跡から中世の竪穴建物址、多数の上坑・井戸址が検出された。中世の堂と周辺町屋が密集した状況を伝えている。丹波遺跡、平成14年の上ノ城遺跡の調査では東西方向に堀があり、東側に延長して現在の字「南羽毛平」と上の城地籍の境となる堀に連続するのであろうか。

本遺跡は中世の龍雲寺伝水地と隣接し、調査地点の字名は仁土前である。龍雲寺関連の資料を整理してみることにする。

『四隣譚載 卷之三』（1984、『大井城—大井城関係文献資料集—』）

「むかし大井郷は、民家六千軒、交易四通し、賑ひ国府にまされり、八日町通石橋といふ所、城外市店の中央なりとぞ、文明甲辰の兵火にかゝりて、神社仏閣、一塵の煙となりて、ついにこゝろす、市店の地を縮めて掘り岩村山といへり。」

「黒岩陣城の南四丁を隔て、上の城といふあり、南北式「半、東西式」、堀かた橋台あり、八日町へ「半東南岸高く湯川を帯ひたり、

上の城乾松山の内に、大井城主たまやといふあり、方三四十間、今ハ霽神又りやうをうともいへり、ならびに上古龍雲寺の跡あり、東西「三」許、湯川の岸に至る、近年遺骨のことあり、又たびの窟を出せり、たゞ二王門の跡とて残れり、」

承久3（1221） 承久の乱

承久の乱後佐久は新興の小笠原氏が勢力をふるう。時長は伴野氏を称し野沢平を中心に佐久南部域に、弟朝光は大井氏と称して佐久北部に大井城跡・長土呂・耳取・森山・平原・岩尾・上の城・燕城など勢力を拡大。

正中年間（1324～1326） 龍雲寺開山される。

臨済宗大智山と称し端下平（はげのたいら）にあり『四隣譚載』、正中年間に大井氏が浄学天仲国師を開山に請じて建てたという。室町時代初期には天仲国師は大井城主崇敬の四大寺（龍雲寺・安養寺・真光寺・慈寿寺）の長であった。『大田山実録』

建武2（1335） 中先代の乱

大井氏は同族小笠原貞宗や村上信貞と北朝側に属し、信濃の旧勢力である諏訪氏・滋野一党と対決。

正平10（1355） 桔梗ヶ原の戦い

南朝の敗北により、望月氏ら滋野一党に代わり大井氏勢力を伸ばす。

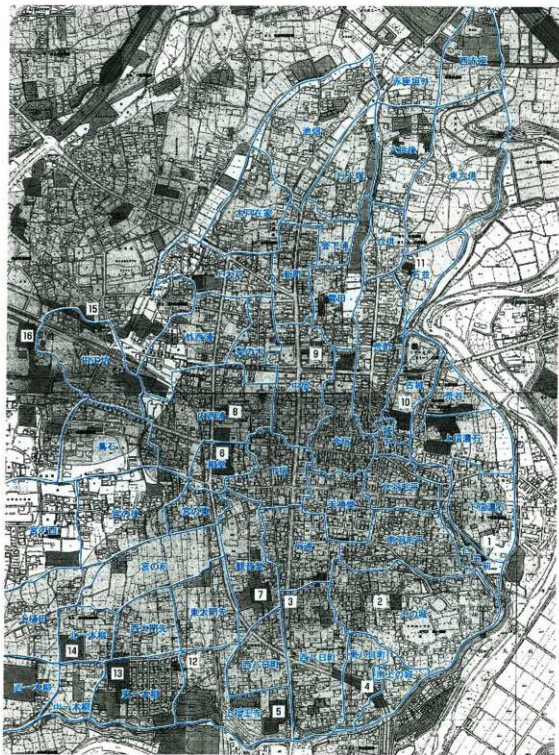
- 応永7 (1400) 大塔合戦
信濃の守護小笠原長秀と国人の盟主村上満信との戦いに人井光仲仲裁に入る。
- 永享8 (1436) 川西の芦田氏を家臣に組み込む。
- 永享9 (1437) 永享の乱 (鎌倉府の足利持氏と京都室町幕府との争い)
持氏の末子永寿丸を安養寺に置く。
- 永享12 (1440) 結城合戦
大井持光、永寿丸を支持し、反幕の姿勢を示す。
- 文安4 (1447) 永寿丸因東管領に補される
大井氏全盛期となる。
- 応仁元 (1467) 村上氏大井氏を攻め、大井原に破れ、甲州に逃れる。
- 文明3 (1471) 大井城主甲州より入部。『四隣譚載』
- 文明11 (1479) 作野・大井大乱
大井氏生け捕らえられる。大井氏と作野氏の抗争により、村上氏をはじめ甲斐武田氏の佐久進攻のきっかけを作る。
- 文明16 (1484) 村上氏に攻められ大井城陥落。城主大井長門守降参。
神社・仏閣・数千の民家灰となる。『四隣譚載』、龍雲寺大破、持持祥貞上野長源寺に帰る。『龍雲寺文書』
- 明応2 (1493) 龍雲寺住職を再任
長窟大井氏の大井玄慶 (はるよし) 端下平 (はげのたいら) より現在地に移し、上州後閑の長源氏に難を逃れていた天永祥貞に再任を願った。
- 明応3 (1494) 龍雲寺に帰山。
『旧地端下の平を捨て、(今端下の平に大井墳墓、且仁土門跡あり) 城西に寺を再造す、今の道場是也』『大田山実録』

第1表 周辺発掘調査遺跡一覧表

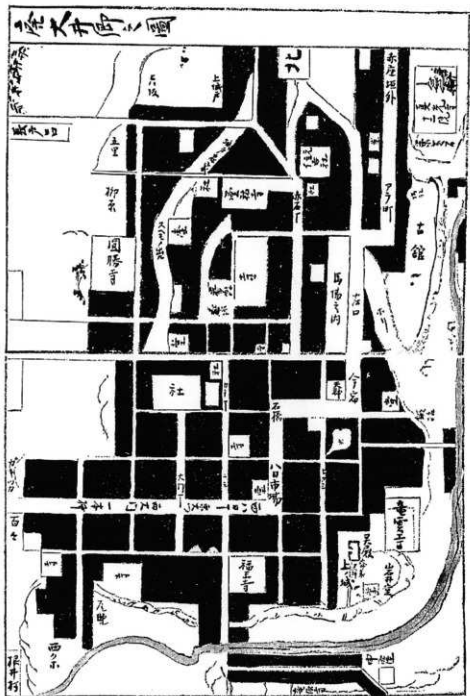
No.	遺跡名	所在	調査内容	成立年
1	下位濃石遺跡	岩村田仁王前	本報告書	
2	岩村田遺跡群上ノ城遺跡	岩村田上ノ城	竪穴住居古墳後6・奈良5、縄文陥し穴2、土坑1、竪中世1、火葬墓中世4	平成14年
3	岩村田遺跡群丹道遺跡	岩村田丹道	竪中世1	昭和54年
4	岩村田遺跡群上の城遺跡	岩村田上の城	竪穴住居古墳後15・奈良～平安34、特殊1、土坑131、溝7	昭和48年
5	岩村田遺跡群西八日町遺跡	岩村田西八日町	竪穴住居弥生7・奈良～平安139	昭和58年
6	岩村田遺跡群柳堂遺跡	岩村田柳堂	竪穴住居弥生2・平安1、獨立柱建物址2、竪穴建物中世33、土坑203、中世柱穴4300、井戸中世6、円形溝溝後2	平成10年
7	岩村田遺跡群観音堂遺跡	岩村田観音堂	竪穴住居平安1、竪穴建物27、土坑170、土坑墓4、溝3	平成9年
8	岩村田遺跡群内西濃遺跡	岩村田内西濃	竪穴住居古墳1、竪穴建物中世7、獨立柱建物址13、土坑15、井戸6	昭和64年
9	岩村田遺跡群中街遺跡	岩村田中街	竪穴住居古墳後3、竪穴建物中・近7、土坑10、墓壇2、特殊溝構1	平成9年
10	大井城跡重岩城	岩村田古城	竪穴住居古墳中・後15、竪穴建物54、土坑285、獨立柱建物址3、溝2	昭和58年
11	岩村田遺跡群六供後遺跡	岩村田六供後	溝1	昭和55年
12	一本柳遺跡群東一本柳古墳	岩村田東一本柳	金銅製馬具出土	昭和46年
13	一本柳遺跡群東一本柳遺跡	岩村田東一本柳	竪穴住居古墳後5	昭和46年
14	一本柳遺跡群北一本柳遺跡	岩村田北一本柳	竪穴住居弥生7・平安10、土坑51	昭和47年
15	枇杷坂遺跡群門正坊遺跡Ⅳ	岩村田門正坊	竪穴住居古墳中27・平安4・獨立柱建物址	平成11年
16	枇杷坂遺跡群清水田遺跡	岩村田清水田	竪穴住居弥生後10・古墳3	昭和53年

第4図の慶大井郷の図(『四隣譚載』)を見ると古澤孝謙は大井氏の頃(14・15c)の人通りは岩村田を南に下がり、西八日町あたりから一本柳を通って西に抜ける道と考えていたようである。龍雲寺の境内が東西3丁(1丁=60間108m強)古城より4丁離れているという和現在の小字名「南羽毛平」が該当地籍である。

弥生前期の遺物群が今回出土したが、該期の遺物は新発見である。弥生後期の赤色塗彩の上器や古墳時代後期・平安時代の上器がみられた。これらは台地上の土ノ城遺跡などの遺物の流失品であろう。



第3図 周辺溝跡分布図 (1 : 10,000)



第4圖 廣大井圖之圖

第三章 基本層序

岩村田は佐久平北部にあり、浅間山の噴出堆積物で形成され、軽石流堆積物は河川により浸食され急崖が切り立つ山切り地形が発達している地点である。本遺跡は台地東端にあたり、浅間山の東裾から流出した湯川に浸食された断崖が形成される急斜面地上にある。

この台地の基盤層は塚原泥流であり、その上に浅間第一軽石流(P1, 約1万3～4千年前)が厚さ30mほど覆っている。斜面地である本遺跡地点はその上面には湯川による水性堆積物である2次堆積層が乗っている。その堆積は傾斜地の上下により、堆積の厚さ種類が異なる。本調査地点の高い所では耕作上除去後40cm下がっても浅間第一軽石流に届かず4種の砂質・シルト質等の異なる褐色2次堆積層が基盤をなしている。低所はさらに浅間第一軽石流の2次堆積層の上に黒色土が乗って遺構構築面となっている。したがって遺構検出面の土層は地点に拠りことなり、一様ではない。

第Ⅰ層 耕作土

第Ⅱ層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂層。5cm大の礫含む。

第Ⅲ層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 砂礫層。

第Ⅳ層 にぶい黄褐色土層 (10YR 4/3) 砂礫層。

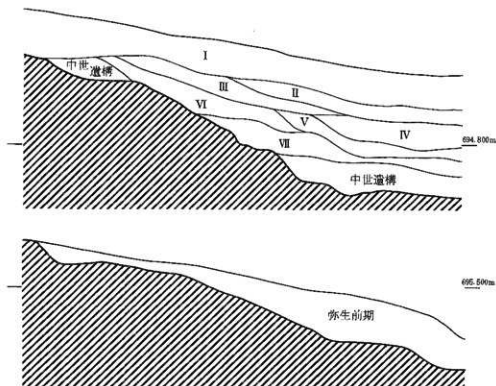
第Ⅴ層 黒褐色土層 (10YR 2/2) 砂質。砂礫多く含む。

第Ⅵ層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂礫多く含む。

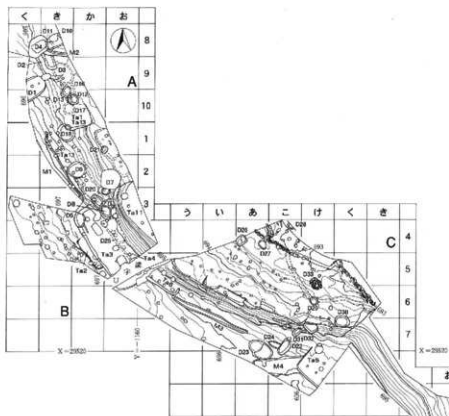
第Ⅶ層 黒褐色土層 (10YR 2/2) 炭化物中世遺物を含む。黒色強。

中世遺構覆土 黒褐色土層 (10YR 2/2)

弥生前期覆土 黒色土層 (10YR 1.7/1)



第5図 基本層序模式図



第6図 下信濃石遺跡全体図
(1:400)



端下平 (南羽毛平) 航空写真 (こうそく調整、1:2,500)



第Ⅳ章 遺構と遺物

第1節 中世

1. 寺院関連遺構（第7～14図）

1) T1号寺院関連遺構

調査区中央C・Bグリッド地点で検出された。斜面を1.2mほど切って削平し、低地を埋め、長軸23.2m×短軸8.4mの扇形の長細い平場を作り出し、埋上をした端は石積がなされている。石積の北の低地は水が湧き排水をしながら作業した。平場は水平ではなく崖から北と東に向かって低くなっている。

図示した平場の高さは、すべてが造成した当時と一致するものではないであろう。斜面地のため数回にわたる複雑な堆積があり、覆土の除去による整地面の検出が難しいことや整地した遺構面自体に流失した部分があるためである。埋め土をして平場を作っているため、遺構面が流失していた場合、覆っている上と整地面の土の色や質の差が明確でない。

石積から低くなった北側は6層の黄褐色の砂層により先に埋もれ平州となり（第7図のAセクション）、その後全体層序第Ⅶ層が平場全体を覆っていた状況がわかる。平場の北側が6層の砂により埋もれ平坦化した面も、土坑や柱穴が検出され（第26図 単独ピット）、石積を伴う平場より新しい時期の遺構面があり、使用されている。

平場面には、基壇とその前面に貼り床された敷きの床面（T a 7）・井戸・土坑・柱穴が検出された。

基壇は削平した壁下に3.7m×0.8mの長方形の台状に高まり低所側に埋め土をして作り出し、平場側の3方に河床の小礫（径10～30cm）を一列に並べ、10cmほど周囲より高くして平坦な壇を作っている。基壇両脇は幅2mほどの範囲がやや低くなり、さらに南側は幅1.8m高さ10cmほどの基壇状の土盛りが続いている。中央の石囲い基壇上面は、灰・炭化物層が覆っていた。中央基壇と脇の低い所の前面は壇から離れるにつれて明確ではなくなるが、長さ7.4mの長方形に貼り床がなされ、非常に堅致であった（T a 7）。

平場の基壇付近P1～P4に柱痕を持つ柱穴と礎石であろうかS1がある。しかし柱穴は建物址として組める位置になく建物の規模はわからない。他のピットは浅く単層であるため柱痕は確認できなかった。S1は礎石であろうか上面は平である。Kセクションのピット列は低い方に砂が袋状に入り込んでいる。

東側にあるD33号は石積の井戸で側に小土坑がある。井戸は径120cm深さ96cmの円形の掘り込みに河床礫を5～6段積み、井戸の内径は80cmを測る。常に湧水がみられた。井戸底には小礫が8個敷き込まれている。出土遺物はなかった。小土坑は隅丸方形の長さ98cm深さ29cmを測り、砂で埋もれていた。

平場の端は石積（第13図）がなされ、石積1は3.8mほど石積が途切れ、6.4m積み、西は調査区外に続いている。石積1は上面の石が一部北の低所に落ちている。標高693.90mに積み、74～96cm高さに大小の河床礫を4段積んでいる。東にかけて段数と高さが減り大きい石を一段並べたあと、石積みが途絶え、土のみの段となる。石積1の石が上段まで残る地点では、平場上面も堅致な面があったが部分的な残り方であった。さらに東に長方形に張り出して続く石積がみられる。この張り出した石積3と石積4は東の平場の終点まで続く。石積3は短く延長1.5mを測り、小礫を一段に並べる。石積4は7.2m、標高693.40mの標高あたりに、56cmの高さで2～3段積まれる。石積4は五輪塔の火輪が3個転用されていた。石積4は石積1に比べ50cm低い位置にある。

平場の造成は北側が幅5～5.6mほど異なる上により帯状に低所が埋め上されている。調査時、堀方埋土5層の帯状の砂層はプラン確認され、溝状遺構として掘り下げた所、断面が堀方の1～4層の下に入り込み遺構とはならず、埋め土の一部とわかった。この層は灰・炭化物・竹（大半は不明、シ

カの下顎)が多く、中世遺物の4、青磁刺西文碗、21、山茶碗系程ね鉢、84、鉄滓を出土する。これらの中世遺物は整地上面の中世遺物より、古い年代である。

石積1の内側には同方向に9.8m伸びる石積2が堀方から検出された。西はやはり調査区外に続く。標高693.50m~693.30mと東にかけて20cm低く積まれる。石積2は大きな石で一段に積まれる部分が多いが、小礫を40cm高さの3段に積む部分もある。中世の遺物を含む砂層の堀方5層は石積2の下部に入り込み、石積2の造成に伴うようである。さらに下層の堀方8層は多量の小円礫を含み、堀方5層は砂層であることから整地の際、平場の排水が考慮されて埋め土されていたのではと推測される。

石積の北側は低地で湧水が激しく、調査区城外で低地の北側はわからないが池ないし溝となっていた可能性も考えられる。埋もれた砂層を除去した底面では炭化物和灰の層があった。

出土遺物は青磁・青白磁・白磁・古瀬戸・山茶碗・中世須恵器・土師質土器・石製品・青銅製品・鉄製品がある。

基壇上面は灰や炭化物が残っており、それらはマツ栝とクリである。炭化米が基壇前の貼り床(Ta7)上面2カ所でも出土した。炭化米は木の状態で炭化し、771粒の米が数えられた。Ta7の床面またはやや上面からは、鉄製の釘や、古瀬戸灰軸瓶子、青磁蓮弁文碗・盤、白磁口禿皿・碗、褐釉壺、青白磁合子が出土する。

石積4の裏込にあたる、堀方11層より、土製と石製の基石が出土している。(P22へ続く)



T1号寺院関連遺構発掘(南より)



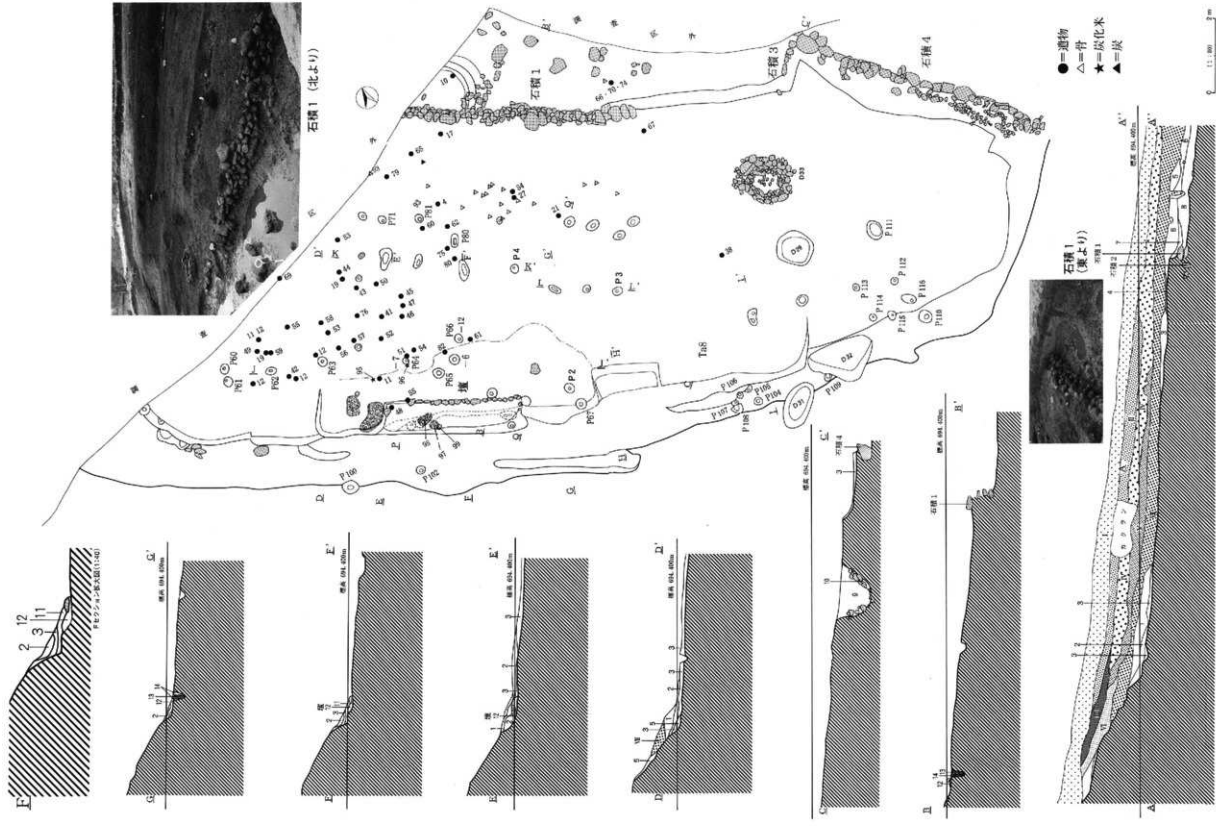
T1堀方(石積1・3・4除去後)(東より)



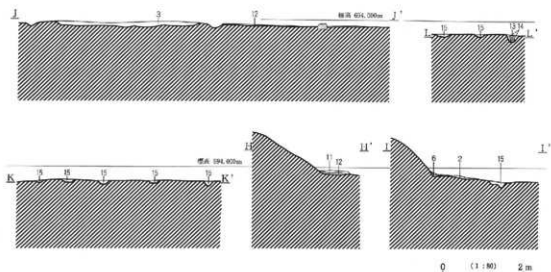
T1号寺院関連遺構(Ta7・Ta8)(南より)



D33号井戸址(南より)



第7図 T1号前期遺構(1)



- I. 緑色土。
 II. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 砂質、5cm大礫含む。
 III. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 砂礫層。
 IV. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
 砂礫層。
 V. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 砂質、砂礫多く含む。
 VI. 赤褐色土層 (10YR3/2)
 砂礫多く含む。
 VII. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 苔層より砂少なく、黒色土、
 炭化物粒子多く、中粒礫物
 多く含む。

- T1 礎土
 1. 赤褐色土層 (10YR2/2)
 V層より黒色土、炭化物多い。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 砂礫多く含む。
 3. 黒色土 (10YR1.7/1)
 砂、2cm大礫含む。
 黒色土ブロック含む。
 炭化物・灰多量に含む。
 4. 灰・泥層
 5. 赤褐色土層 (10YR3/2)
 砂多く含む。

6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
 砂質、1cm大の小石多く、
 2丁に5cm大礫含む。
 7. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 泥灰の砂礫含む。
 8. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
 6層より黒色土。
 9. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 砂質、上面礫あり。(D33)
 10. 赤褐色土層 (10YR3/2)
 砂質。(D33)

0 (1:80) 2 m

11. 黒色土層 (10YR1.7/1)
 堀山の黒色土を見る。(III)
 12. 黒褐色土層 (10YR2/3)
 砂質。
 13. 赤褐色土層 (10YR3/2)
 紅土。
 14. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 黒色土に砂含む。
 15. 赤褐色土層 (10YR3/2)
 砂。

第8図 T1号寺院関連遺構(2)



セクション (西より)



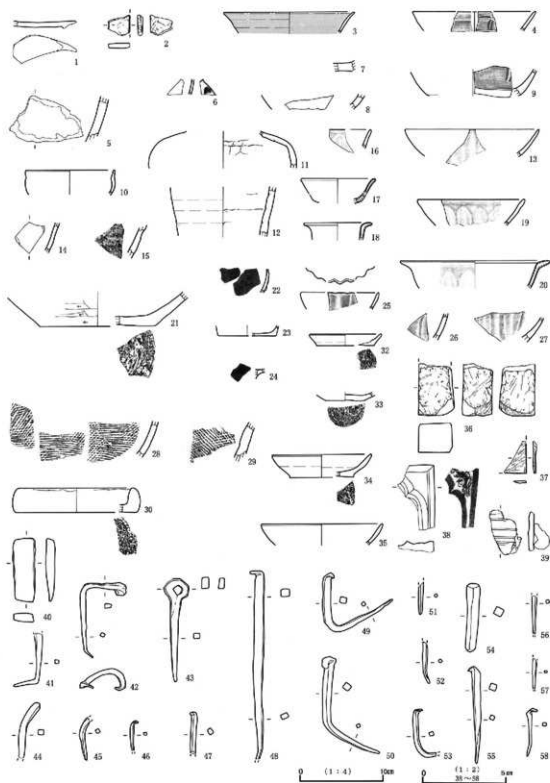
基壇とT a 7 (西より)



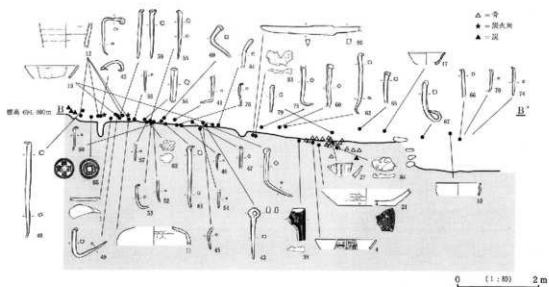
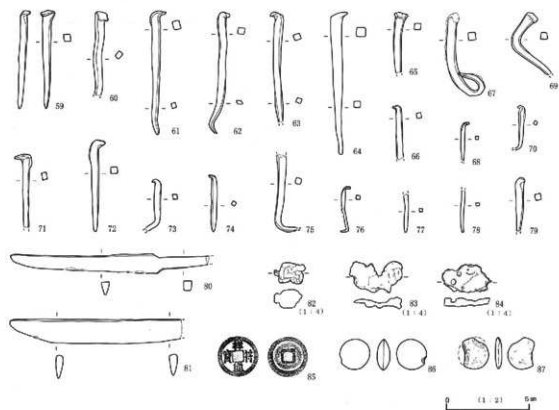
基壇完掘 (北より)



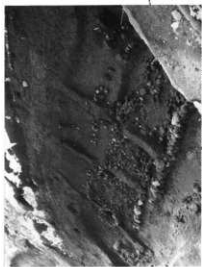
基壇とT a 7 (東より)



第9圖 T1号寺院開運遺構(3)遺物



第10図 T1号寺院関連遺構(4)遺物



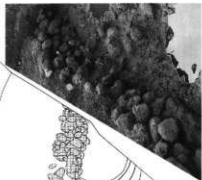
T1号寺院間道構造方(北より)



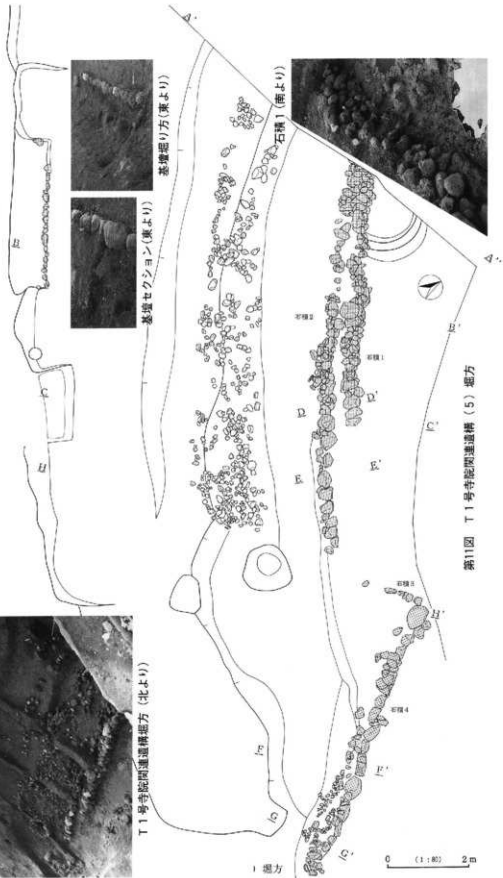
基礎セクション(東より)



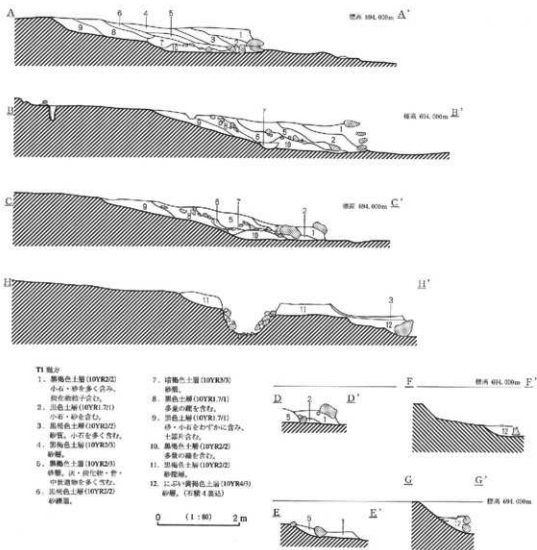
基礎掘り方(東より)



石積1(南より)



第11図 T1号寺院間道構造(5) 掘方



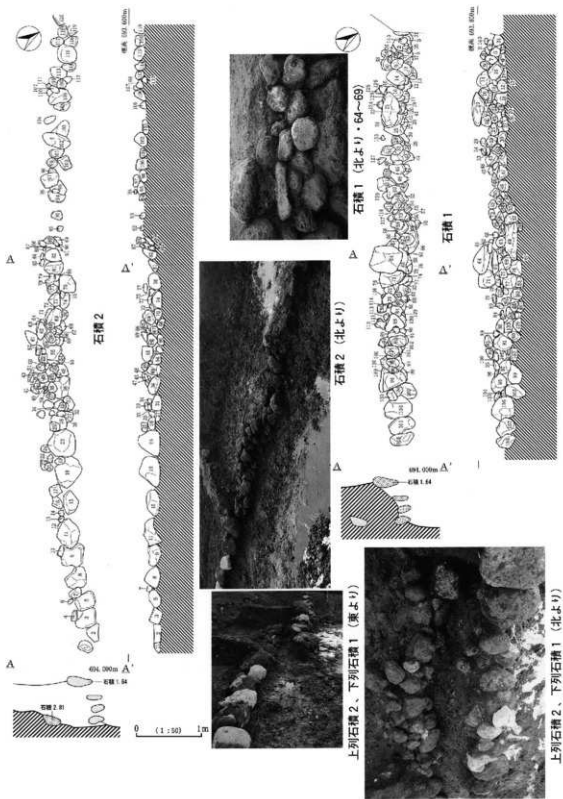
第12図 T1号寺院関連遺構(6)堀方



T1掘方Bセクション(南より)



T1掘方Cセクション(南より)



第13図 T1号寺院関連遺構(7)石積1・2



石積 4 (南より)



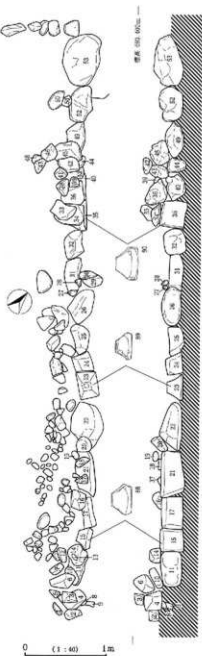
石積 4 (No35五輪塔の転用) (東より))



石積 4 (No35五輪塔の転用) (南より)



0 (1:8) 20cm



第14図 T1号寺院関連遺構(8)石積3・4

堀方6層からは青磁割西文碗・蓮弁文碗、山茶碗系捏ね鉢、鉄滓、80の鉄製刀子が出土する。また多くの骨片が出土し鑑定不可能な資料が多かったが、91は8～9歳のシカの頸部であることがわかった。

堀方6層の砂層中の遺物は13Cが後出であり、石積2に伴う初期の段階の平場造成と考えられる。Cけ6の堀方から出土した33のカワラケは、15C中頃とされており、石積2に伴う平場が先に作られ、後に石積1と3・4に伴う平場が拡張して形成されたようである。北側の石積1より上層から出土する遺物はT a 7付近の遺物の流失品とみれば、覆土Ⅶ層からは13～14C前半の陶磁器類、13～15C前半の中世須恵器の珠洲の壺、15C後半のカワラケがある。陶磁器類の時期は鎌倉時代にさかのぼるものがあるが、T a 7付近平場上面の遺物の下限は15C後半であり、焼失した時期にあたろう。

また石積に転用された瓦輪塔は15C後半には転用されている事から14～15C前半のものであろう。

2. 竪穴状遺構・竪穴建物址(第15～28図)

1) T a 1号竪穴状遺構

Aか10グリットで検出され、P33に切られる。斜面を削平し平場を作りだしている。柱穴はなく、斜面側の壁高48cm東西長320cmを測る。カワラケ・犬目茶碗片が出土するが、多く出土したのは古代の土師器・須恵器(第61図)である。

2) T a 2号竪穴状遺構

Bか4グリットにあり、大半がT a 3の上面に重なり、斜面上側ののみ壁が残存したが重複する低い方は流失する。長さ432cmを測り、幅72cmが残る。柱穴はP1が壁下にあったが他は明確ではない。出土遺物はない。

3) T a 3号竪穴建物址

Bか3グリットにあり、南側は一部排水溝に壊される。T a 2・T a 11、D5、P24に切られ、T a 4・D25を切る。斜面地を削平して平場を作りだし、炉・柱穴が検出された。

長軸10.88m幅残長3.72m、斜面側の壁残高56cmを測る。床面中央部はシルト質ブロックのしっかりした貼床があり、壁の周辺部は貼床がなく、周溝状に幅広く落ち込む。

主柱穴は南北方向に配列され、柱穴が2～3個重複し、柱穴は3間×1間、桁行き柱間は3.2mと長い。P10・P11・P22・P25は壁柱穴。その他の柱穴が多く、堀方からも検出される。

炉は北の東列柱穴間にあり、長軸88cm×短軸72cmの円形範囲に多量の灰を作っている。炉の北から105のカワラケが据え置かれた状態で出土する。

床下からは長方形の床下土坑が2基あり、D1は長さ160cm×幅88cm×深さ56cmを測り、土坑底面から鉄製角釘が出土する。D2は排水溝で長さはわからないが、幅96cm×深さ80cmの同形態である。

西の柱穴間には石組が検出され、長軸120cm幅68cm範囲に礫が組まれていた。覆土が浅く堆積土が同色でプラン・セクションでは重複関係が確認できなかった。本建物址を切っているかが明確ではない。床面は少し下がるが掘り込んだ様子はなく、床面を使用している。

出土遺物には白磁皿・古瀬戸水滴・古瀬戸瓶子・常滑の甕か壺・内耳・カワラケ・鉄製角釘・鉄製鎌・渡米銭・火打石が出土している。渡米銭3枚の内初鋳年が新しい「洪武通寶」は1368年である。床面から出土する100・105のカワラケの年代は15C前半とされる。104のカワラケは検出面であり、混入品であろう。103のカワラケは器肉が薄く、胎土の精製された精製品である。アカニシのような大型巻貝が出土する。

古瀬戸灰釉水滴は石組の脇から出土する。石組が、本址に伴うか、新しい遺構であるのか明確ではないが南北朝期のものである。

4) Ta 4号竪穴状遺構

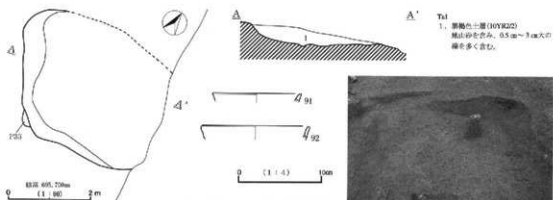
Bお4グリットにあり、Ta 3・11、D25に切られる。南は現代の排水溝によりわからないがTa 6に切られる可能性もある。南北残長248cm幅90cmを測る。P 1の壁柱穴がある。D25のP 1も本址の壁柱穴であろうか。

出土遺物はない。

5) Ta 5号竪穴建物址

Cけ8グリットにあり、調査区域外と傾斜のため明確ではないが東西は444cmを測る。床面は敲かれて堅致であるが、P 2から東の低い地点は貼り床があり、床下土坑が設けられる。P 2とP 3の間に炭化物粒子を多量に含むが址があり、柱痕を持つP 1からP 4が検出された。

出土遺物はカワラケ、内耳、砥石が出土する。カワラケは15C後半とされる。



第15図 Ta 1号竪穴状遺構

Ta1完掘（北より）



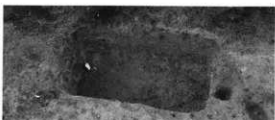
Ta 3炉完掘（南より）



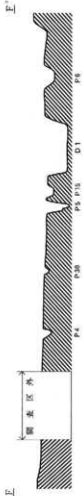
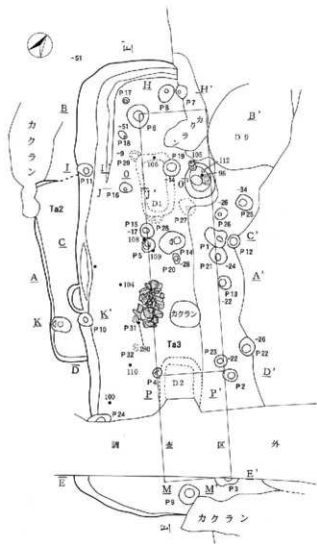
Ta 3集石（西より）



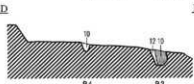
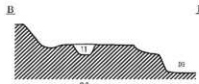
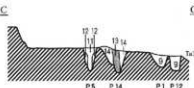
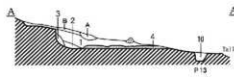
Ta 3床下土坑 D2（南より）



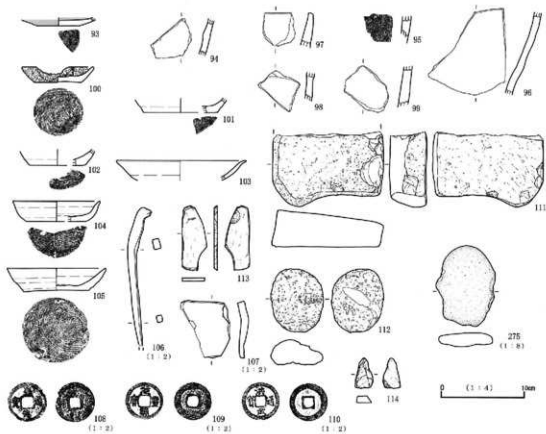
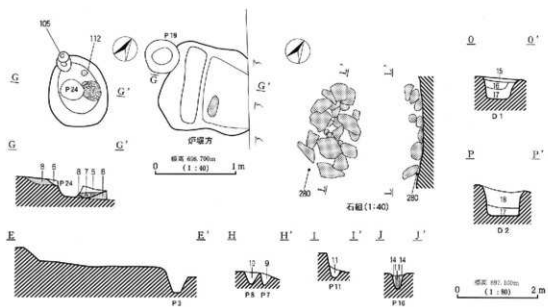
Ta 3床下土坑 D1（西より）



- Ta2
- A. 黒褐色土層 (10YR2/2)
炭灰質、小石、砂を含む。
 - B. 濃い灰褐色土層 (10YR4/3)
砂質。
 - C. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂、シルトブロックを含む。
 - D. 濃い灰褐色土層 (10YR4/3)
シルトブロック主体。
- Ta3
- 1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂質、砂、小石、 ~ 3 cmの礫を含む。
 - 2. 濃い黄褐色土層 (10YR4/5)
砂質、1層より堆土砂が多い。
 - 3. 褐色土層 (10YR4/4)
砂質、シルト砂子を含む。
 - 4. 濃い黄褐色土 (10YR4/3) ないし褐色土 (10YR4/4) のシルトブロックの堆積。
 - 5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2)
炭灰、炭灰質、砂+砂子を含む、上面に堆土 (7.5Y4/4) あり。
 - 6. 赤色土層 (10YR2/1)
炭灰海砂子を多量に含む。
 - 7. 褐色土層 (7.5YR4/4)
粘土。
 - 8. 暗褐色土層 (10YR3/3)
ロームブロックを含む。
 - 9. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂、シルトブロックを含む。
 - 10. 黒褐色土層 (10YR3/2)
堆土砂を含む。
 - 11. 暗褐色土層 (10YR3/3)
砂を多く含む。
 - 12. 濃い灰褐色土層 (10YR4/2)
砂、シルトブロックを多量に含む。
 - 13. 濃い黄褐色土層 (10YR4/3)
砂質。
 - 14. 濃い灰褐色土層 (10YR4/3)
シルトブロック主体。
 - 15. 濃い黄褐色土層 (10YR4/3)
ロームブロック主体。
 - 16. 暗褐色土層 (10YR3/4)
ロームブロックを多量に含む。
 - 17. 褐色土層 (10YR4/4)
砂質、ロームブロックを含む。
 - 18. 濃い黄褐色土層 (10YR4/3)
ロームブロック主体、まれに暗褐色土ブロックが入る。



第16図 Ta2・3号竪穴建物址



第17图 Ta 3号双穴建物址(2) 遗物



T a 3 掘方 (北より)



T a 3 掘方 (南より)



T a 3 セクション (北より)



T a 3 完掘 (北より)



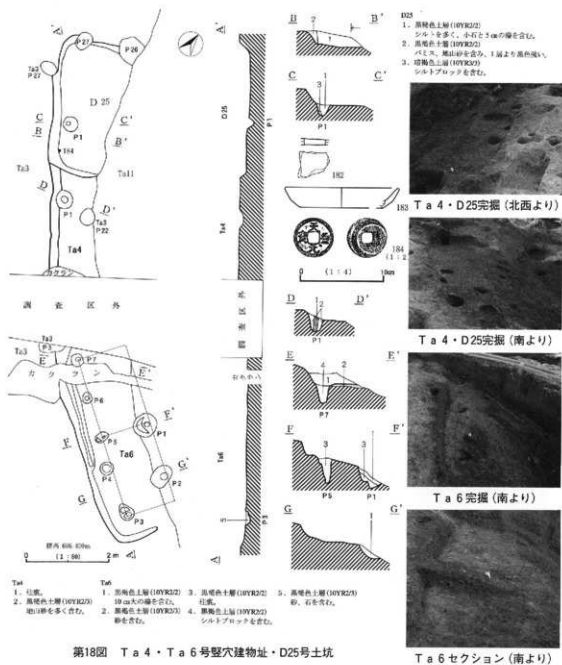
T a 3 集石 (北より)



T a 3 水滴 (南より)



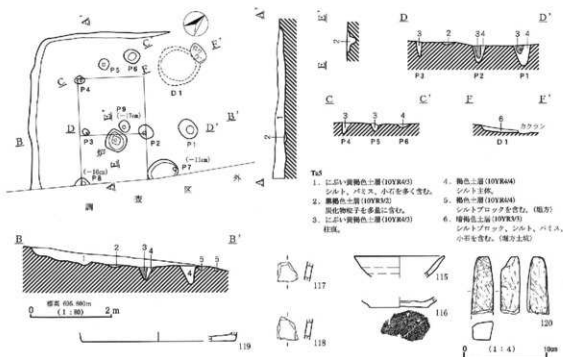
T a 3 水滴 (南より)



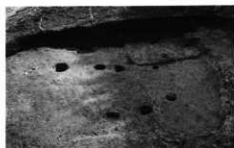
6) Ta 6号竪穴建物址

Bえ5グリットにあり、南北残長440cm、東西残長138cmを測る。Ta 4を切り?、T 1号寺院関連遺構に切られる。P 5・P 6は50・60cmの深い柱穴である。

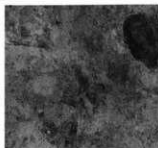
出土遺物は土師器甕・灰釉陶器碗の破片がある。



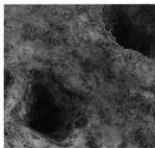
第19図 Ta 5号竪穴建物址



Ta 5 完掘 (北西より)



Ta 5 炉範囲 (南西より)



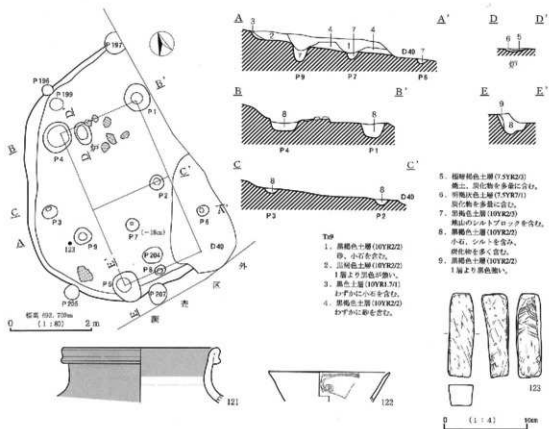
Ta 5 炉掘方 (東より)



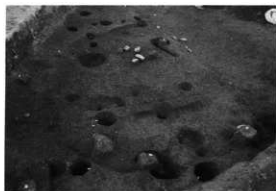
Ta 5 掘方 (北西より)



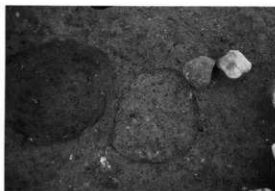
Ta 5とM4 (北より)



第20図 T a 9号竪穴建物址



T a 9完掘 (南より)

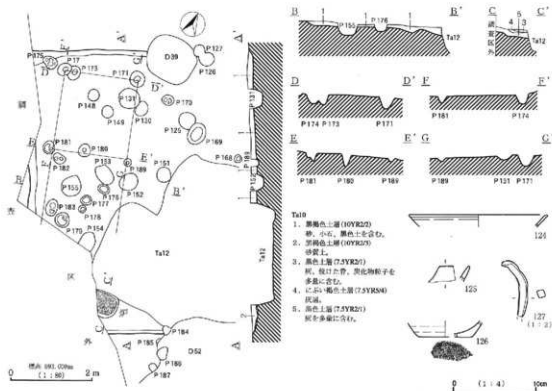


T a 9炉範囲 (南より)

7) T a 9号竪穴建物址

Dい5グリットにあり、D40、単独ピットに切られる。南北528cm東西残長400cmを測る。形態は半円形に近い。AセクションをみるとP9の西で1層が切れていることからT a 9は、ここが壁にあたり、2層は重複遺構である可能性を持つ。1層がT a 9の覆土であり、床面と推定される。堅致な床面はない。P4の東に炭化物粒子を多量に含む長径64cm深さ4cmの楕円形の浅い坑があった。柱穴の柱痕はわからなかった。

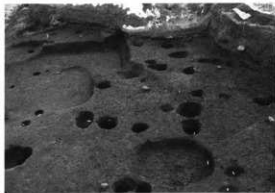
出土遺物には常滑壺、銅西文青磁碗と砥石がある。常滑は13C後半～14C前半の資料である。混入品として安山岩製石織 (第61図) が出土する。



第21図 T a10号竪穴建物址



T a10焼土セクション(東より)

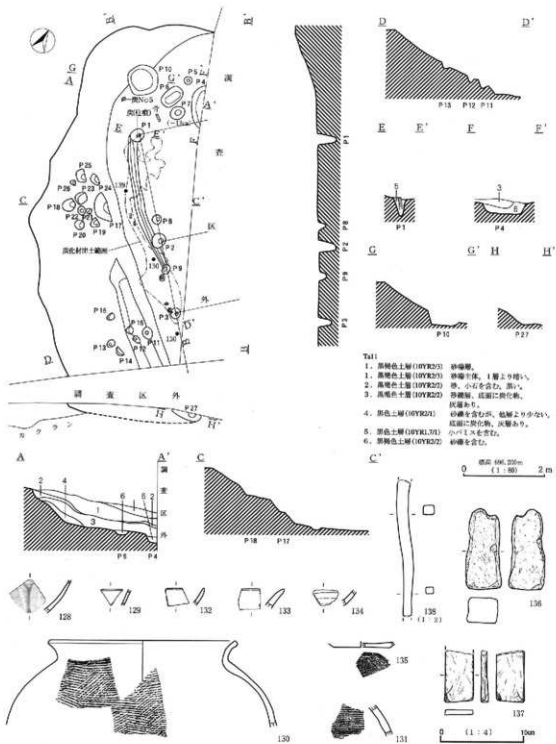


T a10完掘(北より)

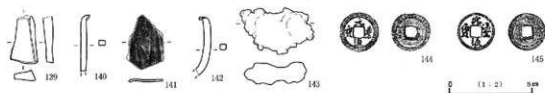
8) T a10号竪穴建物址

Dラ1グリットにあり、T a12、D39・D48・D52、単独ピットに切られる。調査区域外もあり、形態規模はつかめないが、灰が南西から検出され大量の灰を含んでいた。床面はやや縮まっており、関連線のピットが建物址と推測されるが明確ではない。

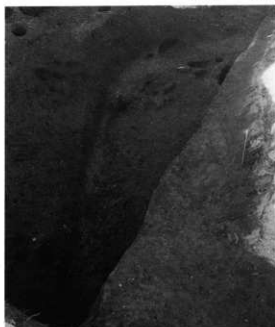
出土遺物には灰釉陶器とカワラケ、鉄製角釘がある。灰釉陶器は平安時代の混入品。カワラケは15C後半である。形態が正確につかめたとは云えないが竪穴建物址があったことは確かである。



第22図 Ta11号竪穴建物址(1)



第23図 Ta 11号竪穴建物址 (2)



Ta 11炭化材出土状況 (南より)



Ta 11完掘 (南より)



Ta 11完掘 (北西より)



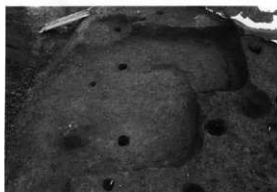
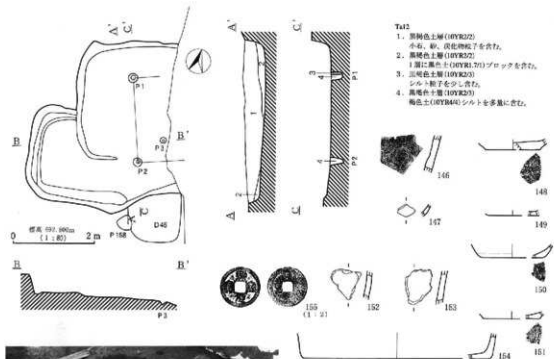
Ta 11炭化材と骨 (南より)



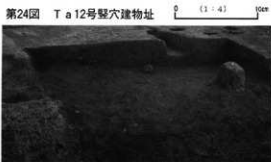
Ta 11P 1 (炭化した柱痕) (南より)

9) Ta 11号竪穴建物址

Bお3グリットにあり、東は調査区外、Ta 3・4、D25を切る。斜面を削平し平場を作りだし柱穴が設けられている。削平した壁高は高い所で144cmを測る。壁には重複した遺構のピットもあるだろうが足場として階段状に小テラスが残っていた。主柱穴はP 1からP 3で、柱痕がみられた。P 1は炭化した柱材が炭化材としてわずかに残り、樹種同定の結果スギであることが判明した。また西の壁下床面上に多量の炭化材・灰がみられた。これらの炭化材もスギである。P 4・P 10など土抗状の落ち込みもある。出土した骨はウマの手中骨であり、体高115cm以上のウマであったと推定される。



T a 12完掘 (北より)



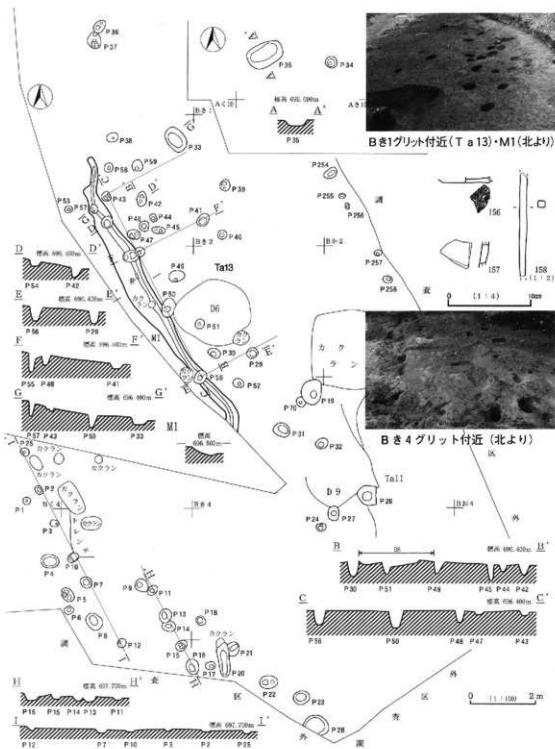
T a 12セクション (東より)

出土遺物には青磁蓮弁文碗、山茶碗、珠洲の壺、カワラケ、砥石、鉄製楔・角釘、渡来銭がある。カワラケは15C後半であり、本址は他の遺構を切っていることから15C後半最終の遺構であろう。

10) T a 12号竪穴建物址

Dう1グリットにあり、D46・単独ピットに切られ、T a 10・D52を切る。東は急斜面に削りとられてない。2つの長方形が重なり合う形態で、南側がやや浅く出入り口の張り出しと考えられる。間口184cm、奥行き240cm、北側の南北は264cm東西残長218cmを測る。出入り口を合わせた南北長は336cmである。P 1・P 2の柱痕を持つピットがあり、柱間は204センチである。床面は縮まっていた。

出土遺物には常滑甕、カワラケ、内耳、渡来銭がある。カワラケが15C後半であり、遺構も同期であろう。

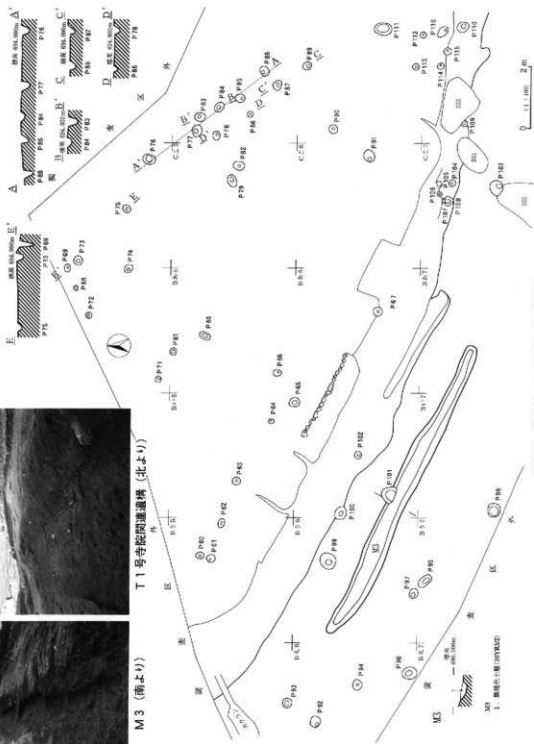


第25図 Ta13号建物址・単独ピット(1)・M1号溝址

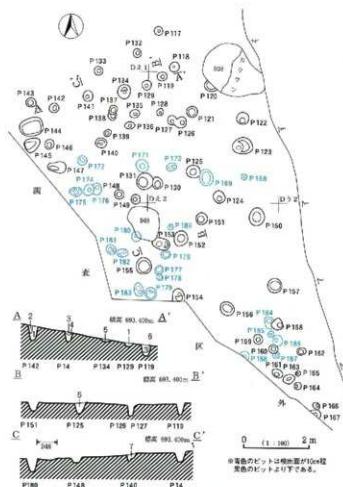


M3 (南より)

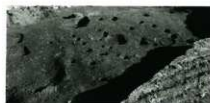
T1号寺院関連遺構 (北より)



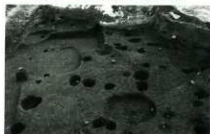
第26図 単株ピット(2)・M3号溝址



第27図 単独ピット (3)



Dう1・2グリット (西より)



Dう1~3、Dえ1・2グリット (北より)



0 (1:4) 10cm

甲類ピット群

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂、小石を多く含む。 | 5. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂を多く含む。 |
| 2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
褐色土層状。 | 6. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂に黒色土を含む。 |
| 3. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂、小石を多く含む。 | 7. 黒褐色土層 (10YR2/2)
粘土体。 |
| 4. 黒色土層 (10YR1/3)
三色土に砂を含む。 | |

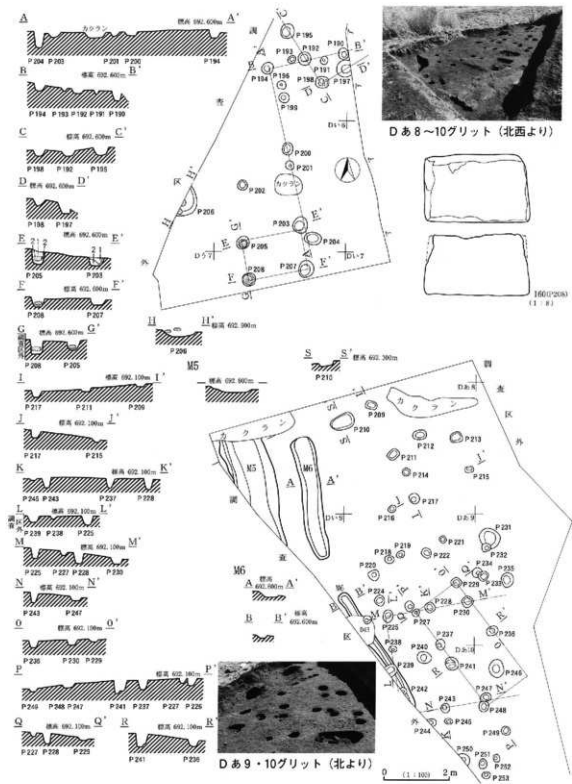
11) T a 13号竪穴建物址

Bき1グリットのM1とその東側にある単独ピットP29~59は竪穴建物址であろうか。床面や削平面は斜面のため流失したと考えられる。柱痕を持つ深いピットがみられ、南北3間×東西1間の掘立柱を持つ建物址が想定される。M1は周溝とみられ、M1から出土した骨はウマの頭骨で体高120~125cmのウマとされる。

3. 単独ピット (第25~29図)

本調査で258個の単独ピットが検出された。それらの内、調査区北のP29~59はM1との配置から建物址として、T a 13とした。他にも柱穴が密集列に並ぶものの、形態・規模が捉えられないことから建物址として報告できなかった。

Dう・え1~3グリットは2面からピットが検出され、上面からはB・Cセクション列に3間×1間(450cm×230cm)の建物址であろう配置がみられる。Dい7グリットのP203・P205・P207・P208は東西1間×南北1間(180×120cm)の長方形に配置され、径40~50cm深さ20~30cmを測る円形のピットである。西側は160の五輪塔地輪を転用した礎石や扁平な河床大礫を礎石とした。この南は木舗装の道路であるため調査できなかった。上の城へ上る坂道で、登り口にある調査区の東隣の畑からは五輪塔・宝篋印塔などがばらばらに積まれていた(巻頭一)。仁王門の字名にあたる、門



第28図 単独ピット(4) M5・M6号溝址

の跡であろうか。

Dあ9・10グリットにもピットが密集し建物址が想定される。

4. 土坑 (第29～34図)

47基の土坑が検出された。これらを用途・性格から分類し、次に規模・形態等からみる。

1. 井戸址—D4・D33

D33は円形に近い楕円形のプランの上坑で、U字形の土坑断面に沿って川原石を積み上げる。石積断面は直立せず逆ハの字形になる。底面にも礫を入れ置いている。深さは比較的浅い。D4は掘り込みに沿って円形に3段河床礫が積みられ、底面にも石を敷いている。西側の石積を除去すると壁が湧水により崩壊するほどの水量であった。15C中頃の内耳の口縁と底部が出土する。

2. 竪穴状遺構の性格に近い土坑—D1・D2・D3・D9・D10・D23・D25・D40・D41・D52

基調としては方形であるが角は丸みを持ち、楕円形に近いものもある。壁面は垂直に近く、底面は平積である。D1・D9・D23・D52は貼床ほどではないが底面に敷き状の縮まりがみられた。底面が段差をもって2段になるものはD2・D3・D10・D23・D40がある。規模は長軸長・短軸長が2mを越えるものである。遺物を伴う遺構が多い。

3. 埋葬土坑 D51

近代と推定されるウマまたは牛の幼児骨が出土する。他に埋葬土坑とみられるものはない。

4. 性格不明の上坑

A. 方形または方形に近い隅丸長方形の土坑

—D36・D39・D26 (長軸長101～132cm、短軸 長76～104cm)・D46・D32

B. 隅丸長方形の上坑

—D7・D42・D45・D37・D47・D30 (長軸長126～182cm、短軸長74～128cm)

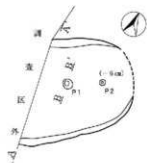
C. 円形または円形に近い楕円の土坑

—D21・D29・D48・D27・D35・D12・D17・D38・D44 (長径84～156cm)・D6・D18 (長径208・216cm)

D. 長楕円の上坑

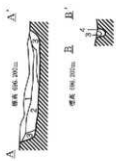
—D31・D13・D8・D11・D20・D5・D16・D22 (長軸長128～208、短軸長71～116cm)

D1

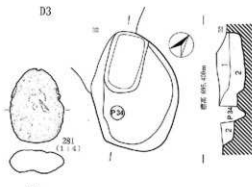


D1

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
やや砂質で、5mm以下の小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
1層に黒褐色土ブロックを含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/2)
地山のほうろけ・黄緑土 (10YR6/3) を多く含む。
4. ほうろけ黄褐色土層 (10YR4/3)
油山土ブロック、小石を含む。



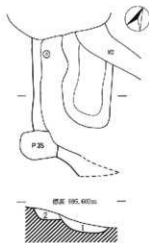
D3



D3

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂質土。小石を多く含む。ところどころに黒色土ブロックを含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂質土。小石を多く含む。

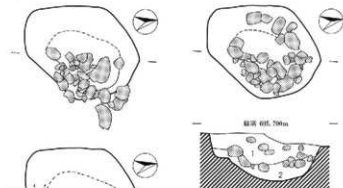
D2



D2

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂質土。0.5～2cm以下の小石を多く含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/2)
地山の黒色粘土を多く含む。

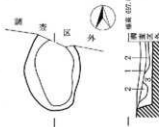
D4



D4

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂、小礫を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
1層より5mm以下の礫を多く含む。

D5



D5

1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂質。0.5～1cm以下の小石を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
1層より地山砂を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)
黒色土を含む。砂質。

D6



D6

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂質。小石を多く含む。腐土、炭化物残片を含む。

0 (1:40) 2m

第29図 土坑 (1)



標高 496.200m



D7

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂質, 0.5~3cm大の小石, 地山砂を含む。

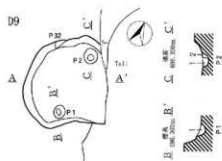


標高 495.700m

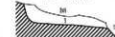


D8

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂礫質, 砂, 小石を多く含む。

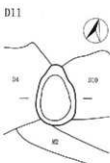


標高 496.300m



D9

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
0.5~3cm大の小石を多く含む, 地山砂を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂を含む, (礫少ない)



標高 494.300m



D11

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)

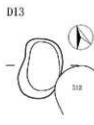


標高 495.400m



D12

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
シルト質土を多量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
細砂・砂質。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂, 小石を含む。

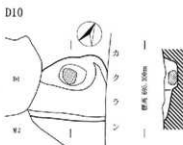


標高 495.400m



D13

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂, 小石を多く含む。

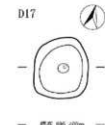


標高 495.300m



D10

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
シルト質土を含む。



標高 495.400m



D17

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
2mm大の礫を多く含む,
小石, 礫を含む。

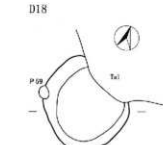


標高 495.400m



D16

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
0.5~3cm大の礫, 砂を含む。



標高 495.000m



D18

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
小石, 礫を多く含む。



標高 496.200m

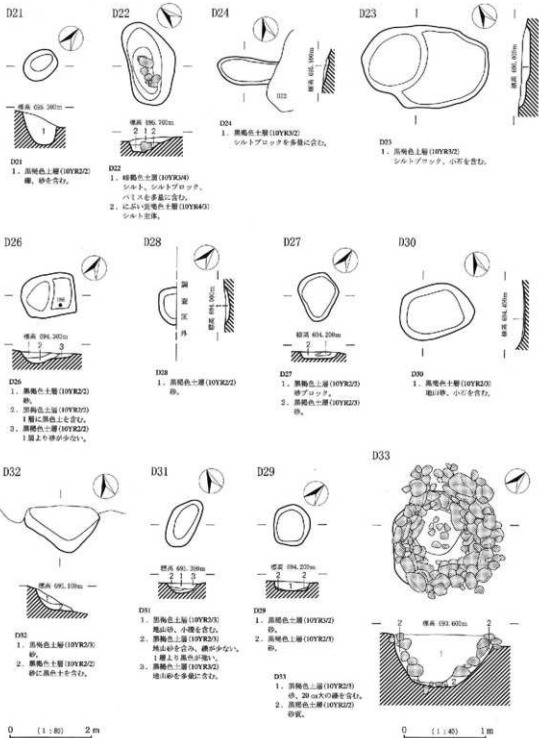


D20

1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
地山砂, 礫を含む。

0 (1:80) 2m

第30図 土坑 (2)



第31図 土坑 (3)



- 標高 402.90m
- D35
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
小石、砂を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
シルトを含む。



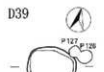
- 標高 402.90m
- D36
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
シルト、礫を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
黒色土、～5cm大の礫を含む。



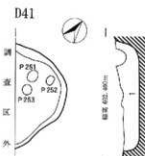
- 標高 402.300m
- D37
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂、小石を含む。



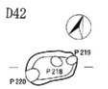
- 標高 402.700m
- D38
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
黒色土ブロックと砂が混在。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
礫に3cm大の礫を含む。
3. 黒色土層 (10YR1.7/1)
黒色土土塊。



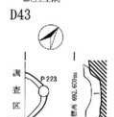
- 標高 402.960m
- D39
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂に黒色土を含む。



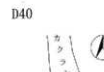
- 標高 402.400m
- D41
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂礫層。



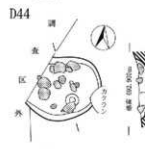
- 標高 402.300m
- D42
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂礫が多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
黒色土を含む。



- 標高 403.620m
- D43
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂礫を多く含む。



- 標高 403.400m
- D40
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
小石、砂を含む。



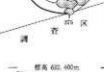
- 標高 402.900m
- D44
1. 黒色土層 (10YR2/2)
シルト、小石を含む。



- 標高 402.200m
- D45
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
黒色土を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
ペリス、砂を含む。



- 標高 403.700m
- D46
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
塊山、小石、炭化物を含む。
(炭団に塊と炭あり)



- 標高 403.000m
- D48
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂、小石を含む。下面に炭、炭化物が散らばる。



- 標高 402.400m
- D49
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
砂、小石、炭化物を含む。

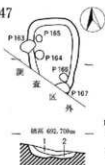


- 標高 402.300m
- D51
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)

0 (1:80) 2m

第32図 土坑 (4)

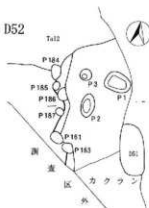
D47



D47

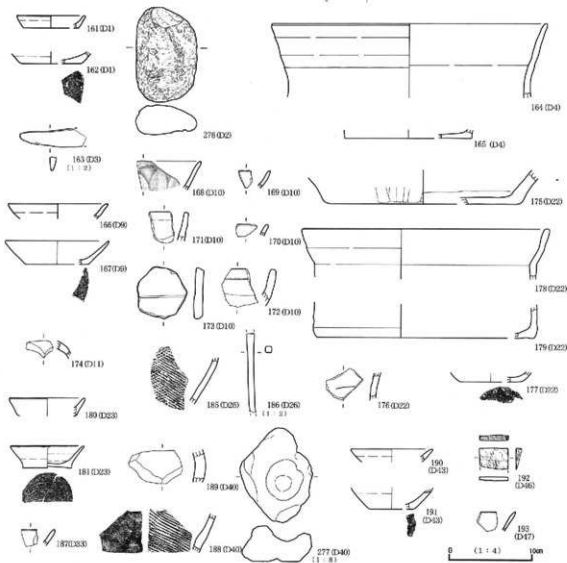
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂、小石を含む。
2. 黒色土層 (10YR1/1) 黒色土主層。

D52

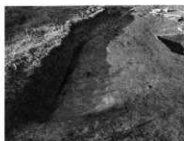


D52

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂。



第33図 土坑(5) 遺物



D 1 完掘 (南より)



D 2 セクション (南より)



D 2 完掘 (南より)



D 3 セクション (西より)



D 3 完掘 (東より)



D 4 東側石組出土状況 (東より)



D 4 西側石組出土状況 (南より)



D 4 セクション (東より)



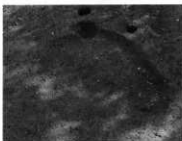
D 5 セクション (東より)



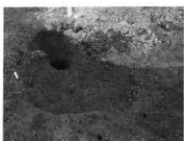
D 5 完掘 (西より)



D 6 セクション (南より)



D 6 完掘 (北より)



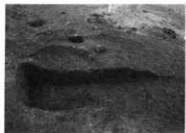
D 7 完掘 (南より)



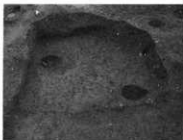
D 8 セクション (南より)



D 8 完掘 (東より)



D 9 セクション (南より)



D 9 完掘 (東より)



D10完掘 (北より)



D11完掘 (南より)



D12セクション (南より)



D13セクション (東より)



D12・D13完掘 (東より)



D16セクション (南より)



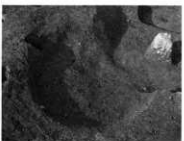
D16完掘 (西より)



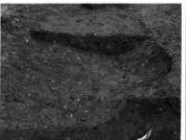
D17セクション (南より)



D17完掘 (西より)



D18完掘 (南より)



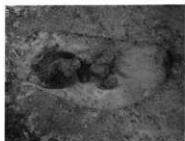
D20セクション (南より)



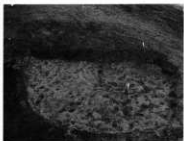
D20完掘 (西より)



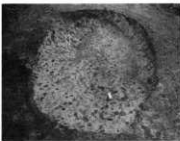
D21完掘 (北より)



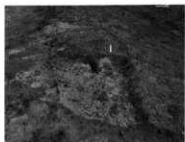
D22完掘 (南より)



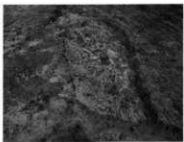
D23セクション (東より)



D23完掘 (南より)



D24セクション (東より)



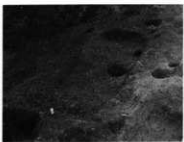
D24完掘 (東より)



D25セクション (南より)



D25出土古銭 (天聖元寶)



D25完掘 (北西より)



D26 1・2層セクション (南より)



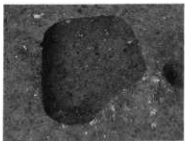
D25 1・2層完掘 (南より)



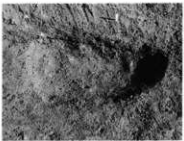
D26拡張セクション (南より)



D27セクション (南より)



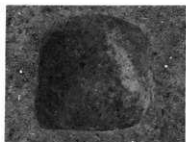
D27完掘 (南より)



D28完掘 (西より)



D29セクション (南より)



D29完掘 (南より)



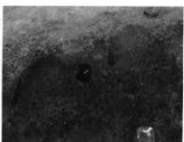
D30完掘 (西より)



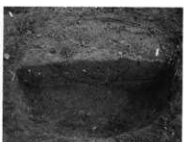
D31セクション (南より)



D32セクション (東より)



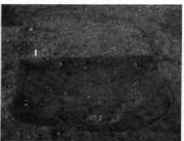
D31(右)・D32(左) 完掘 (北より)



D35セクション (北より)



D36セクション (南より)



D37セクション (南より)



D35～D37完掘 (西より)



D38セクション (南より)



D38完掘 (西より)



D39セクション (南より)



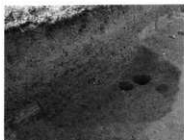
D39完掘 (北より)



D40礫除去後セクション (南より)



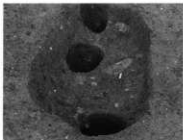
D40礫出土状況 (東より)



D41完掘（東より）



D42セクション（南より）



D42完掘（西より）



D43セクション（東より）



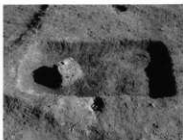
D43完掘（西より）



D44礫出土状況（南より）



D44完掘（南より）



D45完掘（西より）



D46完掘（北より）



D47完掘（西より）



D48完掘（東より）



D49セクション（東より）

5. 溝址（第34図）

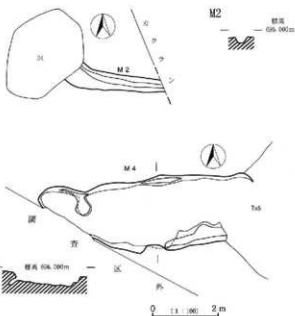
本遺跡からは6本の溝址が検出された。

M1は竪穴状遺構の周溝とみられることからT a 13と関連するものとした。

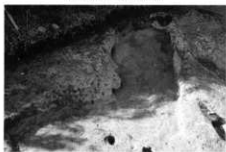
M2は調査区北側のD4に接続する小溝でD4は井戸址とみられることから排水溝かと思われる。

M3はT1号寺院関連遺構の削平地の上でテラスに沿っており、斜面からの水がテラスに流れ込まないための排水用の溝であろう。D24もM3の延長であろうか。

M4は寺院関連遺構上面のテラス上にあり、幅が200cmの深さ40cmの砂礫を含む溝である。砂礫が



M2完掘(南より)



M4完掘(東より)

第34図 M2・M4号溝址

底面をえぐり、洞(うろ)があり、かなりの水量が想定される。T a 5に切られ消滅している。底面は全体的には平坦であることからかつては道路であった可能性も考えられる。

M5・M6は調査区南のDい8グリットにあり、斜面上部の等高線と併行して南北延びている。

6. グリット・表採出土遺物(第35~36図)

検出時に多くの中世遺物が出土している。斜面地であるため、出土地点が必ずしも下の遺構とは一致せず、上部からの流出した遺物が多いであろう。主な遺物の出土地点をみる。

北側ではD4の井戸址があるAく8からは白磁の碗、D3・D16のAか9からは元祐通寶・元豊通寶の北宋銭2枚、内耳の口縁が出土する。Aか10はTa1地点であるが194青磁壺・195白磁皿・197古瀬戸灰釉平碗が出土する。Bお1・2グリットからは207青磁碗、204青磁小杯、常滑甕、Bき2から217・218(手捏)カワラケが出土する。斜面上にあるT a 13の遺物の流出か。13~14C前半の遺物である。

Bか4はT a 3地点で、209~213・220のカワラケが7点集中する。220は器内が薄く胎土が細かい精製品である。Ta3の上、Bきく3は本調査で最も標高の高い670mを測るやや傾斜の緩い地点で、ピットはあるが建物址はない。カクランのからも中世遺物が出土した。203・261天目茶碗、226泉宋通寶、214・215の内耳、230砥石、22・229の不明鉄製品がある。

Bあ4・5のT1号寺院関連遺構上面からは225銅佛?の青銅製品、221天目茶碗、222珠洲壺、224カワラケがある。

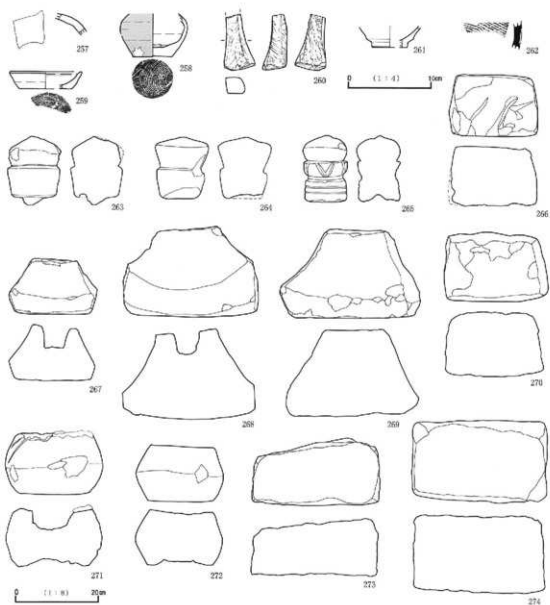
南側Dう・え2はTa10・12地点で、233青磁蓮弁文碗、237カワラケ精製品、242・243内耳がある。D44付近のDう6からは245太平通寶、Ta9の上斜面、Dい6からは220・238のカワラケ、角釘が出土する。Dい8・9のM5・M6付近からは232古瀬戸灰釉鉢・235常滑壺がある。14C代の遺物である。Dあ9からは241・244内耳・236カワラケ・246至和元寶がある。

地点は明確ではないが258古瀬戸灰釉壺(13C)はB・Cグリット遺物である。

263~274五輪塔・寶篋印塔の部材は、Dあ6の削平され一段下がった畑の隅に集められていた。巻



第35図 中世グリット出土遺物



第36図 中世グリット・表採出土遺物

頭一に掲載したが端下平（羽毛平）への道の登り口の北にある。五輪塔はカクランの上に乗し、元の位置を留めるものではない。

グリットからは13-15Cの遺物（五輪塔は16C代のももある。）と近世・近代の（遺物は図版四に掲載）がある。中世の遺物の青銅製品・青磁壺・古瀬戸灰釉瓶子・天目茶碗・精製のカワラケなど一般集落にみられない遺物が出土している。

第2節 弥生前期(第37~60図)

調査区北側、Bお1・Bか1・Bお2・Bか2グリットの斜面地、黒色土層中から黒曜石・土器が集中する。テンパコにして10箱ほどあり、中世の遺構や現代の井戸に破壊を免れた8m×12m範囲の傾斜地から出土する。斜面地で遺物の集中が予測できず、高い所(西側)の黒色土層中の遺物はグリットで一括し、ことに遺物が集中した所を点で取り上げた。黒色土は西側の標高696.06m地点から堆積し、遺物の集中は標高695.74~694.75mの斜面上である。遺物群は黒色土上層部に多く、下は少なかった。黒色土除去後は上下に2つの平場状のテラスとなった。掲載した遺物はこのブロック以外の黒色土や他の遺構、中世層からの該期と思われるものも掲載している。出土地点は一覧表を参照されたい。

黒色土層中の遺物の平面分布は北側では捉えられたが、南は現代の井戸とD9・T a 11の中世遺構に破壊されているため不明である。

遺物が元位置を留めているかについては72の壺・113の壺・253の甕などとみると同一個体が上下に分散し、大きな破片が低位置にあり、出土地点は元位置を留めていないようである。

元位置ではないがこの黒色土層中の遺物が一括資料として扱えるかは、上層の中世層の砂層とは明確に色・質が異なり、中世層下であること。遺物にはいくらかの混入品があるが、中世のビットやカクランが重なる場合、中世遺構を見落とすことがあり、わずかな混入はあり得る。混入した資料は弥生後期の赤彩された鉢・壺・土師器片である。遺跡内に時代的に近接する遺構の重複がなく、黒色土層中の遺物はほぼ一括の資料といえる。

出土遺物は弥生前期の土器、土偶、石器である。石器については第V章第3節「下信濃遺跡出土の石器群について」で馬場伸一郎氏が総括している。ここでは土器について述べる。

同じ器種で形態のことなるものがみられるものを大まかに分類する。

壺 口縁部形態から分類する。

壺A 口縁が直立し、端部が外反。21・22・45・71・72

口縁が直立し、内傾するもの。24

壺B 胴部から口縁が緩やかに外反する。58・109

壺C 短く口縁が内傾する無頸壺46・67

壺D 口縁が折れて直線的に外傾。70・107・108

甕 口縁部が屈曲して胴部に至る器形

甕(深鉢形) 口縁から底部にほぼ直線的に窄まる。

浅鉢・鉢 浅鉢A 口縁が外反し体部の肩が張る器形2・3・5・11・16

浅鉢B 口縁が外傾する器形 14

浅鉢C 口縁が内傾する器形 23

鉢D 器高をもち、口縁が内湾外傾する器形469

1. 浮線文の土器

ここでいう浮線文は主文様が沈線によって表出されている。沈線文との差異は凸線がミガキ調整されることにより隆線状になっているものである。

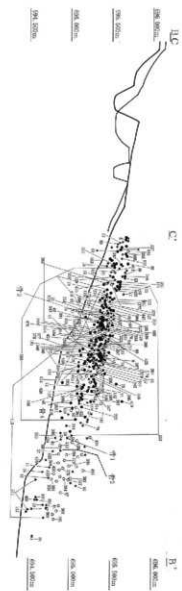
1) 浅鉢

浅鉢Aは2・3・5・11・16があり、2は外反する口縁端部に口外帯、頸部に無文帯をもち、やや張る体部に浮線網状文が施される。内面と無文部は丁寧なミガキ。浮線は2本の細隆線を束東させ、網状に2段施文される。外面は赤彩される。11の小型浅鉢の浮線文は細い沈線を刻み、2の浅鉢と同じ構成の浮線網状文である。浅鉢Bは14で口唇部肥厚させ沈線、口唇部から少し無文帯のミガキ調整。3本の横沈線を引き、隆線はミガキが施される。胎土は粗い白色粒子・金雲母が目立つ。

浅鉢Cの23は内面に隆線をもち、口縁部は波状を呈する。頸部に2本の浮線網状文が施される。浅鉢の胎土は緻密である。



弥生前期遺物群出土状況（北より）



第37図 弥生前期遺物ドット図



弥生前期遺物群を出土したテラス（東より）

42は台付鉢である。脚に沈線によって作り出された細隆線が3本ある。

2) 壺

壺Aの22は口縁部と胴下部を欠損するが肩が張り、丸みの強い胴部形を呈す。2本の細隆線を2段収束させ網状にし、結束させた紐状の頂点に刻みを入れる。浮線は不揃である。21は肩部の破片で、2本の細隆線を円形の細隆線に結束させ網状にしている。24は直立した口縁で端部は内湾し、内面に隆線、外面は沈線と隆線下の沈線により浮線状になる。沈線と刺突により工字状になる。

3) 甕

26～30・32～34・36・39・41があり、28は小型の甕で、口縁上端部に浮線、頸部はミガキ、胴部は2本の細隆線を結束させ、浅鉢と同様の浮線網状文である。浮線文の甕は器肉が薄く、内面及び外面の無文部が丁寧にミガキ調整される。39・41は口縁端部が外に折れ、突起をもち、口縁外面に幅広い沈線と細隆線を持つ。26・29は口外帯をもつ。

2. 沈線文の土器

1) 鉢

38は口縁部が外反気味に外傾する波状の口縁で、口唇部をへらで押し刻口を連続で施す。口縁外面は太い弧状の沈線3本を口縁の波状頂点に収束させる。頸部に沈線を2本横に巡らし、胴下部は格子状に条痕を施す。内面は雑なミガキである。外面は赤彩される。458は全体が内湾する鉢Dでミニチュア品。外面に細沈線を施文する。37は台付き鉢の脚で、沈線が明瞭で凸部はナデである。

2) 壺

壺A器形では45・53・56・64・65・66。壺B器形では58。壺C器形46は渦文、重四角文が施文される。これら沈線文の壺は本道跡で注目される資料である。第V章で詳述する。壺Dは短い口縁が折れて直線的に外傾。口唇部、口縁部に細沈線を充填する。107・108。

3) 甕

口縁部外面に幅の狭い沈線を施す。140・141・175・176。口縁部外面に幅が広い沈線を施す。39・41・151～159・162・163。口縁部外面に凹線状の沈線を施す。142～150・160・161・164～174・177・178・180。149・150は沈線による泥跳ねを除去していない。

沈線の数は1～6本あり、沈線1本173、沈線2本39・41・143・145・151・152・160・162、沈線3本140・142・144・147・148・150・153・154・158・170、4本174・175、6本149・177・180。3本沈線を巡らすものが多い。沈線が幅広いものは沈線間の隆線部の泥跳ねが除去され、ミガキ調整により浮線文状になる。ことに156は浮線文に近い。177の沈線は押し引きし、連続している。

沈線を胴部との境界に施文する。245・292～302。

3. 東海土器模倣の在土土器

壺形土器があり、99の口縁は直線的に外傾し、端部はナデによる緩やかな面取りがなされる。外面口縁部下に三角形の突帯が付き、へらで縦に押し、刻目を付けている。口縁外面は条痕が斜めにはいる。器肉は薄く、内面はナデ調整のみで厚みは一定ではない。胎上は石英・長石の白色粗粒を含む。100は胴部片で、粗い白色粒、外面に条痕がほどこされる。

4. 在地突帯壺（氷式突帯壺）

80は口縁を肥厚させ、口唇部外面に、連続の押捺を施す。78は刻目。79・81は口唇部肥厚、施文はないが同器形のものであろう。

5. 条痕文の土器

1) 壺

変容壺で器形は壺Aになる。口縁部は無文、胴部に条痕を施す。111～113・118・400・401・512。壺Bは緩やかに外反する口縁。109。壺Cは内湾の内傾気味の口縁で、無頸部に近い。101・402。

2) 甕

口縁・頸部はミガキの無文帯、胴部に条痕文を施文。波状口縁（突起を含む）。140・194・212。平口口縁。176・181・211・350

3) 甕 (深鉢)

口縁から胴部まで屈曲せずに底部に至る器形。口縁部から胴下部まで条痕を施す。波状口縁と平口口縁がある。254・255・263・264・277・280・265・267。波状口縁は254・265・277。

6. 縄文・撚糸文の土器

縄文を壺または甕の胴部に施文する。64-66・483・486・493-496・501。

甕の胴部に撚糸文を施す。95・140・481・482・484。

7. 無文の土器

1) 鉢

浅鉢Aの467・468は口縁部はないが、口縁が外反する器形であろう。丁寧なミガキがされる。赤色を意識した色調である。鉢Dは口縁部が内湾外傾する。底部はやや上げ底気味である。457・459-466・469・524。ミガキ調整されるが459・466・524はナデ調整である。

2) 壺

壺Cの67-69・523は粗製の小型品である。短い口縁は横ナデ、胴部ナデである。68の内面には多量の赤色顔料が付着し、赤色顔料の容器であったか。

小型品を除いて口縁から頸胴部の器形のわかるものはない。403-406・413-415。421は薄子で、胴部に横ヘラケズリ痕を残し、縦方向に雑なミガキがなされる。内面は輪積痕を残し横ナデ→横ミガキが凸部になされる。422の外表面は丁寧なミガキで、赤褐色を呈し焼成前赤彩か滑らかである。内面は横ナデ。壺は外面ミガキ、内面ナデ調整される。

70は小型の壺で、口縁が短く外傾する。ミガキが丁寧になされる。

3) 甕

口縁から器形のわかるものはない。219-221・245・476-478・480。220の外表面は胴部にヘラケズリ痕が残る。縦にミガキ、口縁部はナデ→横ミガキ調整される。内面はヘラケズリ→ナデ。220の焼成は良い。219の外表面は縦にヘラナデ後雑な縦ミガキ、内面は横ナデ。221の外表面は縦に全面ミガキ、内面は横ミガキである。焼成は良い。

8. 施文・調整

1), 口唇部施文

口外帯は外反する口縁端部に沈線と縦刻みが施文される。浮線文施文の2の浅鉢、26の甕に口外帯がある。甕では口唇部に幅広い沈線が途切れ、彫蝕化した口外帯状に施文される。151・152、185-187・200。524の鉢の口唇部も彫蝕化した口外帯がある。

刺突・押奈・刻目は波状部突起頂点のみのものと口唇部に連続するものがある。38の鉢は波状口縁の口唇部に連続刺突。26・39・145・188-202・258の甕は波状口縁の頂上部に突起を付け肥厚させ、突起に押奈・刺突する。波状にするため粘上を貼り、突起のみの150・173がある。254の深鉢甕の口縁も波状になるらしく、口縁の一部が厚くなる。刺突・押奈・刻目が連続施文される82-85・88・95の壺、91・147・148・175・180・181-183の甕がある。

特徴的なものでは、212の甕の口唇部は径2cm位の棒状具の押圧により、細かな波状を呈す。平口口縁に絡状帯斥痕の93。107・108の壺の細沈線文がある。86の壺は橋状の把手が口縁に付いている。89は刺突充填の把手である。

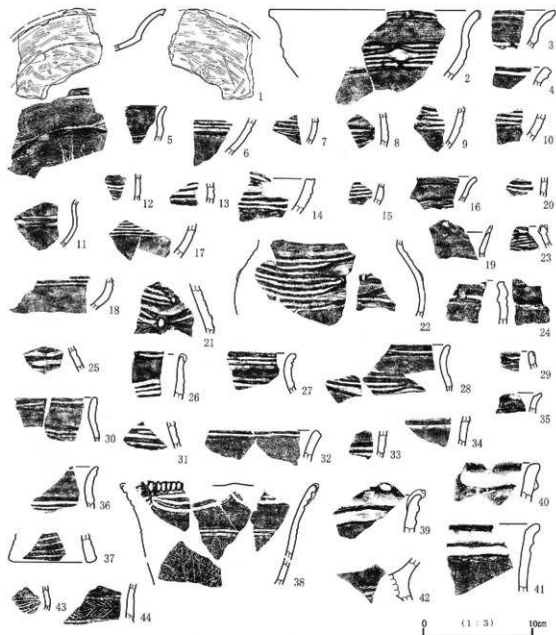
2) 底部の調整

網代痕-66・430・432・439・501。木葉痕-410・447・448・469・498。ナデ-69・408・414・497・499。ミガキ-56・409・411-413・415・426-429・431・433-438・440-444・449-455・470-474・504-508

底部はミガキ調整されるものが多い。網代・木葉痕→ヘラナデ→ミガキの調整がなされる。

9. 土偶

522の土偶は全長19.2cmに推定して実測した。胴体から足にかけては接合し、胴体中央には細沈線があり、側面は溝状に窪みを持ち、腰から足にかけて2段の膨らみをもち刺突がなされる。肩は接

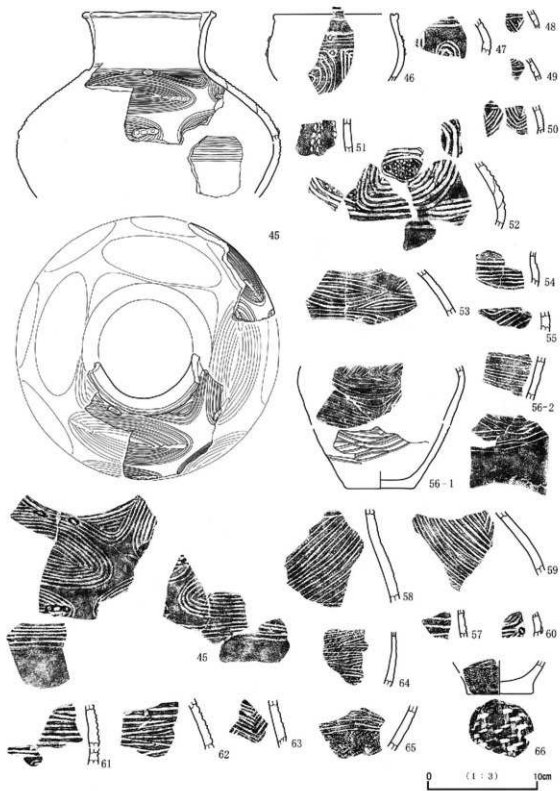


第38図 弥生前期遺物(1) 土器

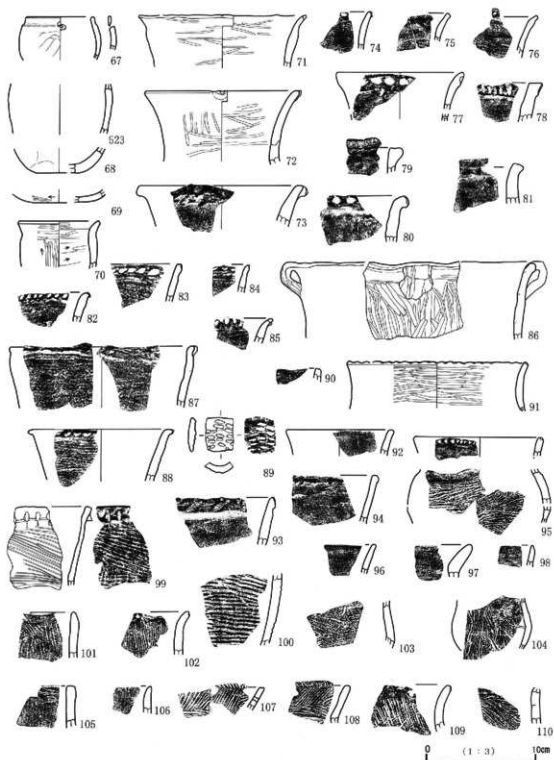
合しないが側面の窪む溝から推測して肩とした。顔はない。

10. 土版

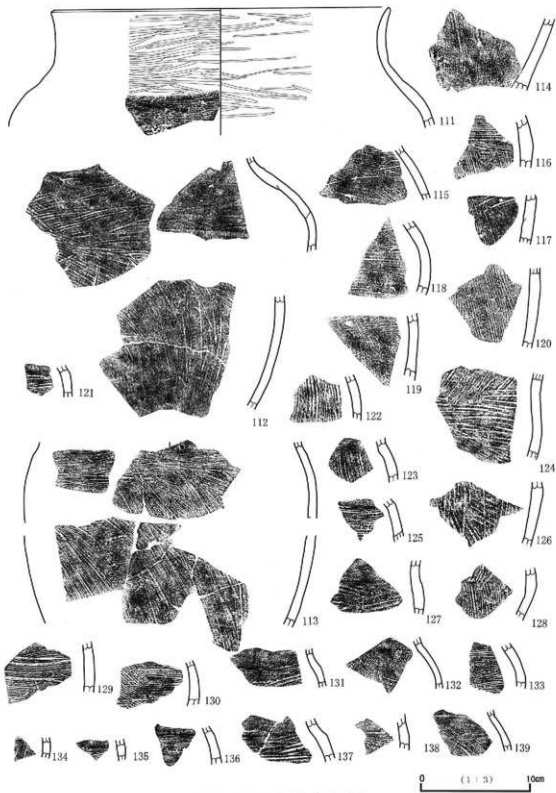
293・521・525～52をの上製円板としたが端面には加工痕がない。形態から掲載した。279の端面は擦って2次加工してある。



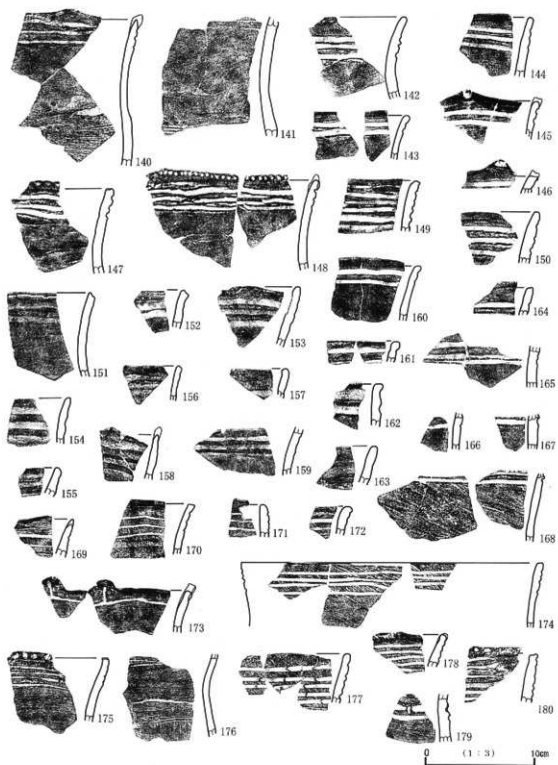
第39图 弥生前期遺物(2)土器



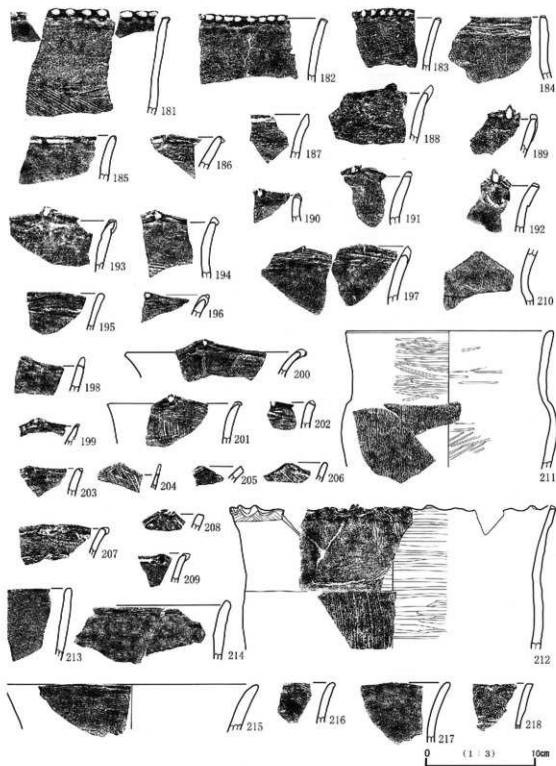
第40图 弥生前期遺物(3)土器



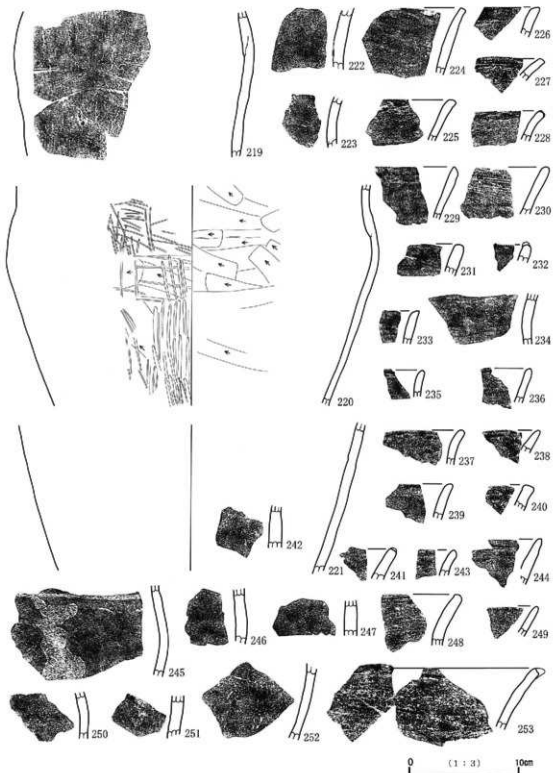
第41圖 弥生前期遺物(4)土器



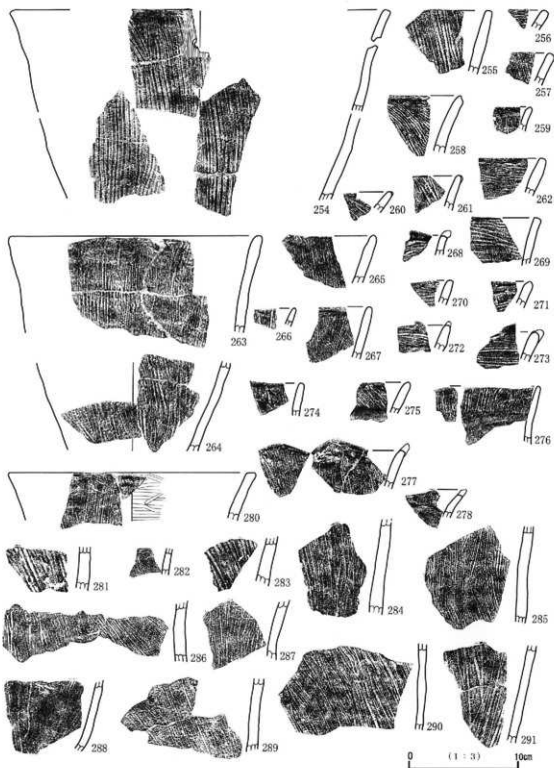
第42图 弥生前期遺物 (5) 土器



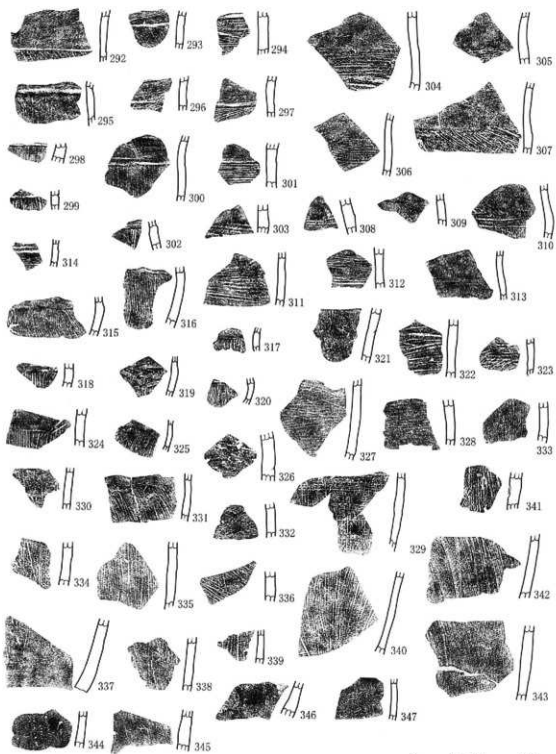
第43図 弥生前期遺物(6)土器



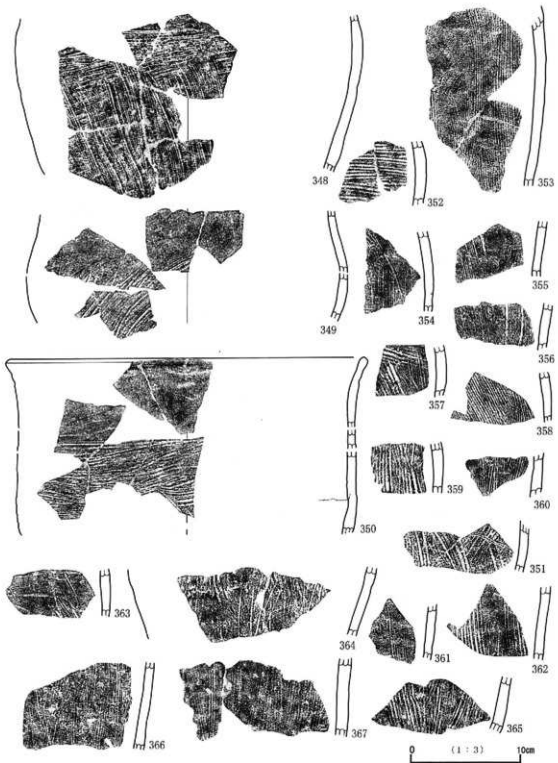
第44回 弥生前期遺物 (7) 土器



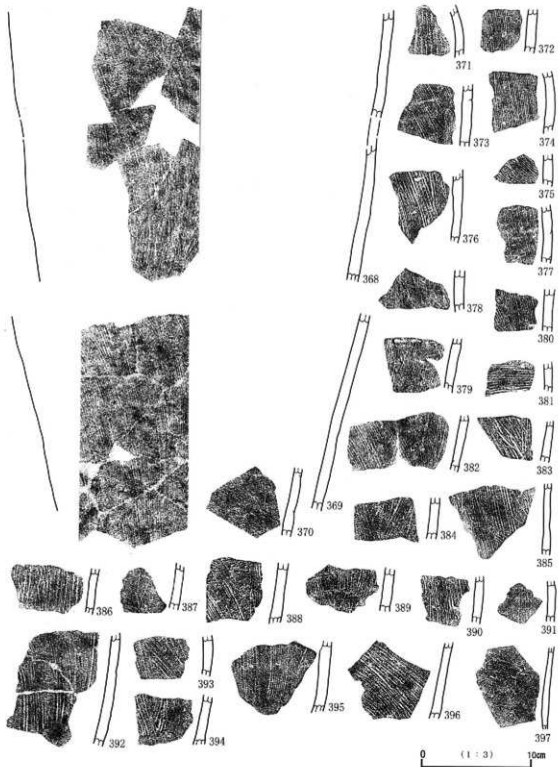
第45図 弥生前期遺物 (8) 土器



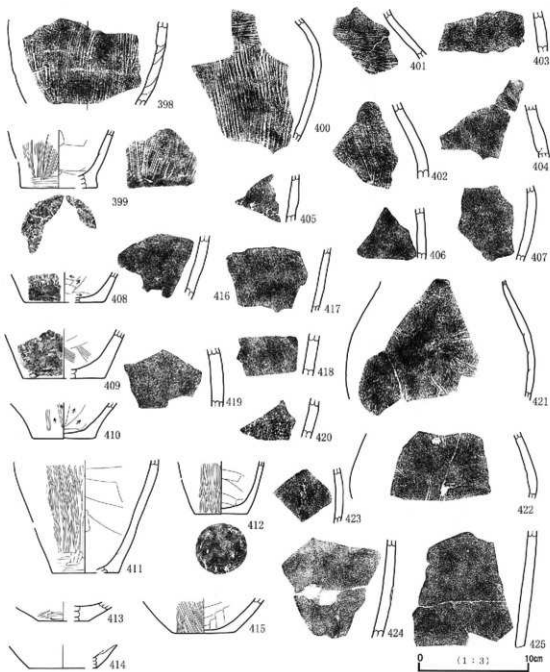
第46図 弥生前期遺物(9)土器



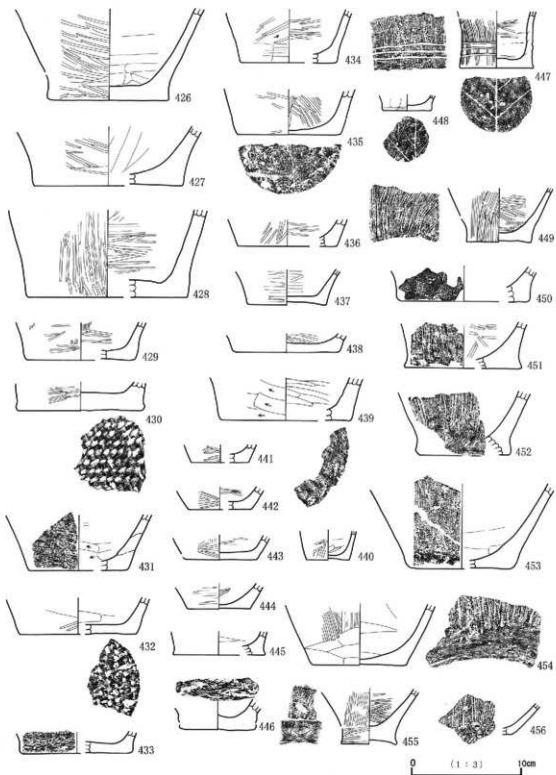
第47图 弥生前期遺物 (10) 土器



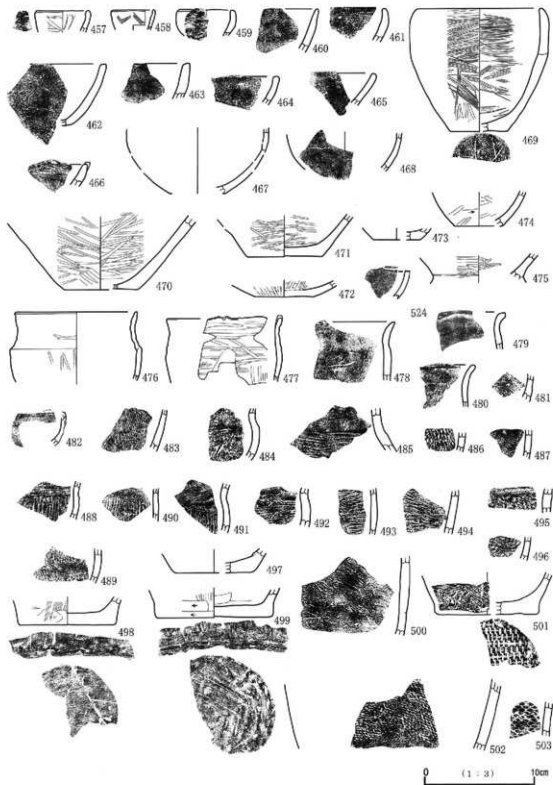
第48図 弥生前期遺物 (11) 土器



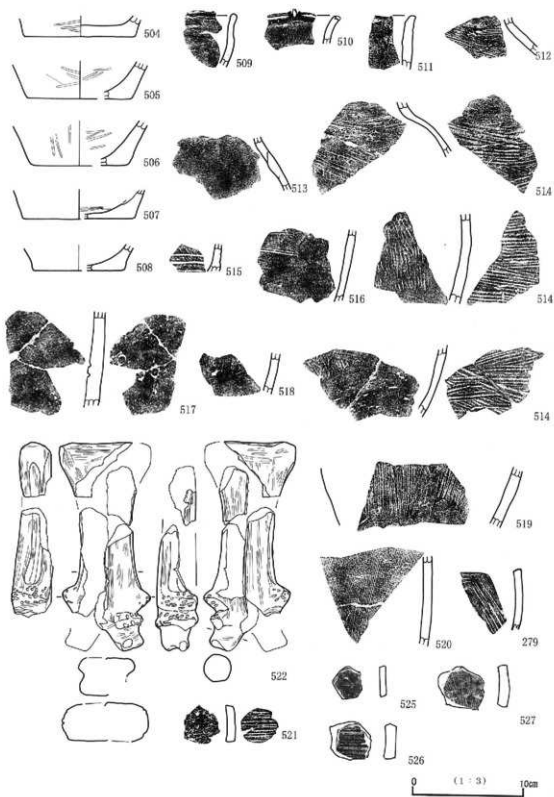
第49図 弥生前期遺物 (12) 土器



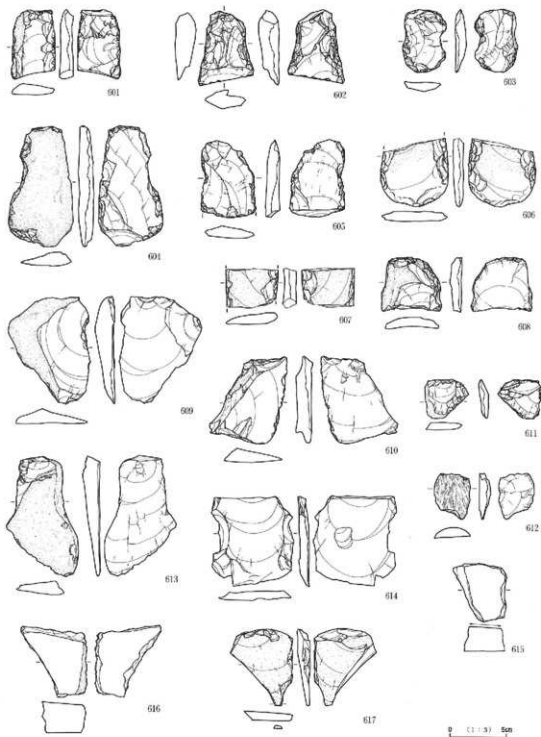
第50图 弥生前期遺物 (13) 土器



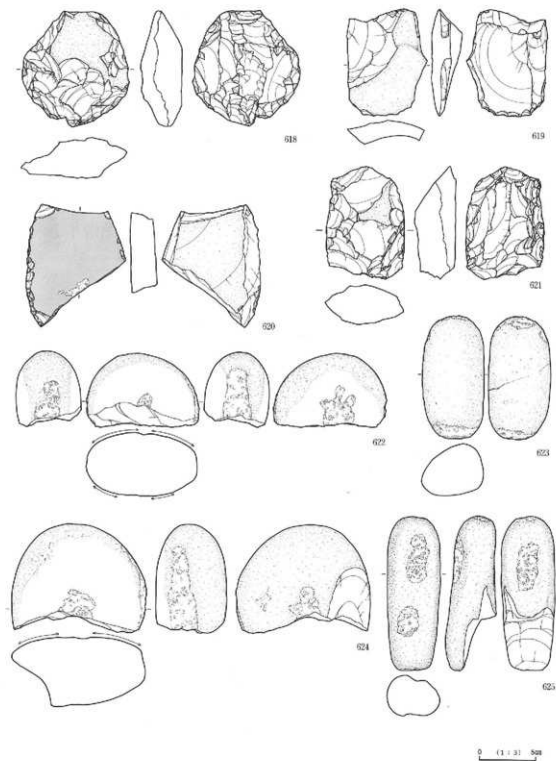
第51図 弥生前期遺物 (14) 土器



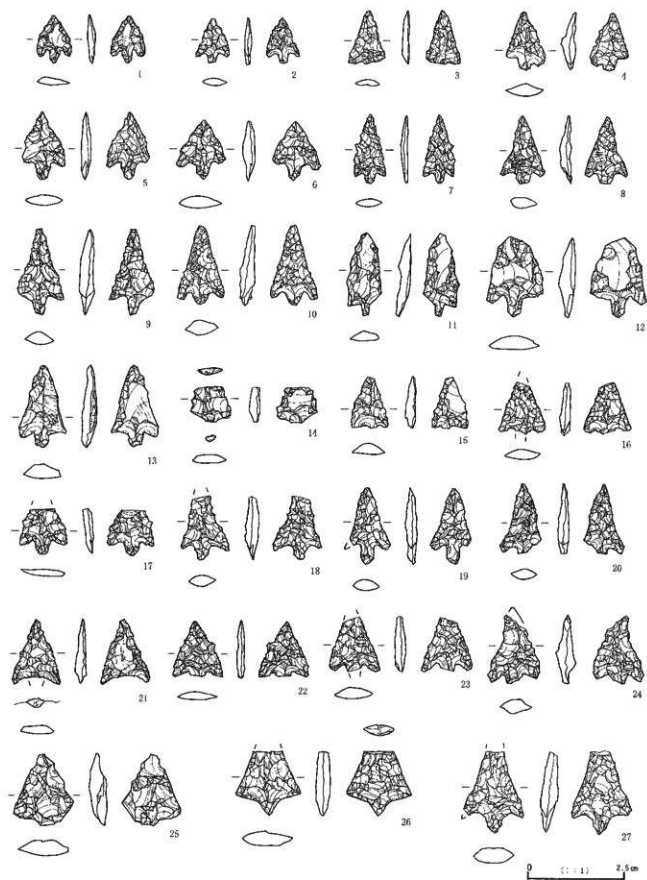
第52図 弥生前期遺物 (15) 土器



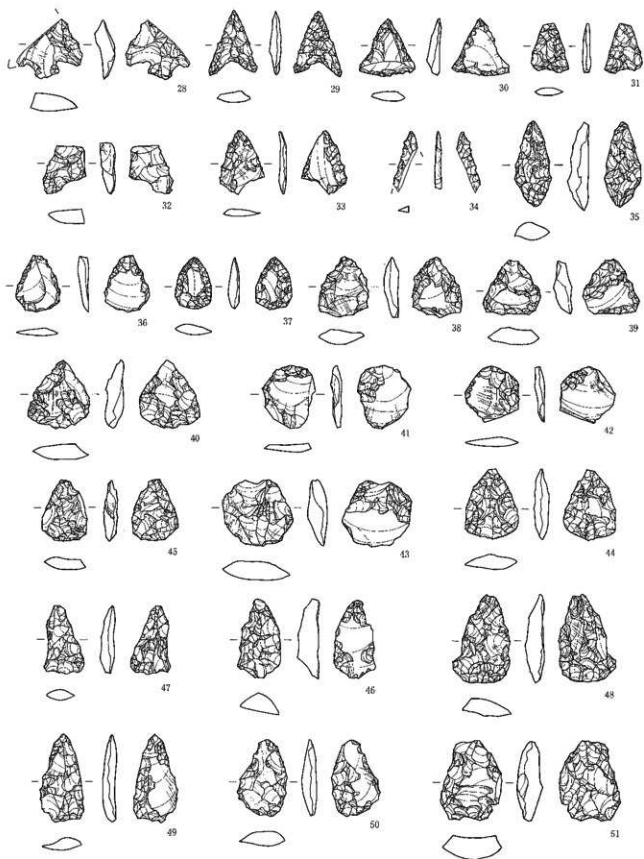
第53図 弥生前期遺物 (16) 石器



第54图 弥生前期遺物 (17) 石器

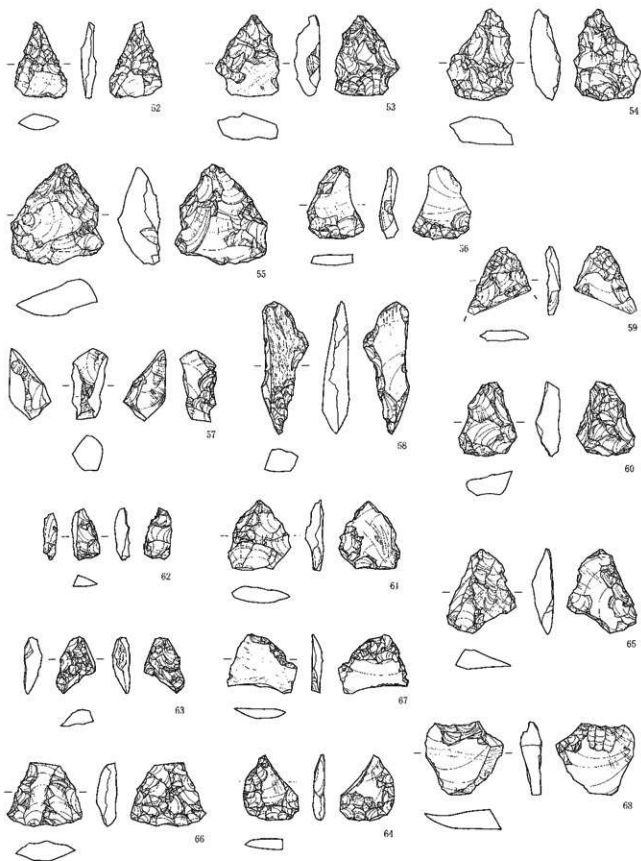


第55图 弥生前期遺物(18)石器

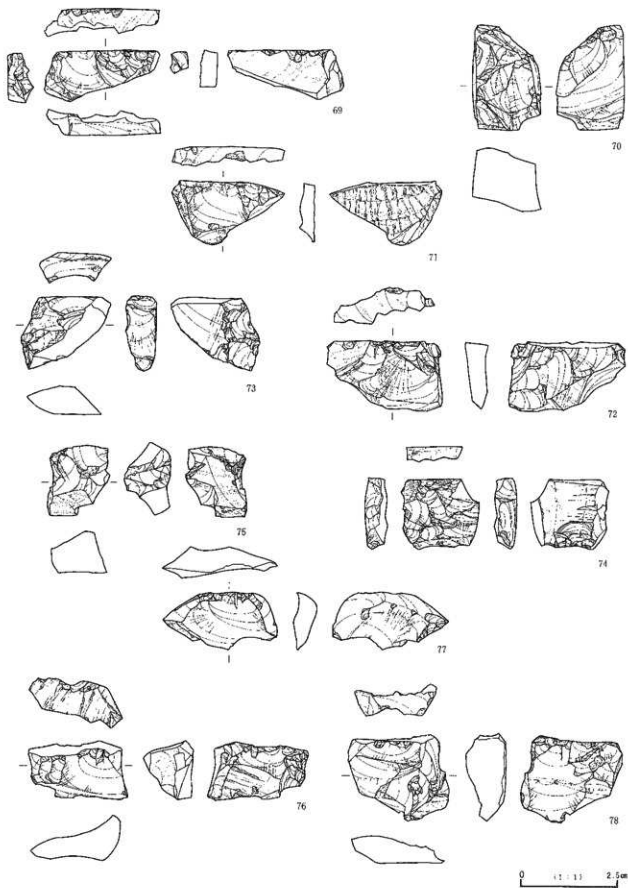


0 (1:1) 2.5cm

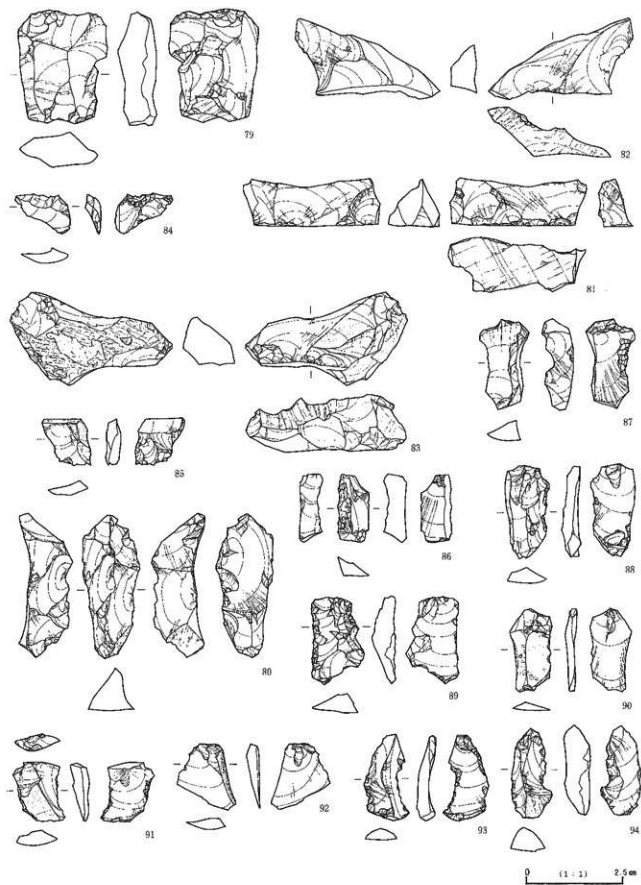
第56图 弥生前期遗物 (19) 石器



第57图 弥生前期遺物 (20) 石器



第58图 弥生前期遺物 (21) 石器



第59图 弥生前期遺物 (22) 石器



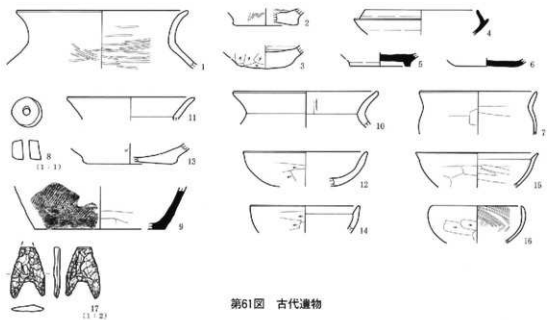
第60図 弥生前期遺物 (23) 石器

第3節 古代の遺物 (第61図)

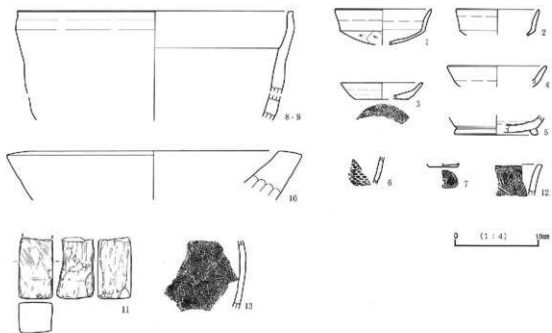
遺構は検出されていないが古墳・奈良時代の遺物が出土している。本遺跡の台地上には古墳時代～中世にわたる遺構が検出されており、それらの遺構に関連する資料であろう。古墳時代の土師器壺・甕・杯、須恵器杯、滑石製臼玉、奈良時代の須恵器甕・杯が出土している。

第4節 試掘調査の遺物 (第2図・第62図)

試掘調査の際の出土遺物である。試掘地点Aの水田からは土師器杯、試掘地点Bの水田から縄文の深鉢、平安の灰釉壺・凝灰岩製の砥石、中世石鉢・カワラケが出土する。B地点の遺物は水田造成ののり上からである。試掘C地点は本調査における北のBグリット、中世遺構検出地点の出土遺物である。カワラケ・内耳・縄文晩期～前期の上器片が出土する。



第61図 古代遺物



第62図 試掘遺物

第V章 総括

第1節 中世(第63~65図)

1. T1号寺院関連遺構

T1号寺院関連遺構とした遺構は、斜面に段を切り、削平し低地を埋め、平場を造成している。23.2×8.4mの細長い平場である。平場からは石列で囲った基壇と葺きの土間、石積の井戸、土坑、規模はつかめないが柱穴列、礎石が検出された。平場の端には石を積み、石垣を作っている。整地した埋め土(第12図)は、斜面側から地山の上に近い黒色土、その上に礫を含む黒色土がある。この礫を多量に含む堀方8層の礫の分布(第11図)をみると、10mにわたって、井戸の手前まで斜面と平行している。最も初期の造成は、堀方8層中の礫が石積であったであろうか。幅3.6m~4.8mの細長い平場である。洪水等で石積が壊され、堀方6層の砂層が堆積し、平場を拡張するため石積2を積み、削平した黒色土を入れ平場を再造成。石積2の補強からかさらに造成するため石積1を積んだようである。石積1は石積2より40cm高く積む。平場は3段階の整地がなされたことになる。矩形に張り出す石積3・4は初期はなく石積1の段階で作られたと推測される。石積4には転用された五輪塔の笠(火輪)が3個転用され、寺院として時間の経過があつたことであろう。

石積1は途切れ、3.8mにわたって石積3までの間積まれていない。低地に崩壊した石もないことから当初より石積がなされなかったであろう。石積の側面をみると(第13図)、石積は西から東に低くなり、石積2は標高693.50から693.10mへ、40cm下がる。石積1は693.90から693.50mへ、40cm下がる。石積の低くなるあたりから、積む石が大きくなり小礫40cmを越える石を一段並べる。石積1の23・64の最上面の礫は大きいので、上面の石面を大きい石で揃えて積んだのではなからうか。

石積1・2の下がる肩と堀方8層の礫層東端の肩から井戸を囲むように平場が低くなり、張り出す石積4にかけて徐々に下がる。石積4は最も高い所で693.20mを測る。石積4は石積1の低い所よりさらに30cm下がっている。

段切りした段下にある基壇の上面は灰・炭化物層に覆われ、石積1の北側低地は湧水が激しく平面では捉えられなかったが、掘った上の下面には灰・炭化物層が見られた。

遺物は青磁・青白磁・古瀬戸・山茶碗・珠洲・カワラケ・青銅製品、角釘・刀子などが出土する。平場上面からは白磁口禿肌(中国13c後半から14c前半)・白磁碗(中国華南12c後半)・青磁蓮弁文碗(龍泉窯13~14c前半)・古瀬戸灰釉瓶子(13c)・珠洲壺(13~15c前半)カワラケ(15c中)・角釘・渡来銭・炭化米・骨があり、基壇の前面に多い。遺物の時期は13cから15c中頃である。

堀方の遺物は、堀方8層から白磁碗(平安)・刀子を、堀方5層の砂礫層からはシカの骨と青磁蓮弁文碗(龍泉窯13~14c前半)・山茶碗摺ね鉢(尾張13c)、堀方11層から青磁調面文碗(龍泉窯12c後半)・基石を出土する。カワラケは堀方1・2層から出土する。堀方の遺物は12c後半~14c前半の物である。

本遺跡の北に中世大井氏の居館である大井城跡がある。本地籍はその大井氏の崇敬する四大寺院の長であったという龍雲寺伝承地「端下平」と地続きである。正中年間(1324~1326)龍雲寺開山(「大田山実録」という記録からすると、遺物の中で12c後半~14c前半代のは、開山当時の遺物とみることができよう。

平場の本来検出すべき高さは第10図の遺物分布図をみると、角釘の出土する下層あたりが平場遺構面に近いと考えられる。

平場には角釘が多数出土し、基壇の前に床面状の敷き(Ta7)があつたことから建物があつたことは確実であろう。その規模は基壇とその両脇の囲みの全長736cmとすると、桁行き4間規模の建物が想定される。角釘の出土地点からすると1間ほど北に延び5間で、梁間は2間であろうか。

基壇の東にも長軸5.8mの段切りがなされ、段の下に1間幅の土の基壇があり、柱痕を持つp3と浅

いピット2個が検出される。毛彫りの硯が堀方から出土する。(T a 8)

文明16年(1484)龍雲寺大蔵(「龍雲寺文書」)とあり、基壇や石積北の灰・炭化物層は村上氏に攻められ、「文明甲辰の兵火にかゝりて、神社・仏閣・数千の民家灰となる」(「四隣譚載」)にあたるであろう。この遺構を覆う第Ⅳ層中から遺構面と同時期の陶磁器と角釘、15c後半のカワラケが出土している。

この平場からは内耳の出土はみられず、青銅製品(仏像?)、瓶子、犬目茶碗、碁石、毛彫りの硯などがある。石列で囲う幅80cmの狭い基壇に何を祀ったかはわからない。仏の体内に朽を入れてある例もあり(注1)、基壇前面の敷きから出土した炭化米は糊状態で、上面ではあるが、225の青銅品は二次焼成を請けており銅佛の一部とすれば仏像が置かれた可能性もあり得る。五輪塔を置くのによい規模でもあるが、平場からは五輪塔は出土していない。

平場の北、低地が砂に埋もれ平坦になった後の土坑やピットがある(第26図)。この石積が埋もれたのが15c後半とすれば、それ以降にも多少なり痕跡がある。

注1. 滋賀・福寿寺の木造千手観音の胎内から千手観音印仏や朽などと共に鏡が発見されている。(1969.中野政樹)

2. 建物址

傾斜地に段を切り削平し、掘立柱建物址を構築している。竪穴建物址が四壁あるのに対し、廊取状で半分の壁はない。斜面に構築するため、当然の形態であるが、さらに掘り下げ四壁にはせず、平地に掘立柱建物址を建てるために削平している。しかし古代の掘立柱建物址は床面が検出されないのに対し、土を入れて、貼り床し、床面に火処を持っている。

長方形基調で規模の大きいT a 3は南北10.88m東西3.72mの平場に9.2m×1.76m(P12・P22で測ると9.6m×2.0m)規模に柱穴が配される。柱穴は2~3個重複し、最大62cmの掘り込みをもち深い。床は貼り床され、壁際は幅広の周溝が巡る。炉は北の柱穴間にあり、多量の灰が堆積している。床下には長さ160cm深さ56cmの長方形の深い土坑が設けられる。T a 4・T a 6・T a 11・T a 13は同様の建物址であろう。T a 11は段切りの高さが152cmあり、壁面に、階段状の小テラスが残る。T a 11床面に多量の炭化物が覆い、消失している。

遺構の重複関係は、T a 4→T a 3→T a 11の順に構築される。

方形基調の建物はT a 5・T a 9・T a 10・T a 12である。本遺跡では全容のわかるものはない。

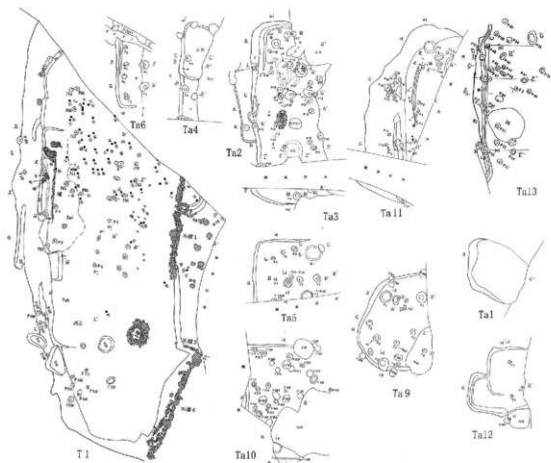
炉はT a 3・T a 5・T a 9・T a 10の4棟から検出される。

佐久市内の他の中世遺跡に類例をみると、佐久市根岸の榛名平遺跡はやはり傾斜地に遺構がみられることから、塵取形状の斜面側のみ壁と床の残る竪穴状遺構がある。長軸長8.16m・8.80mである。佐久市小田井の前頭部遺跡は平地の遺跡で、長軸11m幅3mの細長く浅い竪穴建物址がある。13~14cが初見であろう榛名平遺跡は居館跡、前頭部遺跡は集落址とされ、14c頃の遺跡である。

本遺跡の西台地上では同時代とされる柳堂・観音堂遺跡が調査され、竪穴建物址が出土するが、長軸5mが最大で、6mを超えるものはない。町屋の性格も柳堂、観音堂遺跡に比べ、本遺跡の規模は大きいものである。

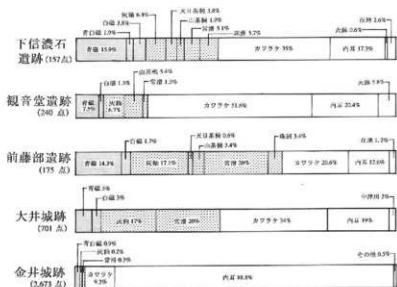
T a 3の出土遺物は白磁皿(13後~14c前半)、古瀬戸水滴・瓶子(14c)、内耳、カワラケ(13c後~15c前半)、角釘、鎌、渡米銭である。渡米銭の初鋳年が最も新しい「洪武通寶」(1368)から14c後半以降、カワラケから15c前半という年代が得られ、15c前半である。T a 11はT a 3を切る建物址である。青磁蓮弁文碗(13~14c)、山茶碗(13c後半)、珠洲壺(13~15c前半)、カワラケ(15c後半)、砥石、青銅製鏡、角釘、鉄滓、渡米銭を出土する。カワラケの年代より、15c後半の遺構である。床面から多量に出土した炭化物層から文明16年(1468)の「文明甲辰の兵火にかかりて」に遭って焼失したのであろう。

本調査の下信濃石遺跡は大井城跡の400m南に当たり、現在は人井城跡の東に移っている龍雲寺であるが、中世においては龍雲寺伝水地である端下平(羽毛平)地積から東に続く斜面地である。調査によって、T 1号寺院関連遺構の段切り削平した平場、竪穴建物址や井戸・土坑が検出された。調査



第63図 下信濃石遺跡・建物跡一覧

第64図
下信濃石遺跡他
中世焼物
構成図



区の南側も竪穴建物址、土坑、ピット群が密集している。調査区南側には王前の字名があり、現在も台地上に幅1間ほどの取道が使用されている。この道の東側の調査区では礎石を持つ柱穴が、南北に並ぶ。東側には並列するピットがあり、道路部分が未調査でわからないが門跡の可能性もあり得る。

本道跡からは青銅製品の鏡や銅佛、青磁の瓶子、古瀬戸水滴など限られた遺跡から出土するものがある。基壇を持つ平場があるなど寺院に関係する遺跡とみられる。

佐久市内では、中世寺院に関連する遺跡の調査は初例である。

東京都多摩ニュータウン遺跡692遺跡は蓮生寺に近接した遺跡である。12C中葉から14C前半の遺構で、緩斜面を幅約50mにわたり、段を切り平坦面を造成している。この削平面の1号段切りに掘立柱建物址、井戸それに伴う水溜坑、排水溝、作業場跡、土坑、墓壇、地下式土坑、焼土跡、集石などの遺構がみられる。1号段切りの南に2号段切りがあり、東西40m、南北16mを測り、掘立柱建物址6、柵列1、井戸2、土坑2、焼土跡3、溝6条がある。現在の蓮生寺は1号段切りより8mほど高い位置にあり、創建時にも在ったとすれば当時3段のひな壇ように蓮生寺は造成されていたとしている。

T1号寺院関連遺構はこの蓮生寺の造成と同様と想定する。台地上の端下平地帯に本堂が在り、斜面を段切りして、第2段目にあたるT a 3・4・6、M3のある段、第3段目にT1号寺院関連遺構やT a 11が設けられた。そして文明時に焼失したと考えられる。

3. 土坑

土坑は用途から3分類される。形態からは5分類される。本遺跡には墓壇とわかる土坑はなく、D51はウマの幼児骨の残りから近代の土坑と分析された。300m南西の台地上の上ノ城遺跡(2003年調査)から焼成土坑と火葬後築とした土塚墓が4基があるが、本遺跡には人骨はなく墓域はないようだ。用途の推定できる土坑

1). 竪穴遺構に近いもの。規模が大きく、柱穴ははっきりしないが底面が床面となりうる。

底面が段差をもって2段になるものがある。平面形が方形基調・楕円形基調がある。カワラケ・内耳を出土する。

2). 井戸

3). 性格不明

A. 方形基調の土坑

B. 長方形基調の土坑。土塚墓が推定されるものはない。

C. 円形基調・不整形の土坑



















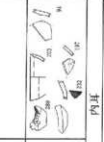
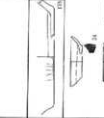
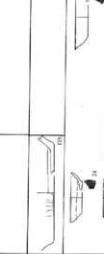


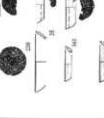
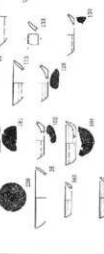

D. 楕円形基調の土坑

Cう9グリットでA・B・C類の土坑が3基が接して検出された。新旧関係のないことから用途の相違が考えられる。

4. 中世の遺物

舶載品では、青磁は12C代の青磁刷面文碗、13C前半の連弁文碗、瓶子、13C後半の盤、皿あるいはそれ以降のものはない。青白磁は13C前半の小型の合子、白磁は11C後半から12C前半の碗、13C後半の11爪皿がある。国産陶器は13C前半の古瀬戸瓶子、東海系山茶碗、13C後半の犬目茶碗、14C前半では古瀬戸水滴・灰輪平碗・灰輪鉢、天目茶碗がある。常滑は13C後半、珠洲の製品は13C～15C前半である。舶載品は13C、国産陶器は14Cまでの年代に限られる。手捏ねカワラケが13C、13C後半～15Cのカワラケ、15C中頃の口縁が長く薄い精製品のカワラケ、15C中頃のカワラケが最も多い。内耳は15C中頃である。内耳・カワラケは15C中頃に集中する。

五輪塔は1999. 若林卓『観音半経塚』によると火輪は軒口上縁のそりが緩やかなものから急激なものへ、下縁は逆に緩やかな反りから水平なものへ、軒面は垂直なものから外傾度を強めていく変化を想定している。石積4の88～90の火輪は89・90が占く、88に新しい要素が見られる。14C後半～15C

	青磁	青白磁・白磁	陶器	常滑	珠洲	カララケ
12 C						
13 C 前						
13 C 後						
14 C						
15 C						
						

第65図 下信濃石中世焼物実写図

前半のものであろうか。

141の青銅製の鏡は坂城町北日名経塚から出土した7面の鏡の内、草花双鳥鏡の萩双鳥鏡の萩と蝶によく似ている。経筒の銘は保元2年(1157)年である。1969、中野政樹編『日本の美術42号 和鏡』で、「平安時代後期の鏡は、直径8cm~11cmほどの小型の鏡が多く、鏡胎も薄く、100°内外の軽量。縁は細縁で紐も素紐が多く、菊座をもつもののほとんどが低座紐である。文様は柔らかい線で表されており、繊細な感じがする。実在の植物が主で、昆虫では蝶が多い」としている。この遺跡の舶載品の時期は12C後半である。鏡の年代も遡り得るであろう。T1の上面グリットBあ4からは225の銅佛?の青銅製品もある。

記録や伝承と発掘調査の結果が一致する遺跡である。16C代の遺物がなく、その後は近世・近代の陶磁器になることは、記録による文明年間焼失と整合する。端下平が能雲寺の伝承地であることは、瓶子類が多く、青銅製品や水滴を出土し、カワラケが多く、カワラケの中には精製品の饗宴用がある。また斜面を段切りして、寺院を造成する例が中世にあること。本遺跡の西台地上の岩村田の観音堂遺跡も16Cには集落が途絶えていることが確認されているが本遺跡も大井氏の衰退とともに埋もれた。

第2節 弥生前期の土器群について

Bか2グリット地点の斜面に幅4×8mの黒色土範囲から多量に出土した遺物群と他の遺構や、検出時の遺物を加えている。(出土地点は一覧表参照)

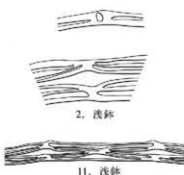
傾斜面は黒色土除去後2つの上下のテラスとピットが検出された。しかし床面といえるような人工的な面は検出されなかった。

1. 浮線文の土器

浅鉢は、口外帯・頸部無文帯、胴部に浮線網状文をもつ。器形は口縁が外反し胴部肩が張る。22の壺は胴上部に浮線網状文。28甕は口縁部に細隆線・頸部無文帯、胴上部に浮線網状文が施される。浮線は沈線により作り出された突線をミガキ調整することにより浮線状になる。本遺跡の浮線文は沈線文との違いはあまりない。沈線の幅に比べ突線部の幅が狭く、突線部をミガキ調整することにより細隆線文にし、浮線文を作り出している。22の壺は沈線の深さと幅が揃わず、隆線の幅と高さも一定ではない。結束点は紐状に高く、中央に刺突を入れ工字状になる。浮線網状文に構成は文様帯の上下に突線を作り、2本一組を2段に取束させ網状にする。

浮線文土器の数量は多くない。

2. 沈線により施文されるもの



第66図 浮線網状文模式図



2. 浅鉢



22. 壺

38の鉢では波状口縁の口唇部に刻目、口縁外面に幅3～4mmの沈線を弧状に頂点に結束させている。無文帯をもち、さらに2本の沈線を引く。下部は弱い細密条痕を格子状に施す。

45の壺では口唇部の外面に細い粘上紐を付加して沈線を作る。口縁部はミガキ、胴上半は重楕円文を上段に4個。間に逆重三角形文を入れ、両端に豆状の貼付文を貼り刺突。下段には重楕円文を8個施文し、重楕円文の両側には細長い貼付文を貼り刺突。その下に2本の沈線を巡らす。沈線は揃って明瞭で鋭い断面である。外面調整は文様上面ナデ、胴下部ミガキ。内面の口縁部丁寧なミガキ、胴部は粘上の接合痕が所々見える程度のミガキ調整。外面は赤彩される。52は幅が太く深い沈線のため、凸線部が彩隆線状になっている。重円弧ないし渦文で、中心の円は刺突で充填される。内面は接合痕を残し幅太なミガキ。隆線上の一部にミガキ調整されている所がある。内外の色調は赤茶黒い。53は壺胴上部片で細線が弧が描かれ、木の葉状になっている。56は胴下部まで細く浅い沈線が施文される。文様は明確ではなく、内外赤彩され、沈線のある施文部を含め底部までミガキ調整される。内面は丁寧なミガキ調整である。59は沈線が深く太く明瞭である。沈線上面はナデにより泥跳ねがとられ、赤彩される。64・65は同個体で、全体に縄文を転がし、胴下部まで細い沈線を施文する。66も同様で底部は縄代痕が残る。粗い砂粒を含む。

3. 東海系土器模倣の在土器

壺形土器があり、99は器肉が薄く、口縁が直線的に外傾し、口縁直下に断面三角形に押圧突帯がある。粗い砂粒の胎土である。条痕が外面に施される。輸入品ではなく在土である。

4. 細密条痕・条痕土器

条痕文が本遺跡では多川される。掲載したほかにテンバコ4箱ある。

一覧表では細密条痕と条痕を分けている。細密条痕は「針葉樹木の小口板に似た工具」(注2)を原体とする。「松葉を束ねたもの」との説もあり、細密条痕の中には柔らかい原体と推定されるものもあった。「条痕」としたものは原体不明であり、貝・半裁竹管・ササラなども工具として考えられる。「細密条痕」は沈線の幅が揃って整ったもので、本遺跡の大半が細密条痕である。「条痕」は幅広や細いものなど不揃いなものである。深鉢形の甕に施文されるものは「条痕」とした割合が高い。254・281・283・289・348・356・357・363・364。

甕は胴部に、深鉢形の甕は口縁から底部まで条痕文を施す。壺は胴部のみ条痕を施す。398～402。口縁から条痕を施すものがある。101・109。

甕の胴部への細密条痕施文は縦・斜め・横の3方向がみられる。斜め・横の条痕は胴下部では縦方向になる。横の条痕は壺Aの器形に多く見られる。

縦方向のみ—176・210～212・295・298・300・299・302・315～318・320・331・488・490・491・123。
斜め方向 132・139・181・292・293・307・309・349。

横方向—111～113・115～119・124・125・127・129・131・133～138・140・141・194・294・297・310・303～306・308・310・348・350・352・400・401・484・485・492・514

口縁上部外面に部分的に条痕を施文する。184・197・201・204・206・212

(注2) 1979. 横山浩一「刷毛目技法の源流に関する予備的検討」『九州文化史研究紀要』24

5. 無文のもの

胴部が無文の破片は掲載した以外にテンバコに2箱ほどある。甕は219～221・242・245～252、壺は405・406・413～415を掲載した。破片も含めて条痕文に比べ無文の破片は少ない。

浅鉢・鉢は457・459～472。浅鉢Aの口縁が外反するであろうの精製の無文浅鉢、鉢D器形の深い精製と粗製の鉢がある。

6. 口唇部・口縁部の施文

口唇部・口縁部の施文は口外帯・小波状・細波状・突起・刻目・刺突・押奈、口縁部肥厚などがある。破片で波状が確認できないものもあるが甕・深鉢23個体あり、波状口縁はその波状頂部に押奈ないし刺突がある。140・173・277は突起貼付だけで押奈はない。212の甕は棒状具押捺による連続する波状口縁である。口唇部に連続押奈ないし刻目は甕8個体、壺12個体。口縁部外面の沈線施文は甕25

個体である。在地突帯壺の口縁は肥厚し、外面に押奈・刻目が施文される。口縁上部外面に条痕施文もある。

7. 燃糸文・縄文の土器

64~66・95・140・481~484・486・493~496・501の土器に燃糸・縄文が施文される。

8. 器種の割合

鉢26点、壺40点、甕・深鉢143点	合計209点
下信濃石遺跡	浅鉢12.4%、甕・深鉢68.5%、壺19.1%
小諸市氷遺跡	浅鉢27.7%、甕・深鉢67.0%、壺3.9%
松本市石行上器集中区氷式内	浅鉢11.3%、甕・深鉢75.6% 壺6.9%

他のほぼ同期の遺跡と比較すると壺の割合が多く、鉢は石行遺跡と同じである。

9. イノシシの骨と歯

Bお2・Bか1・Bか2の黒色土層中から焼骨と歯が出土した。分析の結果、Bか2の焼骨は分析不可能であったが、骨1と骨2の歯と焼骨はイノシシと分析された。

10. 赤色顔料

浮線文の鉢・甕、沈線文の鉢、壺、小型の細密条痕の甕に赤彩され、赤色顔料は焼成後彩色する。色調が赤色を呈さないため明確でないが、化粧土に鉄分を含ませミガキ調整しているだろうものがあり、焼成前赤彩とした。大型の細密条痕施文の壺型土器の内面に顕著で、ミガキ調整の浅鉢・鉢、甕口縁などにも看取されるが確定したいものもある。

38の浅鉢、488・492の小型の甕ないし壺外面の赤色顔料を分析した。鉄の化合物、黄土を焼いたベンガラと分析された。パイプ状ベンガラが認められなかったことから、非鉄細菌系の褐鉄鉱が利用される。褐鉄鉱は高師小僧・鬼板などが考えられる。

11. 放射性炭素年代測定の結果

土器内面に付着する炭化物2点を分析した。379は条痕文の甕胴下部、430は網代底の甕底部である。炭化物の放射性炭素年代は以下の結果を得た。

379の甕は2,400±30、430の甕は2,440±30、2,400年前という年代が得られた。

弥生前期の変形工字文の浅鉢を出土した東五里田遺跡の土坑に含まれていた炭化物の分析では2,360±30の年代が報告されている。(2004、『東五里田遺跡』)。

中沢道彦は1998 — 「水Ⅰ式」の細分と構造に関する試論—において、中部高地で縄文式最終末の上器型式は水Ⅰ式土器であり、水Ⅰ式の細分をし、古・中・新の3段階に分類している。

水Ⅰ式中段階が氷遺跡の主体的な時期であるとする。精製浮線文浅鉢は口外帯、頸部無文帯、胴部文様帯に区分され、浅鉢胴上部の外反が著しく、頸部無文帯が発達する。そして新段階では松本市石行遺跡(1987竹原)の「石行遺跡第1類」を基準にその新段階を設定している。精製浮線文浅鉢の形態は前段階と同じだがその敷量比が減少し、精製無文浅鉢が増加する。氷遺跡Ⅰ群の主体ではないが、精製浅鉢・甕は水Ⅰ式の範疇に入る。水Ⅰ式の粗製甕を母胎とし、樫王式の影響で成立した「水Ⅱ式突帯壺」(在地の突帯壺)が一定数型式組成する。突帯壺は精製、粗製の区分で扱うことが不可能な土器であることから、大洞の精粗の区分規範も解体するとした。「水Ⅱ式突帯壺」などは従来「水Ⅱ式」にふくまれていたが、「石行遺跡第1類」が「水Ⅰ式」の範疇に含まれる点、「水Ⅱ式突帯壺」の出現が中段階の典型的な「水Ⅰ式」まで遡る可能性があり、水Ⅱ式を鈴木正博の旧稿(1983)による「水Ⅱ式」は水Ⅰ式の後半以降に並行異系列の土器群」とする理解が妥当であろうとしている。

下信濃石遺跡の土器群は、浅鉢は口縁が外反し口外帯をもち、頸部は無文、胴部に浮線文をもつ。1985石川日出志の浮線文の分類ではa5類であり、浮線が2木一組で用いられている。石川論文ではこの浅鉢Aは浅鉢Dとされ、浮線文と器形から第3群土器とする。第3群土器は大洞A'と並行するとしている。石川は浮線文は彫刻的手法が発達しており、沈線部強くミガキ込まれることによって隆線部が線状をなすとしている。

下信濃石遺跡の2の浅鉢は胴部文様の下端は器面を削りとり、沈線状にして浮線を作り出し浮線

文の工法である。口外帯をもち浮線文の浅鉢は本遺跡の中では1点である。浮線文の浅鉢と同器形の無文の浅鉢は2点あり、口縁全体が内湾する鉢11点ある。

在地の突帯壺は78・80が破片ながら存在する。壺は形骸化した口外帯をもち、幅広い凹線で浮線文を意識するもの、甕の口縁外面に「幅状沈線」が施文されるもの、口唇部に連続して押奈ないし刻目の施されるものなどがある。内面に沈線をもつ甕の口縁はない。

これから松本市の石行遺跡の「石行遺跡第1類」と形態、調整、器種構成が同じであり、同時期のものである。

2003石に黒立人「考古資料大観Ⅰ弥生・古墳時代土器Ⅰ」—中部地方の土器—では「水Ⅱ式」が水Ⅰに続き、弥生前期に編年されている。御社宮遺跡・石行遺跡・水遺跡の精製浮線文浅鉢などである。中沢のいう水Ⅰ式新段階、本遺跡の土器群が該当する。

1992鈴木正博の「利根川」13で水遺跡の再検討で、水Ⅱ式について、「砂沢式変型形T字文浅鉢、非東海の突帯文壺、確立期簡描波状文壺、非彫刻的な沈線文有し、口外帯を採用しない第2群、条痕文土器とされた第3群の相当部分の編入から構成される」として、第1式を「水遺跡の浮線文の系統と年代に限定」、その直後を「統水Ⅰ式/水Ⅱ式」と改める。これに中沢道彦は、水遺跡の第2群の沈線文土器・第3群の条痕文土器・石行遺跡1群の上器は水Ⅰ式の範疇からは必ずすることはできないとし、真正の「水Ⅱ式」は長野県中川村刈谷原遺跡、松本市針塚遺跡はどを上げ、「水Ⅰ式浮線文浅鉢消失後で、水式突帯壺、幅状沈線壺、水Ⅰ式粗製甕、の系統を引く粗製甕、在条痕文壺などが組成する」としている。

本遺跡の土器群は第38図に示したが浮線文の上器は少なく、浮線文も沈線が意識される。第42図に示した「幅状沈線」の甕の数が多し。沈線文、条痕文の甕の数量が多い。本遺跡では整った細密条痕甕が多いが次期の弥生前期の東五里田遺跡でも細密条痕の甕がみられる。水式突帯壺はあるが少ない。これらは中沢の「水Ⅰ式新段階」・「水Ⅱ式」1992の鈴木「水Ⅱ式」が該当するであろう。

炭素の年代測定からは2,400±30、2,440±30という年代が得られた。(森泉 かよ子)

引用参考文献

【中世】

1969. 中野政樹編「日本の美術第42号 和説」至文堂
1984. 佐久市教育委員会「大井城—大井城関係文獻資料集」
1986. 小山浩夫他「大井城跡（岡岩城）」佐久市教育委員会
1987. 小山 浩夫 1下川原・光明寺」佐久市教育委員会
1988. 斉藤 進「多摩ニュータウン遺跡昭和61年度（第2分冊）」(財)東京部埋蔵文化財センター
1999. 小山 浩夫「栗毛坂遺跡群 前頭部遺跡」御代田町教育委員会
1999. 上原 学「栗毛坂遺跡群 前頭部遺跡」佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第68集
1999. 森泉かよ子「岩村田遺跡群 観音堂遺跡」佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第70集
1999. 岩村 卓「観音平経塚」上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21、一上田市内・坂城町内一(財)長野県埋蔵文化財センター
2001. 羽毛田中也「岩村田遺跡群 御堂遺跡」佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第85集
2001. 富沢 一明「松本市遺跡第4分冊中世・近世編」佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第84集
2001. 宮本長二郎「據立と解穴—中世遺構論の課題」東北中世考古会編 調査高志書院
2003. 須藤 隆司「岩村田遺跡群 上ノ城遺跡」佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第111集
【弥生前期】
1969. 長峰 光「水遺跡の調査とその研究」『石器時代』9 石器時代文化研究会
1982. 殿森 博己「中部地方における弥生土器の成立過程」『信濃』第34巻4号
1983. 鈴木 正博「知来堂 寺楯」『利根川』4 利根川同人
1985. 石川山出志「中部地方以西の縄文時代晩期浮線文土器」『信濃』第37巻1号
1986. 渡巻 実「C11 沖ノ遺跡」群馬県藤岡市教育委員会
1987. 竹原 学「松本市赤木山遺跡Ⅱ」松本市文化財報告書No. 47
1989. 中島 栄一・渡巻 明和「浮線文系土器様式—縄文土器大観4—後期・晩期—編年—」
1990. 殿森 博己「津」第3節 上層の土器群について
1991. 中沢 道彦「長野県の概況—『日本における縄文の受容第Ⅲ分冊』東日本厚蔵文化財研究会
1992. 鈴木 正博「水が解けるとき」『利根川』13 利根川同人
1998. 中沢 道彦「縄文時代晩期終末期の土器群の研究」『水遺跡発掘調査資料図録』第二冊
1999. 上原 学「寺楯遺跡群沖田遺跡」佐久市教育委員会埋蔵文化財調査報告書第66集
2003. 鈴木 正博「遠賀川式」文様帯への型式編入『埼玉考古』38
2003. 石黒 立人「中部地方の上器—『考古資料大観Ⅰ弥生・古墳時代土器Ⅰ』小学館
2004. 中沢 道彦「東五里田遺跡」第3巻 弥生前期の遺物について

中世寺院関連の遺構に関しては原廣志、大澤伸啓、他、また弥生前期については、関東弥生研究会の方々から御指導を賜りました。ここにお礼を申し上げます。

下信濃石遺跡弥生時代前期土器の一課題

中沢 道彦

下信濃石遺跡では弥生時代前期とすべき良好な資料がまとまって出土した。氷Ⅰ式、氷Ⅱ式の標式遺跡である氷遺跡のある佐久地方でも、東五里田遺跡と氷Ⅱ式の良好な資料が蓄積されつつある。本遺跡の土器群の主体は結論的に言えば、氷Ⅱ式でも最も古い部分、もしくは筆者の氷Ⅰ式新段階（中沢1998）でも最終末と考えられ、氷Ⅱ式の成立を検討する上で重要なものと評価できる。本稿ではこれらを氷Ⅱ式と扱った上で、多岐に渡る問題の内、1点に絞って課題を論じたい。

注目されるべき点の一つは、第39図45、48～62など重弧状や、上下の重弧により紡錘状の意匠をもつ沈線文の壺、深鉢の存在である。これまで断片的な破片資料からその存在は予想できたが、本遺跡例のような良好なまともは例が無く、氷Ⅱ式を組成する新たな類型、系列としての検討が要される。第38図38の2条の弧状沈線の壺も同様だ。

第39図45はL線縁部で氷Ⅰ式の口外帯からの系統といえる痕跡的なものが確認でき、頸部無文、胴上部に沈線文様と文様帯が構成される。胴上部に矢羽や綾杉状の沈線をもつ氷Ⅰ式半精製甕や精製甕の文様帯構成の伝統を引き、また胎土も他の出土土器と同様のため、まずは氷Ⅱ式の一類型と扱うべきであろう。

ここで問題は重弧状や、上下の重弧により紡錘状の意匠の由来である。まず、前述の氷Ⅰ式半精製甕や精製甕胴上部の矢羽や綾杉状の意匠からは導けない。氷Ⅰ式浮線文精製浅鉢の浮線文の意匠からはどうか。まず2条1単位の菱形の意匠からは難しい。紡錘状、もしくはレンズ状と呼称される意匠で浮線が沈線化し、かつ文様が浅鉢から壺に転写されたとする考え方もできるが、紡錘状の単位文が「千鳥状に重畳」に配置と単位文の間にも重弧の沈線が配置される点の説明に課題が生じ、中部高地の内生的変化のみの議論ではその解決が難しい。ここは北陸の該期土器からの影響を検討したい。

北陸の縄文時代晩期末長竹式精製浅鉢胴下部の文様では重弧状や、上下の重弧により紡錘状の意匠が沈線で施され、かつ、単位文と単位文の空間部を弧状の沈線で充填する。列点刺突が施されるものもある。また、長竹式の精製深鉢で重弧の沈線が施されるものもある（註1）。

第38図38の氷式壺の2条弧状沈線は氷式甕に北陸の長竹式の弧状沈線、第39図45、48～62は長竹式の重弧や上下の重弧による紡錘状の沈線からの意匠を取り入れたと考えられなから。

ここで課題は中部高地と北陸との土器編年による併行関係である。長竹式は一般に東北の大洞A式、中部高地の女鳥羽川式、離山式、氷Ⅰ式古段階、もしくは氷Ⅰ式中段階まで併行するとされる。しかし、本遺跡土器群の主体は氷Ⅱ式、遡って氷Ⅰ式新段階でも最終末、微妙な時間のヒアタスがある。長竹式の伝統を引く後続の柴山出村式からの影響、また氷Ⅰ式の段階で長竹式の影響を受け、それが母体となって上述の土器群が成立したと間接的な影響を仮説として想定することもできるし、北陸の長竹式の下限が氷Ⅰ式新段階かその直後とならば直接的な影響関係も論じうる。まずは長竹式、柴山出村式の型式内容、及び中部高地の氷Ⅰ式、Ⅱ式との併行関係を詳細に検討する必要がある。氷Ⅱ式の成立について、北陸からの影響関係も新たな課題となってきた。

註1 ちなみ設案博は中部高地の氷Ⅰ式古・中段階併行段階の長竹式に組成する「浮線文系」精製浅鉢について、紡錘状単位文が千鳥状に重畳、主文様の沈線化傾向を指摘し、それが山陰の遠賀川式文様へ与えた影響を論じている（設案2004）

参考文献

- 設案博 2004 「遠賀川系土器における浮線文土器の影響」 『島根県考古学会誌』第20・21号合併号 島根県考古学会 p.189～p.209
久田正弘 1998 「北陸西部の土器の動き」 『長野県小諸市氷遺跡発掘調査報告書図誌』第3冊 p.111～p.125 氷遺跡発掘調査資料図誌刊行会

第3節 下信濃石遺跡出土の石器群について（第53～第60図・第67図）

はじめに

本稿では下信濃石遺跡から出土した石器群について、出土石器群の技術的・形態的な特徴、石器出土地点の特徴、黒曜石産地推定分析の結果について報告する。

なお、本稿で使用される専門用語については、なるべく慣用的に用いられる用語を使用するように努めたが、一部に独自の器種名称等を用いる。その場合は該当項目で器種の説明を加えた。

また、本稿における遺物の出土状況の全般にわたるデータ、黒曜石の産地分析結果、および実測図は佐久市教育委員会文化財課より提供を受けたものである。

1. 出土石器群の技術的・形態的特徴

本稿で取り扱う出土石器群は、中世等の遺構により破壊をまねがれた包含層からの出土であり、その多くはBお1・Bお2・Bか1・Bか2の各グリッドからの出土である。調査区東側から西側にかけてゆるやかに傾斜が認められ、石器群を含む包含層もやや傾斜していることがわかる。これら石器群はちょうど傾斜地がやや平坦面となる箇所においての堆積上中からの出土である。

出土した石器群の説明にあたっては、まずツールを含む二次加工や使用の痕跡を含む石器を全て抽出し、表2 a・b表の観察表を作成した。この一覧表には器種・石材・法量の他に、黒曜石製石器の場合は望月明彦氏分析の産地推定分析の結果を掲載する。また、石鏃に限っては第67図の基準に従って形態の属性を記入する。この石鏃の形態属性は中部高地の石鏃の時間的な変化を示す有力な情報であり、既に数遺跡の分析で同様の分類を行っている（馬場2005 a・2005 b）。

なお、下信濃石遺跡では第3表に示したように、有茎鏃や石鏃、そして使用痕跡片等、いわゆる小形剥片石器に該当する器種は、黒曜石を用いることが圧倒的多数であることがわかる。

以下、器種ごとに説明を行う。

（1）石鏃およびその未成品（第55図～第57図）

下信濃石遺跡から出土したツールの、最も数量の多い器種である。石鏃の形態ごとの点数は、有茎鏃が24点、凹基鏃が3点、平基鏃が2点であり、形態の不明な石鏃断片が2点出土する。未成品では、形態が判明するもので有茎鏃の未成品が6点、凹基鏃の未成品が1点、有茎鏃とも凹基鏃とも形態判別のつかない石鏃未成品が断片を含め26点出土する。

図版の第55図から57図に提示した資料は、26が安山岩製、27がチャート製で、それ以外は全て黒曜石製である。

出土した有茎鏃の属性について整理すると、完成品でなおかつ鏃身形態が判明する27点のうち、I b型とI d型が各6点ずつと多数を占める（第4表）。中部高地では、縄文晩期を主体とする宮崎遺跡や晩期後葉を主体とする茅野市御社宮司遺跡で、逆刺部の張り出しが下方に発達するI d型が顕著であるが、その名残と考えられる6・18・20・24・27が認められる。

なお、御社宮司遺跡や宮崎遺跡でも見られるが、鏃身の屈曲点付近に突出部をもつ、いわゆる飛行機鏃（鈴木1974）は、7・17・22である。

また、茎部形態では、最終的に逆刺部が発達するb型が22点と圧倒的に多い。

さて、有茎鏃の製作工程には二つの種類があり、一つは未成品の段階で25・37～40・44・45のように三角形やや台形状の未成品をつくり、茎の相当する部分の両側を大きく穿ち、茎部を作り出す方法である。28はその方法で茎部を作り出した有茎鏃未成品の断片である。46・47・49・50のように二等辺三角形形状の未成品も同様の方法で、全て茎部を作り出す直前の資料である。この製作技法では、まず茎部を作り出す前に鏃身部を作り、最後に茎部の両側部分に相当する箇所を大きく穿ち、茎部とするという共通性をもつ。完成品の代表例では、1・2・4・10・13・16～18などがあり、全て茎部の両脇は大きな剥離面が認められる。

さて、もう一つの有茎鏃の製作技法は、茎部から作り出す方法で、先との工程が全く逆となる。下信濃石遺跡では客体的な存在であるが、11の木成品はそれに該当する。

次に、出上した凹基鏃は、29・30・31が該当する。37と66は平基鏃とその木成品と思われるが、あるいは有茎鏃の未成品段階の可能性も残す。

(2) 石錐

石錐は35・58の2点である。全て黒曜石製である。点数が少ないため、特徴を論じることは難しい。58は背面に自然面残す剥片の先端部分を加工したものである。

(3) 使用痕剥片

鋭い縁辺をもつ素材に、微少剥離痕をもつ石器を使用痕剥片とする。全て黒曜石製である。対象は不明であるが、鋭い縁辺が刃部として使用された痕跡を示す石器である。89・91・93が該当し、縁辺に微少剥離痕が並ぶ。

(4) 両極石器・両極剥片

両極打撃の結果、打撃を受けた母体側を両極石器、打撃の結果、剥離した剥片を両極薄片と呼ぶ。全て黒曜石製である。上下同時に生じた剥離痕を有することが特徴である。74は両極石器で、上下端に剥離痕を有する。73は両極石器の断片である。88と105は両極剥片で、主要剥離面を大きくとどめる。

(5) 二次加工剥片

二次加工が認められながらも、特定の器種への判定が困難な石器を一括する。黒曜石製が4点、泥岩・安山岩製が3点である。黒曜石製は、87は左側片、95は右側片、97は左側片、102は右側片にそれぞれ二次加工が認められる。また609は左側片、611は右側片、617は右側片に二次加工が認められる。

(6) 石核・剥片

下信濃石遺跡から出上した石核は13点で(69・71・72・76・77・78~83・96・98)、全て黒曜石製である。重さ10g未満の角礫を用いており、その角礫の自然面状態は気泡が顕著なものではなく、剥離面が風化した「剥離面状の自然面」(大工原2002の用語)である。

剥離の基本進行形態は基本的に並行剥離であり、81~83のように同一作業面上で剥片剥離を完了し、打面転移は基本的には認められない。唯一80のみ、右側面の大きな剥離ののち、その剥離面を打面として、左側面に作業面が移る。

打面は、先行する剥離面を打面とする場合もあるが、大半は自然面を打面とする。打面調整や石核整形は一切認められない。

また、出上した石核からは、一石核から剥離される素材剥片は1枚かあるいは2枚程度であり、多くの素材剥片を剥離しようとする意図は認められない。

作り出される剥片については、90のような縦長剥片や92の縦長と横長の中間形態、その他、石器の素材となっている剥片をみても形状は様々である。

(7) 原石

原石は2点出上しており(70・75)、先にも触れたように剥離面が風化した自然面を有する。このような10g未満の角礫が下信濃遺跡内で石器製作の原料として利用されたことがわかる。

(8) 打製石斧

第53図・第54図の601~608・614・621が該当する。合計10点が出土し、石材は安山岩・泥岩・砂岩

・凝灰岩が使用される。形態はいわゆる短冊形とよばれるものと604のように撥形のものがある。最大長は10cm前後のものが多いが、一点621のみ20cmと大形の部類に属するものが出土する。

なお、図示はしていないが、背面に多方向の剥離面をもち、なおかつ複剥離面打面をもつ湾曲する剥片が同じ材質で出土しており（第7表）、これは打製石斧の製作時の剥片と考えられる。

602はもとも10cm程度の長さ打製石斧の刃部が欠損したのち、破損面を刃部とした再利用している。そのため、微少剥離痕が刃部に認められる。この石器については打製石斧より削器の類の可能性も考慮する必要がある。608と614は打製石斧の刃部部分であり、上ずれ痕が明瞭である。621は打製石斧の基部断片で刃部を欠損する。推定復元長20cm前後と考えられ、出土した打製石斧のなかでは最大である。

(9) 円盤状石器

618が該当する。打製石斧の未成品とも考えられるが、縁辺から求心域に剥離の方向が認められるため、直線的な辺を作り出す打製石斧の剥離の方向とは異なる。したがって円盤状石器とした。

(10) 台石

615・616・620が該当する。図示したトーンの部分に摩耗面が認められる。摩耗面が凹むことはなく、フラットな面であるため、台石とした。620の左辺側には形態形成の剥離加工が認められる。

(11) 磨石・敲石類

622～625が該当する。622が表裏に磨り面と表裏中央と左右側面に敲き痕、623が上下端に敲き痕、624表裏に磨り面と表裏の中央および側面に敲き痕、625が上下端と表裏の中央付近に敲き痕が認められる石器である。

2. 黒曜石の産地推定分析結果について

黒曜石の産地分析を沼津工業高等専門学校の望月明彦氏が行った。出土した黒曜石製石器群のうち、ツールについては全点、剥片については任意の抽出を行い、合計103点の産地分析を行った。その結果、102点は諏訪星ヶ台群、1点は和田土屋橋西群という結果を得た。

佐久市内の弥生時代遺跡の黒曜石産地分析は数カ所の遺跡で既に行われており、その結果を第5表に示した（分析は全て望月明彦氏による。データ掲載文献は富沢2004、森泉2004・2005）。全体的な傾向からすると、諏訪星ヶ台群を佐久盆地の弥生時代集団が積極的に利用していたことは弥生時代を通じて変化がない。

しかし、諏訪星ヶ台群と、和田峠の諸産地（和田峠近辺に散在する和田鷹山群、和田小深沢群、和田高松沢群、和田芙蓉ライト群、和田土屋橋北・南・西・東群。本稿ではこれら諸産地を一括して和田群と以下呼ぶことにする）というように巨視的に数量を比較すると、弥生前期後半の下信濃石遺跡と東五里田遺跡では諏訪星ヶ台群が大半を占め、和田群は出土したとしても1点程度と極めて少ない。しかし、弥生中期後葉の栗林期の遺跡では、和田群が一定量出土し、全体のなかの2割から3割程度を占めるようになる。

このように、佐久盆地の弥生集落において、黒曜石産地が諏訪星ヶ台群にほぼ限定される弥生前期の傾向から、弥生中期後葉には諏訪星ヶ台群と和田群の2つの産地利用に変化するという傾向を見いだすことができる。なお、少数ではあるが、弥生中期後葉には、蓼科冷山群や浅間千ヶ滝群の黒曜石も含まれる。しかし、この二つの産地は石器用石材としては不適当な気泡を多分に含む黒曜石であり、ツールとして完成したものは認められない。

3. 石器群の分布状況について

冒頭でも触れたように、大半の石器群の出土はBお1・Bお2・Bか1・Bか2の各グリッドであ

り、そりなかでも特にBお2とBか2グリッドは200点以上の黒曜石製石器群の出土する集中区域である(第6表)。なお、有茎鎌などの小形剥片石器の石材として多く用いられる黒曜石製のみならず、打製石斧などの石材である安山岩・泥岩・凝灰岩も同様にBお2とBか2に集中する分布傾向を示す(第7表)。この傾向は氷I末～氷II式初頭の土器群の分布とも合致する(第37図)。

したがって、黒曜石製の小形剥片石器と安山岩・泥岩・凝灰岩を用いた打製石斧等の石器製作は、氷I式～II式の同時期のものと判断できる。なお、出土した石器群は傾斜地が平坦面にさしかかる箇所でも出土したものであるため、原位置から既に移動した堆積層中の遺物である可能性が非常に高い。そのため、製作の場についての検討を加えることはできない。

下信濃石遺跡では限定される時期に黒曜石を用いた小形剥片石器と、安山岩等の石材を用いた打製石斧製作が、製作時に生じる剥片を伴って明瞭な痕跡として出土したことに意義がある。

さて以前、佐久市東五里田遺跡の水II式の土坑から出土した石器群のなかに、推定復元最大長30cm前後の大形の打製石鎌が含まれていることに触れたことがある(森泉ほか2004)。今回、東五里田遺跡より一段階古い当遺跡では、推定復元長20cm前後の大形打製石斧の断片が出土しているため、縄文晩期後葉から最大長20cm前後の大形打製石斧が若干伴う石器組成へ変化している可能性がある。今後の種類の増加を待ちたい。

また、刃部に土ずれ痕が認められる打製石斧が出土しているため、一部の打製石斧が土壌を対象とした道具として利用されたことがわかる。打製石斧が掘削具として利用されたものか、あるいは伐採具として利用されたものか、明らかにするためにもデータを今後も採取していく必要がある。

4. まとめ

本報告では出土石器群の技術的・形態的特徴、黒曜石製石器群の産地推定分析、石器群の分布状況について資料に即しながら報告を行った。下信濃石遺跡の有茎鎌は縄文晩期後葉の形態属性を多くとどめており、なおかつ黒曜石を用いた小形の剥片石器製作と、打製石斧製作の痕跡が明瞭に残されている点で意義のある遺跡である。

また、望月明彦氏による黒曜石の産地推定分析の結果、103点中102点が諏訪星ヶ台群という結果を得た。この分析点数の割合は出土した黒曜石製石器群817点のうち12.6%と一部ではあるが、ツールに対してはほぼ全点の分析を行っているため、遺跡内の傾向として捉えてよいものであろう。既に結果の得ているほぼ同時期の東五里田遺跡と同様の産地構成であり、佐久盆地では弥生中期中葉以前までは諏訪星ヶ台群が黒曜石の産地として主に利用されていたことがわかる。

一方で、弥生中期中葉以後、諏訪星ヶ台群の産地を主体としつつも、ある一定量の割合で和田群が伴うことが今回の下信濃石遺跡の結果を得て、より一層鮮明となった。佐久盆地のみならず長野県内の各盆地に大規模な集落遺跡が出現する中期中葉の粟林式期に鮮明化する現象でもあるので、この背景に以前の時期までとは異なる黒曜石流通システムが構築された可能性がある。こうした背後を探る材料を下信濃石遺跡は提供している点でも意義のある遺跡である。

(馬場伸一郎)

(引用・参考文献)

- 池谷勝典2001「打製石斧研究の着眼点」『佐久考古通信』No82佐久考古学会
池谷勝典・馬場伸一郎2003「弥生時代飯田盆地における打製石鎌の用途について」『第6回中部弥生時代研究会発表要旨集』
角張淳・2000「長野県氷遺跡出土の剥片石器の分析」『東京考古』18東京考古学会
鈴木道之助「縄文時代晩期における石鎌小考—所謂飛行機鎌と晩期石鎌について—」『古代文化』26
—7— 古代学協会, 12—32頁
富沢・明ほか2004「後家山遺跡・東久保遺跡・宮田遺跡Ⅰ・Ⅲ」佐久市教育委員会
馬場伸一郎2004a「佐久市東五里田遺跡から出土した弥生前期石器群について」『東五里田遺跡』佐

久市教育委員会、34-40頁

馬場伸一郎2004b「後家山遺跡出土の弥生黒曜石製石器群の検討」『後家山遺跡・東久保遺跡・宮田遺跡I・Ⅲ』佐久市教育委員会、555-568頁

馬場伸一郎2005a「西一本柳遺跡X次調査出土の弥生石器群の評価」『西一本柳遺跡X』佐久市埋蔵文化財調査報告書127集 佐久市教育委員会、117-139頁

馬場伸一郎2005b「箕輪遺跡出土の弥生石器群の評価」『箕輪遺跡』長野県埋蔵文化財センター、388-397頁

森泉かよ子ほか2004「東五里田遺跡」佐久市教育委員会

森泉かよ子ほか2005「西一本柳遺跡X」佐久市教育委員会

第2a表 黒曜石・チャート製の石器観察表

調査 通称	グロット 上層 番号	数量	器種	断面 形状	石材	定規測定分析 (望月明彦氏)	長さ 幅 厚さ 重量				状態	備考	
							mm	mm	mm	g			
1	Bお2	138	有茎錐	l f b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	12.4	8.8	1.7	0.2			
2	Bか2		有茎錐	l b b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	11.4	8.6	1.7	0.1			
3	Bか2		有茎錐	l d -	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	9.3	1.6	0.2	茎欠損		
4	Bお3		有茎錐	l b b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	14.7	10.4	3.1	0.3			
5	Bお3		有茎錐	l d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	17.6	10.9	2.3	0.3			
6	Bか2	611	有茎錐	l d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	15.3	12.8	3.7	0.4			
7	Bお2		有茎錐	l v b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	17.9	8	1.5	0.2			
8	Bか2	29	有茎錐	l d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	17.2	11.5	3	0.3			
9	Bく3		有茎錐	l b b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	22.3	11.9	3.7	0.6			
10	Bお3		有茎錐	l b b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	20.6	12.6	3.6	0.6			
11	Bお2	136	有茎錐未成品	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	21.6	8.8	2.8	0.5			
12	Bお2	127	有茎錐未成品	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	20.6	14.8	3.7	1.0			
13	Bか2	97	有茎錐未成品	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	20.6	12.5	3.8	0.7		表面に剥離面状の自然面残す	
14	Bか2		有茎錐	不明	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	9.6	2.8	0.3	茎欠損	
15	Bか2	113	有茎錐	- b a	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	10.5	2.3	0.3	先端・茎欠損		
16	Bか2	44	有茎錐	- b b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	11.2	2.6	0.4	先端・茎欠損		
17	Bか2	67	有茎錐	l v d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	12.4	2.3	0.3	先端欠損		
18	Bか2	42	有茎錐	- d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	13.0	3.2	0.4	先端欠損		
19	Bか2	43	有茎錐	l a b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	19.7	10.8	2.6	0.4			
20	Bか2		有茎錐	l l a b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	17.4	11.0	3.0	0.4			
21	Bか2		有茎錐	l d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	12.5	2.8	0.4	茎欠損		
22	Bお2		有茎錐	l v b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	12.8	2.1	0.3	茎欠損		
23	Bか2	40	有茎錐	- b b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	-	13.0	2.9	0.5	先端・茎欠損		
24	Bか2	86	有茎錐	l d b	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	17.9	13.8	4.4	0.7			
25	Cこ5		有茎錐未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	18.7	14.9	4.2	1.0		
26	Aき10		有茎錐	- a c	安山岩	-	-	17.1	3.8	1.0	先端欠損		
27	Bお3		有茎錐	l d a	チャート	-	-	15.9	4.2	1.2	先端欠損		
28	Bか2	81	有茎錐未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	16.8	3.9	0.7	鎌身欠損		
29	T a 12		凹茎錐	l b d	黒曜石	和田土屋橋西群	16.4	12.7	2.8	0.4			
30	Bか2		石錐未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	14.4	14.8	3.5	0.5		
31	Bお2		凹茎錐	l b d	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	9.4	1.9	0.3				

32	Bか2	47	凹基錐	不明	d	黒曜石	諏訪星ヶ台群			3.8	0.6	鏝身欠損		
33	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	16.3	11.8	1.6	0.3			
34	Bお2		石鏝断片	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群					0.1	鏝身欠損	
35	Bか2		石鏝	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	22.1	9.7	5.1	1.0		先端使用痕なし	
36	Bお2	131	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	15.2	11.5	3.1	0.4			
37	Bお2	130	平基錐	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	13.4	9.8	2.5	0.4		有基鏝未成品の可能性あり。	
38	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	15.8	12.9	4.0	0.8			
39	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	15.4	15.2	4.0	0.9			
40	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	16.2	16.2	4.5	1.1			
41	Bお2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	16.1	13.2	2.4	0.5			
42	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	13.3	14.5	2.4	0.5			
43	Bお2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	17.4	18.9	4.8	1.6			
44	Bか2	121	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	18.3	14.1	4.2	1.0		蓋を作り出す段階前の状態と思われる	
45	Bか1		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	15.7	11.7	3.4	0.7		蓋を作り出す段階前の状態と思われる	
46	Bお2	133	有基鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	20.3	11.1	5.6	1.1			
47	Bお2	135	有基鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	18.0	10.4	3.7	0.5			
48	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	23.1	15.0	4.9	1.4		有基鏝の未成品と思われる	
49	Bか2	137	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	19.7	12.7	4.2	0.8			
50	Bお2	132	有基鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	23.1	11.5	3.7	1.0			
51	Bか2	71	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	20.8	16.5	6.6	2.4		表面に割傷面状の自然面残す	
52	Bか2	92	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	20.0	13.6	4.0	0.8			
53	Bお2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	21.8	17.7	6.6	2.2			
54	Bか2	54	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	24.2	17.7	7.3	2.6			
55	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	25.0	24.8	10.7	5.1			
56	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	19.3	14.6	4.8	1.0			
57	Bお2		削片断片	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	9.5	18.8	8.4	1.4			
58	Bお2		石鏝	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	34.4	12.3	6.7	2.1			
59	Bか3		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群					2.6	0.8	鏝身欠損
60	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	19.4	15.1			5.6	1.6	
61	Bか1		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	17.3	18.5	4.1	1.2			
62	Bか2		石鏝断片	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群					3.6	0.3	鏝身欠損
63	Bお2		石鏝未成品断片	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群					3.9	0.5	
64	Bか2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群		13.7	3.1	0.7		先端欠損	
66	Bお2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	21.1	16.8	4.5	1.6			
66	Bか2	101	平基錐	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群		19.3	5.4	1.6		先端欠損	
67	Bか1	6	石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	17.0	14.7	2.8	0.7			
68	Bお2		石鏝未成品	不明	不明	黒曜石	諏訪星ヶ台群	18.8	20.6	4.6	1.6			
69	Bか2		石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	12.9	30.0	6.2	2.3			
70	Bか2		摩石	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	25.3	17.4	17.8	9.1			
71	D17		石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	16.9	29.6	5.8	2.5			
72	Bか2		石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	18.0	30.0	8.1	4.2			
73	Bか2	108	両極石器	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	21.0	21.1	7.8	3.4		両極石器の断片と思われる	
74	Bお2		両極石器	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	17.8	20.2	5.1	3.0			
75	Bか1	81	摩石	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	18.5	16.4	11.8	3.4			
76	Bか2	53	石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	15.7	25.8	9.6	3.7			
77	Bお2		石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	15.3	30.7	7.5	2.7			
78	Bお2	129	石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	22.3	25.2	8.4	4.9			
79	Bか2	84	石核	—	—	黒曜石	諏訪星ヶ台群	24.5	29.7	9.7	6.5			

80	Bか2	112	石核	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	37.0	14.9	13.0	4.6	
81	Bか2		石核	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	12.4	36.0	13.8	5.1	
82	Bお2		石核	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	19.0	38.6	9.4	3.1	
83	Bか2		石核	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	22.7	41.0	15.3	11.3	
84	Bか2		剥片断片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	10.1	14.9	4.2	0.4	
85	Bお2		剥片断片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	12.4	12.6	4.1	0.5	
86	Bお2		剥片断片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	17.1	7.5	5.4	0.7	両側打撃により生じた剥片と思われる
87	Bお2		二次加工剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	21.4	14.6	8.1	1.7	
88	Bか2		両様剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	24.1	12.0	4.0	1.0	
89	Bか2		使用痕剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	22.6	14.0	5.7	1.4	
90	Bか1	23	剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	21.6	10.7	3.3	0.6	
91	Bか1		使用痕剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	15.6	12.8	4.7	0.8	
92	Bか1		剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	16.5	15.5	2.9	0.5	
93	Bか1	11	使用痕剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	21.9	10.8	4.6	0.8	
94	Bか1	5	剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	23.6	12.6	6.5	1.3	
95	Bか1		二次加工剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	19.4	13.0	1.5	0.5	
96	Bか1		石核	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	12.3	19.2	6.7	1.9	
97	Bか2		二次加工剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	22.8	14.9	3.8	0.9	
98	Bお2		石核	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	19.7	24.7	9.1	3.2	
99	Bか2		剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	34.4	20.7	5.5	2.8	
100	Bか1	2	剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	32.5	16.3	11.0	4.6	
101	Bか2	31	剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	13.0	28.3	5.8	1.4	
102	Bか2	37	二次加工剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	9.4	24.5	5.0	0.9	
103	Bか2	49	剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	32.5	21.7	4.1	2.0	
104	Bか2	106	剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	18.0	27.2	6.7	2.5	
105	Bか2	45	両様剥片	—	—	黒曜石	諏訪屋ヶ台群	27.6	9.5	4.8	1.2	

第2b表 安山岩・泥岩・砂岩製の石器観察表

通番	ブリック 上げ 番号	形状	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	保存状態	備考	
601	Bお2		打製石斧	泥岩	63.4	40.4	12.9	39.7	刃部欠損	
602	Bか1		打製石斧	粘板岩	63.8	50.7	17.8	52.2	完形	刃部破損、裏面を刃部と誤り、刃部附近やや等化
603	Bか2		打製石斧	粘板岩	57.7	37.6	9.7	23.2	完形	刃部形成のための細かな剥離あり、
604	Bか2		打製石斧	砂岩	109.9	59.1	14.5	103.7	完形	刃部に使用痕なし、製作途中の可能性あり、
605	Dい6		打製石斧	凝灰岩	70.6	48.7	12.2	47.9	刃部欠損	
606	Dい4		打製石斧	安山岩	60.4	61.4	8.7	32.7	基部欠損	刃部に土すれによる使用痕明瞭、
607	A c9		打製石斧	安山岩	35.7	47.6	35.4	31.9	基部断片	
608	D20		打製石斧	泥岩	48.2	54.4	9.6	55.1	被熱による剥離	
609	Bか2		二次加工剥片	泥岩	96.5	72.3	13.7	91.6	完形	
610	Bか2		使用痕剥片	泥岩	82.6	58.9	13.3	58.4	完形	右側面に使用痕剥離あり、
611	Bか2		二次加工剥片	泥岩	35.9	38.5	7.1	11.1	完形	
612	Bお2		石棒	片岩	39.9	32.5	10.8	15.7	断片	
613	Bか2		使用痕剥片	安山岩	108.7	66.9	15.9	75.2	完形	
614	Bか2	187	打製石斧刃部破片	砂岩	82.6	74.1	9.1	73.7	完形	刃部付近に土すれによる使用痕顕著、
615	Bか2		台石	砂岩	53.8	46.1	22.7	90.8	断片	
616	Bお2		台石	安山岩	65.0	61.0	27.4	143.5	断片	
617	Bか1		二次加工剥片	安山岩	70.7	60.8	10.4	41.2	完形	
618	Bか2		円盤状石器	安山岩	116.0	99.0	38.1	392.0	完形	

619	Bか3	削器	砂岩	87.4	70.8	24.5	182.7	完形		
620	Bか1	台石	安山岩	108.4	88.4	24.0	318.0	断片		
621	Bか2	打製石斧	安山岩	100.9	70.2	36.5	321.8	刃部欠損	磨定部c a前後の大形打製石斧の断片と見られる。	
622	Bか1	92	磨石十餘石	安山岩	65.8	101.0	57.7	526.6	断片	表裏に磨り面あり、表裏左右面に磨き痕あり。
623	P275		磨石	安山岩	111.9	56.5	47.0	425.0	完形	上下面に磨き痕。
624	Bか1	91	磨石十餘石	砂岩	99.9	120.5	63.7	1009.0	断片	表裏面に磨り面、表裏左右面に磨き痕。
625	Bき1		敲石	砂岩	110.3	18.6	7.9	347.5	完形	表裏面と上下面に磨き痕。

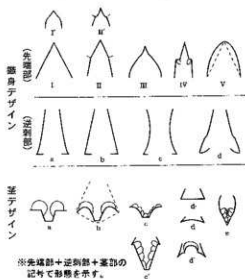
第3表 小形割片石器の石材組成

器種	石材			合計
	チャート	安山岩	黒曜石	
有茎鎌			21	23
凹茎鎌			3	3
平茎鎌			2	2
石鎌断片			2	2
有茎鎌未製品			8	8
石鎌未製品			26	26
石鎌未製品断片			1	1
石鎌			2	2
使用痕断片			3	3
二次加工割片品			4	4
両極石器			2	2
両極断片			2	2
割片			8	8
割片断片			4	4
石核			13	13
磨石			2	2
総計	1	1	103	105

第4表 石鎌の鎌身形態と茎形態

鎌身形態	茎形態				総計
	a	b	c	d	
I a	1				1
I b	4			2	6
I d	1	5			6
II a	1				1
II b	1				1
IV b	2				2
IV d	1				1
-a		1			1
-b	1	2			3
-d		1			1
不明		3	1	4	
総計	2	21	1	3	27

第6図 石鎌の形態分類模式図



第5表 佐久盆地における弥生時代遺跡の黒曜石産地推定結果(分析は望月明彦氏)

遺跡名	時期	調査条件	産地	産地										推定不可	総計		
				和田 山形	和田 土屋	和田 土屋	和田 土屋	和田 土屋	和田 高松	和田 小栗	和田 美野	和田 フノウ	和田 赤川			和田 千ヶ池	
下信濃石	縄文晩期後半 (水1式)	一部	102					1									103
東五里田	弥生前期後半 (水11式)	全点	28								1					1	30
根々井芝富	弥生中期後半	一部	47											13			60
西一本柳	弥生中期後半	全点	86	15	1	5	8			1	13	1			10		140
後家山	弥生中期後半	全点	195	10	3			1	1					3		1	214
東久保	弥生後期後半	全点	4	2													6
総計			462	27	4	5	10	1		2	13	1	16	10	2	553	

第6表 グリット別出土点数と重量(黒曜石)

	黒曜石(点数)										黒曜石(重量g)											
	有茎 筈	有茎 無筈	その他石 類	その 他石類 の他石類 成分	石 錐	使用 痕跡あり	二 次加工	尚 ほ石類 存在	割 片	石 核	磨 石	有 茎 類	有 茎 無 筈	その 他石 類	その 他石類 の他石類 成分	石 錐	使用 痕跡あり	二 次加工	尚 ほ石類 存在	割 片	石 核	磨 石
Aき10	1	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	1.0	—	—	—	—	—	3.5	—	6.9	—	—
Bあ4	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.7	—	—
Bい4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13.1
Bえ6	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.2	—	—
Bお1	—	—	—	—	—	—	1	2	21	—	—	—	—	—	—	—	1.1	9.3	12.9	—	—	—
Bお2	3	5	3	7	1	—	16	7	189	4	4	0.7	4.1	0.4	8.4	2.1	—	41.1	10.9	88.1	13.9	15.2
Bお3	—	—	—	—	—	—	4	—	5	—	1	2.4	—	—	—	—	—	7.3	—	2.7	—	3.2
Bか1	—	—	—	3	—	2	1	—	4	1	1	—	—	—	2.6	—	1.6	0.5	—	7.0	1.9	3.4
Bか2	14	2	3	18	1	1	34	5	371	7	4	5.1	1.4	2.5	21.5	1.0	1.4	64.7	6.5	174.6	37.7	21.9
Bか3	—	—	—	1	—	—	1	1	6	—	1	—	—	—	—	—	—	1.5	0.5	2.4	—	2.2
Bき1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—	—
Bき2	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.3	—	—
Bく3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Cこ5	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
土坑	—	—	—	—	—	—	2	1	20	1	1	—	—	—	—	—	—	2.8	2.0	16.5	2.5	7.1
Tあ1	—	—	—	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.6	17.2	—	—
Tあ11	—	—	—	—	—	—	2	1	8	—	1	—	—	—	—	—	—	2.6	4.8	5.6	—	1.5
Tあ12	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	19	8	7	29	2	3	62	18	642	13	14	10.8	5.5	3.3	32.5	3.1	3	125.1	43.6	339.1	56	67.6

第7表 グリット別出土点数と重量(安山岩・凝灰岩・泥岩)

	安山岩・凝灰岩・泥岩(点数)					安山岩・凝灰岩・泥岩(重量)					
	打製石斧	二次加工	使用痕跡あり	打製石斧の 使用痕跡あり	割片	打製石斧	二次加工	使用痕跡あり	打製石斧の 使用痕跡あり	割片	
Aき10											
Bあ4											
Bあ5					1					1.0	
Bい4											
Bい5										3.9	
Bえ6											
Bお1										1.9	
Bお2		1			4	6			39.7	31.4	64.5
Bお3											
Bか1	1					3			52.2		21.7
Bか2	4	5	2	1	10	521.4	167.5	133.6	11.6	102.5	
Bか3				1	1				9.5	8.7	
Bき1					1					6.9	
Bき2											
Bく3											
Cこ5											
Dい4	1					32.7					
Dい6	1					47.9					
土坑	1				3	55.1			1.7	24.0	
Tあ1											
Tあ11											
Tあ12											
合計	9	5	2	7	26	749	167.5	133.6	54.2	235.1	

第8表 整建建物址一覽表

建物名	抽出位置	面積 (㎡)	容積率 (%)	容積 (m ³)	用途	備考
T a 1	A 7/10	336(X)×320	—	—	—	N-26-W
T a 2	A 7/4	432×372	—	—	—	N-37-W
T a 3	B 7/3	1688×372	3.0(6.1)×(2.00)	21~54	9~62	N-35-W あり
T a 4	B 7/4	248×390	—	—	—	N-38-W
T a 5	C 1/8	444×352	2.2(4.0)×(1.44)	16~40	9~56	N-42-E あり
T a 6	B 7.5	440(X)×138	2.0(X)×1.2	22~58	11~63	N-54-W
T a 7	(T 1)	—	—	—	—	T a 3・11に切られる。
T a 8	(T 1)	—	—	—	—	T a 3・11に切られる。
T a 9	D 1.5	528×400	2.4(0.1)×(2.0)	24~70	11~43	N-10-W あり
T a 10	D 1	672×324	(1)(2.0)×(1.84)	2.0×1.84	—	N-12 D 39-48-52 P 125-130-131-148-149-151-155
T a 11	B 3	948(X)×232	312.0(X) X	15~72	6~46	N-37-W
T a 12	D 1	336×324	1.2(0.4) X	15~22	9~33	N-13-W
T a 13	B 1	—	3.6(5.1)×(2.2)	—	—	D 16, P 124・150・156・157に切られる。T a 10, D 52を切る。西側隣接。M1は向隣地。

(俵長)・(指定幅)

第9表 土坑一覽表

建物名	抽出位置	面積 (㎡)	容積率 (%)	容積 (m ³)	用途	備考
D 1	A 8/9	—	—	—	—	N-61-E
D 2	A 8/9	—	—	—	—	N-25-W
D 3	A 8/9	288	2.16	82	82	N-40-W
D 4	B 3	228	1.22	122	122	N-9-E
D 5	B 3	138	0.56	56	56	N-0
D 6	B 2	208	2.00	31	31	N-85-W
D 7	B 3	101	0.76	29	29	N-84-E
D 8	B 3	150	1.09	33	33	N-33-W
D 9	B 3	203	2.03	64	64	N-62-E
D 10	A 8/8	183	1.83	101	101	N-70-E
D 11	A 8/8	97	0.97	101	101	N-21-W
D 12	A 8/10	136	1.36	29	29	N-10-W
D 13	A 8/10	—	—	—	—	N-30-E
D 14	次	—	—	—	—	D 12に切られる。
D 15	次	—	—	—	—	D 12に切られる。
D 16	A 8/9	142	1.42	30	30	N-19-W
D 17	A 8/10	148	1.48	38	38	N-11-W
D 18	B 3	—	—	—	—	N-33-W
D 19	次	—	—	—	—	T a 1, P 33-59に切られる。
D 20	B 3	109	1.09	25	25	N-45-W
D 21	B 3	84	0.84	60	60	N-17-E
D 22	C 7	208	1.16	73	73	N-34-E
D 23	B 3	312	2.04	33	33	N-57-W
D 24	C 7	69	0.69	26	26	N-70-W
D 25	B 3	329	1.78	67	67	N-52-W
D 26	B 4	152	1.04	30	30	N-56-E
D 27	B 4	120	0.80	17	17	N-20-W
D 28	C 2	89	0.89	12	12	N-41-W

(俵長)・(指定幅)

遺構名	検出位置	平面形状	北偏角 (°)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備考
D29	C476	円形	98	88	27	N-45°-W	
D30	C56	隅丸長方形	182	128	16	N-97°-W	
D31	C27	楕円形	128	71	41	N-57°-E	
D32	C477	隅丸長方形	152	(126)	61	N-41°-W	P109を切る。 井戸壁。
D33	C475	楕円形	130	114	58	N-5°-E	
D34	次						
D35	C39	楕円形	128	114	27	N-14°-W	
D36	C310	長方形	114	97	19	N-12°-W	
D37	C39	隅丸長方形	171	128	21	N-13°-W	
D38	C10	円形	146	(92)	38	N-28°-E	
D39	D21	長方形	120	107	30	N-86°-E	
D40	D66	楕円形	(278)	180	50	N-0°	カクランに切られ、T a 9を切る。 カクランに切られる。T a 9を切る。
D41	E410	—	(278)	180	40	N-38°-W	西側調査区外、P250・252に切られる。
D42	D69	楕円形	128	74	25	N-63°-E	P216～218に切られる。
D43	D63	—	118	(52)	22	N-33°-W	西側調査区外、P223に切られる。
D44	D26	楕円形	(156)	155	42	N-63°-E	西側調査区外、P223に切られる。
D45	D68	隅丸長方形	164	120	37	N-30°-W	P158に切られる。
D46	D12	隅丸長方形	142	130	35	N-12°-W	
D47	D13	隅丸長方形	(170)	125	35	N-3°-E	西側調査区外、P163～167に切られ、D52を切る。
D48	D72	楕円形	116	87	13	N-29°-W	T a 10、P153を切る。
D49	D14	楕円形	108	24	44	N-11°-W	斜面に切られる。
D50	次						
D51	D13	楕円形	128	(60)	30	N-17°-W	D52を切り、カクランに切られる。馬または牛の足見骨出土。近代。
D52	D12	—	(288)	(186)	55	N-30°-W	カクランに切られる。T a 12、D47・51、P184・187・161・163に切られ、T a 10を切る。

第10表 溝溝一覧表

遺構名	検出位置	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備考
M1	B81-B93	(9.35)	20～78	2～27	西側調査区外、P48・50・54～57、カクランに切られる。
M2	A88	(3.94)	40～68	20	D4・カクランに切られる。
M3	B78-B87	10.35	42～76	7～28	P101を切る。
M4	B68-C108	(6.14)	192～202	40～51	T a 5に切られる。
M5	D18-D19	(3.08)	126～132	16～25	南側・北面調査区外、
M6	D18-D19	(9.38)	24～72	5～19	西側調査区外、

(隊長)・(指定)

車検番号	地上位置	母線 (mm)	平均値	車検ピット	地上位置	母線 (mm)	平均値		
P1	B 3	24×23×9	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P48	B 2	30×29×36	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P2	B 3	29×20×7	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P49	B 2	47×35×39	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P3	B 4	25×20×11	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P50	B 2	58×43×52	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P4	B 4	54×42×16	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P51	B 2	31×26×37	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P5	B 4	46×35×23	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P52	B 3	33×26×31	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P6	B 4	29×25×13	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P53	B 1	24×21×31	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P7	B 4	38×35×18	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P54	B 1	37×30×21	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P8	B 4	56×46×15	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P55	B 2	40×35×58	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P9	B 4	44×36×13	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P56	B 2	45×37×46	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P10	B 4	31×25×9	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P57	B 1	28×24×45	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P11	B 4	34×25×8	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P58	B 1	35×33×41	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P12	B 5	28×26×17	円形	黒褐色土層 (10Y R2/3)	P59	B 1	26×21×24	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P13	B 4	40×33×17	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/3)	P60	B 5	26×25×25	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P14	B 4	38×28×14	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/3)	P61	B 5	31×21×27	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P15	B 5	38×28×14	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/3)	P62	B 5	26×26×11	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P16	B 5	30×25×22	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/3)	P63	B 5	19×16×5	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P17	B 5	30×25×22	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/3)	P64	B 3	32×31×1	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P18	B 4	70×64×45	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P65	B 5	29×28×12	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P19	B 3	103×34×23	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P66	B 5	14×14×12	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P20	B 25	42×36×17	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P67	B 4	22×20×42	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P21	B 25	52×40×19	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P68	B 4	31×30×30	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P22	B 25	50×42×17	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P69	B 3	20×19×10	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P23	B 25	28×25×18	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P70	B 4	20×20×20	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P24	B 4	29×24×10	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P71	B 4	29×28×23	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P25	B 3	56×(50)×32	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P72	C 4	30×26×14	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P26	B 3	45×35×31	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P73	C 4	27×26×24	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P27	B 4	75×(50)×12	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P74	B 4	41×20×24	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P28	B 25	33×27×36	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P75	C 4	40×32×28	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P29	B 22	39×27×38	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P76	C 4	30×28×24	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P30	B 22	50×43×15	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P77	C 5	30×22×19	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P31	B 23	37×30×27	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P78	C 5	36×21×15	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P32	B 23	80×54×25	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P79	B 5	22×22×11	円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P33	B 1	35×34×15	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P80	B 5	30×30×15	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P34	A 8	110×72×30	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P81	B 5	33×29×32	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P35	A 8	41×30×33	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P82	C 5	30×28×22	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P36	A 10	54×42×33	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P83	C 5	30×28×13	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P37	A 10	35×28×29	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P84	C 5	30×28×27	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P38	B 1	35×30×26	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P85	C 5	32×28×23	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P39	B 1	28×28×26	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P86	C 5	31×30×34	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P40	B 21	42×33×18	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P87	C 5	30×26×19	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P41	B 21	46×25×34	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P88	C 6	30×26×19	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P42	B 1	30×25×16	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P89	C 6	38×36×18	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P43	B 1	26×18×22	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P90	C 6	35×35×23	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P44	B 1	33×30×26	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P91	C 6	30×28×19	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P45	B 1	33×30×26	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P92	B 5	43×29×20	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P46	B 1	39×29×44	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P93	B 5	49×39×20	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)
P47	B 1	39×29×44	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)	P94	B 5	47×39×21	楕円形	黒褐色土層 (10Y R2/2)

標頭名	出土位置	規格(寸)	平面形状	質地	備考
P186	D 33	32×29×26	円形	—	D 25を切る。
P187	D 33	20×19×11	円形	—	面取切付。
P188	D 33	22×23×15	楕円形	—	面取切付。
P189	D 33	(20)×23×15	楕円形	—	T 10を切る。
P190	D 31	35×31×29	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	P 197を切る。
P191	D 15	25×22×16	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P192	D 15	35×31×29	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P193	D 15	40×30×18	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P194	D 15	24×22×13	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P195	D 15	36×34×23	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P196	D 15	45×40×25	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P197	D 15	28×25×23	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P198	D 15	53×(43)×35	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P199	D 15	40×34×21	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	器面縁付。P 190に 切5分、T a 9を切る。
P200	D 15	32×30×42	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P201	D 16	39×32×16	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P202	D 16	27×25×14	円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	—
P203	D 16	29×29×11	円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	—
P204	D 16	48×42×20	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P205	D 16	49×41×19	楕円形	1.黒褐色土層(10Y R 2/2) 2.黒褐色土層(10Y R 1.7/1)	T a 9を切る。
P206	D 16	40×40×29	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	T a 9を切る。
P207	D 17	100×(43)×21	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	器面縁付。外。 T a 9を切る。
P208	D 17	50×44×30	楕円形	1.黒褐色土層(10Y R 2/3) 2.黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P209	D 68	40×40×27	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P210	D 68	36×23×13	長方形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P211	D 68	75×48×20	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P212	D 68	35×36×14	長方形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P213	D 68	34×31×13	長方形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P214	D 68	25×24×17	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P215	D 68	26×18×11	長方形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P216	D 68	26×20×9	長方形	—	—
P217	D 68	34×32×26	楕円形	—	—
P218	D 69	28×27×18	楕円形	—	—
P219	D 69	28×22×21	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P220	D 69	34×32×36	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P221	D 69	20×19×10	方形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P222	D 69	31×27×21	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P223	D 69	25×26×32	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P224	D 69	32×30×27	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P225	D 69	41×30×34	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P226	D 69	29×28×26	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P227	D 69	23×23×16	円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	—
P228	D 69	31×29×36	円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	—
P229	D 69	30×27×29	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P230	D 69	32×32×20	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P231	E 59	64×54×13	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	P 232に切付合?

標頭名	出土位置	規格(寸)	平面形状	質地	備考
P232	E 59	26×25×18	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	P 231に切付合?
P233	E 59	29×29×10	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	P 234を切る。
P234	E 59	40×30×31	円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	P 233に切5分。
P235	E 59	46×37×39	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P236	E 59	30×27×31	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P237	D 69	32×27×31	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P238	D 610	25×18×12	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P239	D 610	(28)×35×23	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	器面縁付。M 6を切る。
P240	D 610	42×38×29	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P241	D 610	41×35×43	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P242	D 610	20×(12)×18	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	器面縁付。M 6を切る。
P243	D 610	30×29×34	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P244	D 610	(22)×24×35	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	器面縁付。外。
P245	D 610	24×19×5	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	—
P246	E 10	58×44×27	楕円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P247	E 10	32×25×14	楕円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	P 248を切る。
P248	E 10	33×30×16	円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	P 247に切5分。
P249	E 10	27×27×12	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P250	D 610	44×(16)×30	円形	黒褐色土層(10Y R 2/3)	D 41を切る。
P251	E 10	32×25×30	楕円形	黒褐色土層(10Y R 3/2)	D 41を切る。
P252	E 10	22×19×9	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	D 41を切る。
P253	E 10	26×26×30	円形	黒褐色土層(10Y R 2/2)	—
P254	B 81	42×38×10	楕円形	—	—
P255	B 81	22×16×14	楕円形	—	—
P256	B 81	21×13×11	楕円形	—	—
P257	B 82	23×20×17	円形	—	—
P258	B 82	26×24×15	楕円形	—	—

品名	規格	単位	数量	単価	金額	仕入先	備考
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

品名	規格	数量	単価	金額	単位	備考	品名	規格	数量	単価	金額	単位	備考
138	138	81.5	3.7	301.55	個		138	138	81.5	3.7	301.55	個	
139	139	7.5	8.5	63.75	個		139	139	7.5	8.5	63.75	個	
140	140	3.5	8.5	29.75	個		140	140	3.5	8.5	29.75	個	
141	141	3.5	8.5	29.75	個		141	141	3.5	8.5	29.75	個	
142	142	3.5	8.5	29.75	個		142	142	3.5	8.5	29.75	個	
143	143	3.5	8.5	29.75	個		143	143	3.5	8.5	29.75	個	
144	144	3.5	8.5	29.75	個		144	144	3.5	8.5	29.75	個	
145	145	3.5	8.5	29.75	個		145	145	3.5	8.5	29.75	個	
146	146	3.5	8.5	29.75	個		146	146	3.5	8.5	29.75	個	
147	147	3.5	8.5	29.75	個		147	147	3.5	8.5	29.75	個	
148	148	3.5	8.5	29.75	個		148	148	3.5	8.5	29.75	個	
149	149	3.5	8.5	29.75	個		149	149	3.5	8.5	29.75	個	
150	150	3.5	8.5	29.75	個		150	150	3.5	8.5	29.75	個	
151	151	3.5	8.5	29.75	個		151	151	3.5	8.5	29.75	個	
152	152	3.5	8.5	29.75	個		152	152	3.5	8.5	29.75	個	
153	153	3.5	8.5	29.75	個		153	153	3.5	8.5	29.75	個	
154	154	3.5	8.5	29.75	個		154	154	3.5	8.5	29.75	個	
155	155	3.5	8.5	29.75	個		155	155	3.5	8.5	29.75	個	
156	156	3.5	8.5	29.75	個		156	156	3.5	8.5	29.75	個	
157	157	3.5	8.5	29.75	個		157	157	3.5	8.5	29.75	個	
158	158	3.5	8.5	29.75	個		158	158	3.5	8.5	29.75	個	
159	159	3.5	8.5	29.75	個		159	159	3.5	8.5	29.75	個	
160	160	3.5	8.5	29.75	個		160	160	3.5	8.5	29.75	個	
161	161	3.5	8.5	29.75	個		161	161	3.5	8.5	29.75	個	
162	162	3.5	8.5	29.75	個		162	162	3.5	8.5	29.75	個	
163	163	3.5	8.5	29.75	個		163	163	3.5	8.5	29.75	個	
164	164	3.5	8.5	29.75	個		164	164	3.5	8.5	29.75	個	
165	165	3.5	8.5	29.75	個		165	165	3.5	8.5	29.75	個	
166	166	3.5	8.5	29.75	個		166	166	3.5	8.5	29.75	個	
167	167	3.5	8.5	29.75	個		167	167	3.5	8.5	29.75	個	
168	168	3.5	8.5	29.75	個		168	168	3.5	8.5	29.75	個	
169	169	3.5	8.5	29.75	個		169	169	3.5	8.5	29.75	個	
170	170	3.5	8.5	29.75	個		170	170	3.5	8.5	29.75	個	
171	171	3.5	8.5	29.75	個		171	171	3.5	8.5	29.75	個	
172	172	3.5	8.5	29.75	個		172	172	3.5	8.5	29.75	個	
173	173	3.5	8.5	29.75	個		173	173	3.5	8.5	29.75	個	
174	174	3.5	8.5	29.75	個		174	174	3.5	8.5	29.75	個	

042	106	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

第13表 学生前開士器一覽表

(續)(雜貨類)

品名	規格	單位	數量	備註	品名	規格	單位	數量	備註
1. 磁器	小磁器	個	121-4		磁器	大磁器	個	121-5	
2. 磁器	大磁器	個	121-6		磁器	中磁器	個	121-7	
3. 磁器	小磁器	個	121-8		磁器	大磁器	個	121-9	
4. 磁器	大磁器	個	121-10		磁器	中磁器	個	121-11	
5. 磁器	小磁器	個	121-12		磁器	大磁器	個	121-13	
6. 磁器	大磁器	個	121-14		磁器	中磁器	個	121-15	
7. 磁器	小磁器	個	121-16		磁器	大磁器	個	121-17	
8. 磁器	大磁器	個	121-18		磁器	中磁器	個	121-19	
9. 磁器	小磁器	個	121-20		磁器	大磁器	個	121-21	
10. 磁器	大磁器	個	121-22		磁器	中磁器	個	121-23	
11. 磁器	小磁器	個	121-24		磁器	大磁器	個	121-25	
12. 磁器	大磁器	個	121-26		磁器	中磁器	個	121-27	
13. 磁器	小磁器	個	121-28		磁器	大磁器	個	121-29	
14. 磁器	大磁器	個	121-30		磁器	中磁器	個	121-31	
15. 磁器	小磁器	個	121-32		磁器	大磁器	個	121-33	
16. 磁器	大磁器	個	121-34		磁器	中磁器	個	121-35	
17. 磁器	小磁器	個	121-36		磁器	大磁器	個	121-37	
18. 磁器	大磁器	個	121-38		磁器	中磁器	個	121-39	
19. 磁器	小磁器	個	121-40		磁器	大磁器	個	121-41	
20. 磁器	大磁器	個	121-42		磁器	中磁器	個	121-43	
21. 磁器	小磁器	個	121-44		磁器	大磁器	個	121-45	
22. 磁器	大磁器	個	121-46		磁器	中磁器	個	121-47	
23. 磁器	小磁器	個	121-48		磁器	大磁器	個	121-49	
24. 磁器	大磁器	個	121-50		磁器	中磁器	個	121-51	
25. 磁器	小磁器	個	121-52		磁器	大磁器	個	121-53	
26. 磁器	大磁器	個	121-54		磁器	中磁器	個	121-55	
27. 磁器	小磁器	個	121-56		磁器	大磁器	個	121-57	
28. 磁器	大磁器	個	121-58		磁器	中磁器	個	121-59	
29. 磁器	小磁器	個	121-60		磁器	大磁器	個	121-61	
30. 磁器	大磁器	個	121-62		磁器	中磁器	個	121-63	
31. 磁器	小磁器	個	121-64		磁器	大磁器	個	121-65	
32. 磁器	大磁器	個	121-66		磁器	中磁器	個	121-67	
33. 磁器	小磁器	個	121-68		磁器	大磁器	個	121-69	
34. 磁器	大磁器	個	121-70		磁器	中磁器	個	121-71	
35. 磁器	小磁器	個	121-72		磁器	大磁器	個	121-73	
36. 磁器	大磁器	個	121-74		磁器	中磁器	個	121-75	
37. 磁器	小磁器	個	121-76		磁器	大磁器	個	121-77	
38. 磁器	大磁器	個	121-78		磁器	中磁器	個	121-79	
39. 磁器	小磁器	個	121-80		磁器	大磁器	個	121-81	
40. 磁器	大磁器	個	121-82		磁器	中磁器	個	121-83	
41. 磁器	小磁器	個	121-84		磁器	大磁器	個	121-85	
42. 磁器	大磁器	個	121-86		磁器	中磁器	個	121-87	
43. 磁器	小磁器	個	121-88		磁器	大磁器	個	121-89	
44. 磁器	大磁器	個	121-90		磁器	中磁器	個	121-91	
45. 磁器	小磁器	個	121-92		磁器	大磁器	個	121-93	
46. 磁器	大磁器	個	121-94		磁器	中磁器	個	121-95	
47. 磁器	小磁器	個	121-96		磁器	大磁器	個	121-97	
48. 磁器	大磁器	個	121-98		磁器	中磁器	個	121-99	
49. 磁器	小磁器	個	121-100		磁器	大磁器	個	121-101	
50. 磁器	大磁器	個	121-102		磁器	中磁器	個	121-103	

图号	图名	比例	日期	设计	审核	计算	制图	校核	备注
201	小波池	1:50	1985.10.27	
202	小波池	1:50	1985.10.27	
203	小波池	1:50	1985.10.27	
204	小波池	1:50	1985.10.27	
205	小波池	1:50	1985.10.27	
206	小波池	1:50	1985.10.27	
207	小波池	1:50	1985.10.27	
208	小波池	1:50	1985.10.27	
209	小波池	1:50	1985.10.27	
210	小波池	1:50	1985.10.27	
211	小波池	1:50	1985.10.27	
212	小波池	1:50	1985.10.27	
213	小波池	1:50	1985.10.27	
214	小波池	1:50	1985.10.27	
215	小波池	1:50	1985.10.27	
216	小波池	1:50	1985.10.27	
217	小波池	1:50	1985.10.27	
218	小波池	1:50	1985.10.27	
219	小波池	1:50	1985.10.27	
220	小波池	1:50	1985.10.27	
221	小波池	1:50	1985.10.27	
222	小波池	1:50	1985.10.27	
223	小波池	1:50	1985.10.27	
224	小波池	1:50	1985.10.27	
225	小波池	1:50	1985.10.27	
226	小波池	1:50	1985.10.27	
227	小波池	1:50	1985.10.27	
228	小波池	1:50	1985.10.27	
229	小波池	1:50	1985.10.27	
230	小波池	1:50	1985.10.27	
231	小波池	1:50	1985.10.27	
232	小波池	1:50	1985.10.27	
233	小波池	1:50	1985.10.27	
234	小波池	1:50	1985.10.27	
235	小波池	1:50	1985.10.27	
236	小波池	1:50	1985.10.27	
237	小波池	1:50	1985.10.27	
238	小波池	1:50	1985.10.27	
239	小波池	1:50	1985.10.27	
240	小波池	1:50	1985.10.27	
241	小波池	1:50	1985.10.27	
242	小波池	1:50	1985.10.27	
243	小波池	1:50	1985.10.27	
244	小波池	1:50	1985.10.27	
245	小波池	1:50	1985.10.27	
246	小波池	1:50	1985.10.27	
247	小波池	1:50	1985.10.27	
248	小波池	1:50	1985.10.27	
249	小波池	1:50	1985.10.27	
250	小波池	1:50	1985.10.27	

圖號	名稱	材料	數量	備註	圖號	名稱	材料	數量	備註
315	螺絲	40	1		325	螺絲	40	1	
316	螺絲	40	1		326	螺絲	40	1	
317	螺絲	40	1		327	螺絲	40	1	
318	螺絲	40	1		328	螺絲	40	1	
319	螺絲	40	1		329	螺絲	40	1	
320	螺絲	40	1		330	螺絲	40	1	
321	螺絲	40	1		331	螺絲	40	1	
322	螺絲	40	1		332	螺絲	40	1	
323	螺絲	40	1		333	螺絲	40	1	
324	螺絲	40	1		334	螺絲	40	1	
325	螺絲	40	1		335	螺絲	40	1	
326	螺絲	40	1		336	螺絲	40	1	
327	螺絲	40	1		337	螺絲	40	1	
328	螺絲	40	1		338	螺絲	40	1	
329	螺絲	40	1		339	螺絲	40	1	
330	螺絲	40	1		340	螺絲	40	1	
331	螺絲	40	1		341	螺絲	40	1	
332	螺絲	40	1		342	螺絲	40	1	
333	螺絲	40	1		343	螺絲	40	1	
334	螺絲	40	1		344	螺絲	40	1	
335	螺絲	40	1		345	螺絲	40	1	
336	螺絲	40	1		346	螺絲	40	1	
337	螺絲	40	1		347	螺絲	40	1	
338	螺絲	40	1		348	螺絲	40	1	
339	螺絲	40	1		349	螺絲	40	1	
340	螺絲	40	1		350	螺絲	40	1	
341	螺絲	40	1		351	螺絲	40	1	
342	螺絲	40	1		352	螺絲	40	1	
343	螺絲	40	1		353	螺絲	40	1	
344	螺絲	40	1		354	螺絲	40	1	
345	螺絲	40	1		355	螺絲	40	1	
346	螺絲	40	1		356	螺絲	40	1	
347	螺絲	40	1		357	螺絲	40	1	
348	螺絲	40	1		358	螺絲	40	1	
349	螺絲	40	1		359	螺絲	40	1	
350	螺絲	40	1		360	螺絲	40	1	
351	螺絲	40	1		361	螺絲	40	1	
352	螺絲	40	1		362	螺絲	40	1	
353	螺絲	40	1		363	螺絲	40	1	
354	螺絲	40	1		364	螺絲	40	1	
355	螺絲	40	1		365	螺絲	40	1	
356	螺絲	40	1		366	螺絲	40	1	
357	螺絲	40	1		367	螺絲	40	1	
358	螺絲	40	1		368	螺絲	40	1	
359	螺絲	40	1		369	螺絲	40	1	
360	螺絲	40	1		370	螺絲	40	1	
361	螺絲	40	1		371	螺絲	40	1	
362	螺絲	40	1		372	螺絲	40	1	
363	螺絲	40	1		373	螺絲	40	1	
364	螺絲	40	1		374	螺絲	40	1	
365	螺絲	40	1		375	螺絲	40	1	
366	螺絲	40	1		376	螺絲	40	1	
367	螺絲	40	1		377	螺絲	40	1	
368	螺絲	40	1		378	螺絲	40	1	
369	螺絲	40	1		379	螺絲	40	1	
370	螺絲	40	1		380	螺絲	40	1	
371	螺絲	40	1		381	螺絲	40	1	
372	螺絲	40	1		382	螺絲	40	1	
373	螺絲	40	1		383	螺絲	40	1	
374	螺絲	40	1		384	螺絲	40	1	
375	螺絲	40	1		385	螺絲	40	1	
376	螺絲	40	1		386	螺絲	40	1	
377	螺絲	40	1		387	螺絲	40	1	
378	螺絲	40	1		388	螺絲	40	1	
379	螺絲	40	1		389	螺絲	40	1	
380	螺絲	40	1		390	螺絲	40	1	
381	螺絲	40	1		391	螺絲	40	1	
382	螺絲	40	1		392	螺絲	40	1	
383	螺絲	40	1		393	螺絲	40	1	
384	螺絲	40	1		394	螺絲	40	1	
385	螺絲	40	1		395	螺絲	40	1	
386	螺絲	40	1		396	螺絲	40	1	
387	螺絲	40	1		397	螺絲	40	1	
388	螺絲	40	1		398	螺絲	40	1	
389	螺絲	40	1		399	螺絲	40	1	
390	螺絲	40	1		400	螺絲	40	1	
391	螺絲	40	1		401	螺絲	40	1	
392	螺絲	40	1		402	螺絲	40	1	
393	螺絲	40	1		403	螺絲	40	1	
394	螺絲	40	1		404	螺絲	40	1	
395	螺絲	40	1		405	螺絲	40	1	
396	螺絲	40	1		406	螺絲	40	1	
397	螺絲	40	1		407	螺絲	40	1	
398	螺絲	40	1		408	螺絲	40	1	
399	螺絲	40	1		409	螺絲	40	1	
400	螺絲	40	1		410	螺絲	40	1	
401	螺絲	40	1		411	螺絲	40	1	
402	螺絲	40	1		412	螺絲	40	1	
403	螺絲	40	1		413	螺絲	40	1	
404	螺絲	40	1		414	螺絲	40	1	
405	螺絲	40	1		415	螺絲	40	1	
406	螺絲	40	1		416	螺絲	40	1	
407	螺絲	40	1		417	螺絲	40	1	
408	螺絲	40	1		418	螺絲	40	1	
409	螺絲	40	1		419	螺絲	40	1	
410	螺絲	40	1		420	螺絲	40	1	

品番	品名	単位	仕様	材質	色	備考
501	黒	個				B 62
502	黒	個				D 17
503	黒	個				T 17
504	黒	個				C 6 01 01
505	黒	個				B 01 01
506	黒	個				B 01 01
507	黒	個				B 01 01
508	黒	個				B 01 01
509	黒	個				B 02 01
510	黒	個				B 02 01
511	黒	個				B 02 01
512	黒	個				B 02 01
513	黒	個				B 02 01
514	黒	個				B 02 01
515	黒	個				B 02 01
516	黒	個				B 02 01
517	黒	個				B 02 01
518	黒	個				B 02 01
519	黒	個				B 02 01
520	黒	個				B 02 01
521	黒	個				B 02 01
522	黒	個				B 02 01
523	黒	個				B 02 01
524	黒	個				B 02 01
525	黒	個				B 02 01
526	黒	個				B 02 01
527	黒	個				B 02 01
528	黒	個				B 02 01
529	黒	個				B 02 01
530	黒	個				B 02 01
531	黒	個				B 02 01
532	黒	個				B 02 01
533	黒	個				B 02 01
534	黒	個				B 02 01
535	黒	個				B 02 01
536	黒	個				B 02 01
537	黒	個				B 02 01
538	黒	個				B 02 01
539	黒	個				B 02 01
540	黒	個				B 02 01
541	黒	個				B 02 01
542	黒	個				B 02 01
543	黒	個				B 02 01
544	黒	個				B 02 01
545	黒	個				B 02 01
546	黒	個				B 02 01
547	黒	個				B 02 01
548	黒	個				B 02 01
549	黒	個				B 02 01
550	黒	個				B 02 01
551	黒	個				B 02 01
552	黒	個				B 02 01
553	黒	個				B 02 01
554	黒	個				B 02 01
555	黒	個				B 02 01
556	黒	個				B 02 01
557	黒	個				B 02 01
558	黒	個				B 02 01
559	黒	個				B 02 01
560	黒	個				B 02 01
561	黒	個				B 02 01
562	黒	個				B 02 01
563	黒	個				B 02 01
564	黒	個				B 02 01
565	黒	個				B 02 01
566	黒	個				B 02 01
567	黒	個				B 02 01
568	黒	個				B 02 01
569	黒	個				B 02 01
570	黒	個				B 02 01
571	黒	個				B 02 01
572	黒	個				B 02 01
573	黒	個				B 02 01
574	黒	個				B 02 01
575	黒	個				B 02 01
576	黒	個				B 02 01
577	黒	個				B 02 01
578	黒	個				B 02 01
579	黒	個				B 02 01
580	黒	個				B 02 01
581	黒	個				B 02 01
582	黒	個				B 02 01
583	黒	個				B 02 01
584	黒	個				B 02 01
585	黒	個				B 02 01
586	黒	個				B 02 01
587	黒	個				B 02 01
588	黒	個				B 02 01
589	黒	個				B 02 01
590	黒	個				B 02 01
591	黒	個				B 02 01
592	黒	個				B 02 01
593	黒	個				B 02 01
594	黒	個				B 02 01
595	黒	個				B 02 01
596	黒	個				B 02 01
597	黒	個				B 02 01
598	黒	個				B 02 01
599	黒	個				B 02 01
600	黒	個				B 02 01

- ・赤彩の「○」の表記の付くものは、焼成前の赤彩の痕跡のあるものである。「○」のないものは焼成後の赤彩である。
- ・黒色の欄は「黒色処理」が必ずしもなされているかは明確でない。色調が黒色のものも含む。
- ・口唇部の「面取」は端面が平で、口唇部断面形状が四角になっているとされていることである。
- ・色調は、赤が「赤褐色」、黄が「黄褐色」、黒が「黒褐色」の順である。

第14表 古代遺物一覽表

番号	器種	位置		形状・構造	出土位置	出土層	出土位置
		内	外				
1	土師器 壺	(21.0)	内 ミガキ 外 口縁ヨコナデ一筋彫ミガキ	内 10Y R 7/4 (にぶい黄緑) 外	口縁1/4 圓形茶濁	T a 1 検出	
2	土師器 壺	<7.1> 8.0 (2.0)	内 ミガキ 外 ハケ目一ミガキ	内 10Y R 6/4 (にぶい黄緑) 外 10Y R 4/4 (緑)	底面1/3 圓形茶濁	T a 1 北側	
3	土師器 壺	8.4 <2.9> (13.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラケスリ	内 10Y R 2/2 (黒褐) 外 7.5Y R 4/6 (黒)	底面近形 完全茶濁	T a 9 北側	
4	銅器 杯	<3.1>	内 ロクロナデ 外	内 NS / (灰) 外	口縁1/7 圓形茶濁	T 1	
5	銅器 有台杯	(7.4) <1.7>	内 ロクロナデ 外	内 10Y R 2/3 (にぶい黄緑) 外	底面近形 土垢として再利用か。	T 1 No.60	
6	銅器 杯	(7.4) <1.0>	内 ロクロナデ 外	内 5Y 4/1 (灰) 外	底面近形 完全茶濁	D 3	
7	土師器 鉢	(14.4) <5.3>	内 ヨコナデ一ヘラケスリ 外 ヨコナデ一ヘラケスリ	内 5Y R 5/8 (明赤褐) 外 5Y R 2/1 (黒褐)	底面近形 完全茶濁	D 51	
8	磁器 白土	0.9	内 0.6 外 0.75	出土位置			
9	須臾器 壺	(16.0) <5.2>	内 ナデ 外 叩目 底面ナデ	内 7.5Y R 4/2 (灰褐) 外	黒密	A.88	
10	土師器 壺	(17.8)	内 樽ナデ 外	内 10Y R 6/4 (にぶい黄緑) 外	0.5~1mm大石灰粒子多く含む。	A.810	
11	土師器 壺	<4.4> (15.6)	内 ヨコナデ 外	内 5Y R 5/6 (明赤褐) 外	0.5mm大石灰・長石・他粒子含む。	B a 1 検出 B 7/2	
12	土師器 杯	<2.8> (15.2)	内 ナデ一ミガキ 胴面 外 口縁ナデ一筋彫手拵ヘラケスリ	内 5Y R 5/6 (明赤褐) 外	0.5mm大石灰粒子・他多く含む。	B a 2 検出 B a 2 No.140	
13	土師器 壺	<4.3> (11.5) <2.5>	内 ナデ 外 ナデミガキ	内 2.5Y 4/1 (黄灰) 外	黒密	B a 5 検出 B a 5 T 1層外8層	
14	土師器 杯	(13.4)	内 胴面 外 口縁ヨコナデ一筋彫手拵ヘラケスリ	内 5Y R 5/6 (明赤褐) 外	0.5mm大石灰粒子・他多く含む。	B a 1 D 21	
15	土師器 杯	(15.0) <4.2>	内 ヨコナデ一ヘラナデ 外 ヨコナデ一ヘラナデ	内 10Y R 6/6 (明赤褐) 外	黒密	B a 2 No.174	
16	土師器 杯	<4.6> (11.0)	内 胴面 外 ヨコナデ一筋彫手拵ヘラケスリ	内 5Y R 6/6 (暗) 外	黒密	C < 5	
17	石皿	3.1	内 2.1 外 0.4	出土位置			

第15表 試験植物一覧表

番号	名称	粒径		形状	質量	色	成分	加工	出上位置
		内	外						
1	土壌試料	内 11.8 (10.4)	外 <4.4>	内 ナ子 外 ヨコナ子	ヘラクレスI	内 5Y R7/6(橙) 外	緻密	口縁1/2 回転葉測	水田 試験A地点
2	土師鉢	内 10.2 (9.2)	外 (3.2)	内 ナ子 外 ナ子		内 5Y R7/6(橙) 外	緻密	口縁1/6 回転葉測	水田 試験A地点
3	カワラケ	内 10.0 (6.4)	外 (3.0)	内 ロクロナ子 外 ロクロナ子	炭酸石灰系切り	内 7.5Y R7/4(にぶい黄) 外	緻密 細石灰・砂粒わずかに含む。	口縁1/4 回転葉測	試験C地点
4	カワラケ	内 2.1 (12.2)	外	内 ロクロナ子 外		内 7.5Y R7/6(明橙) 外 10Y R7/4(にぶい黄橙)	緻密	口縁1/8 回転葉測	水田 試験C地点
5	灰桶	内 10.2 (2.4)	外 <2.4>	内 ロクロナ子 外 ロクロナ子	底部ヘラクレスI付高台	内 糊付粉5Y 8/1(灰白) 外 5Y 7/1(灰白)	緻密	底面1/2底存	水田 試験B地点
6	楳立	内 3.4 (3.5)	外	内 ナ子 外 押型又		内 5Y R4/4(にぶい黄橙) 外 5Y R4/6(赤橙)	緻密石灰子含む。	楳立母殻 破片葉測	水田 試験B地点
7	カワラケ	内 3.4 (3.5)	外 <0.5>	内 ロクロナ子 外 ロクロナ子		内 7.5Y R5/6(明橙) 外	緻密。赤色粒子含む。	底面1/3 回転葉測	水田 試験B地点
8	内耳	内 38.6 (39.6)	外 <10.0>	内 ナ子 外 ナ子		内 7.5Y R4/6(明) 外 7.5Y R2/2(黄橙)	緻密石灰子含む。 細石灰・細石灰粒子含む。	底面に底面崩れ有り 口縁1/12 回転葉測	試験C地点
9	石鉢	内 38.6 (39.6)	外 <7.5>	内 ナ子 外		内 7.5Y R5/6(明橙) 外	緻密石灰子含む。	口縁1/8 回転葉測	試験B地点
11	土師鉢	内 4.0 (4.0)	外 <7.4>	内 ミガキ 外 細面糸織	底面	内 7.5Y R6/6(橙) 外 7.5Y R7/6(橙)	緻密石灰子含む。	口縁 養生時期 破片葉測	試験C地点
12	土師鉢	内 4.0 (4.0)	外 <7.4>	内 ミガキ 外 細面糸織	底面	内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R5/6(明橙)	緻密石灰子含む。 細石灰・細石灰粒子含む。	口縁 養生時期 破片葉測	試験C地点
13	土師鉢	内 4.0 (4.0)	外 <7.4>	内 ミガキ 外 細面糸織	底面	内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R5/6(明橙)	緻密石灰子含む。 細石灰・細石灰粒子含む。	口縁 養生時期 破片葉測	試験C地点
番号	名称	内	外	形状	質量	色	成分	加工	出上位置
11	土師鉢	内 4.0 (4.0)	外 <7.4>	内 ミガキ 外 細面糸織	底面	内 7.5Y R6/6(橙) 外 7.5Y R7/6(橙)	緻密石灰子含む。	口縁 養生時期 破片葉測	試験C地点
12	土師鉢	内 4.0 (4.0)	外 <7.4>	内 ミガキ 外 細面糸織	底面	内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R5/6(明橙)	緻密石灰子含む。 細石灰・細石灰粒子含む。	口縁 養生時期 破片葉測	試験C地点
13	土師鉢	内 4.0 (4.0)	外 <7.4>	内 ミガキ 外 細面糸織	底面	内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 7.5Y R5/6(明橙)	緻密石灰子含む。 細石灰・細石灰粒子含む。	口縁 養生時期 破片葉測	試験C地点

付篇

下信濃石遺跡から出土した動物遺体同定

黒澤 一男 (パレオ・ラボ)

1. 対象試料および方法

長野県佐久市にある下信濃石遺跡から出土した動物遺体について同定をおこなった。同定には国立歴史民俗博物館の西本研究室所蔵の現生標本との比較によりおこなった。

2. 同定結果および考察

下信濃石遺跡から出土した動物遺体について同定した結果を以下に述べる。なお詳しい出土内容については、表1に示す。

ウマ

ウマは、遊離歯が2点、中手骨と脛骨が各1点検出されている。

遊離歯は、D1い8・9出土の左上顎第2後臼歯と、D2検出の左下顎第2後臼歯であるが、両者とも破損しているため、正確な計測はできない。左上顎第2後臼歯は歯根部分が一部破損しているが、全歯高(歯根中心部と咬合面中心部の直接距離;久保和七・松井章, 1999)の計測をおこなってみると、56mmという結果が得られる。これよりそのウマの年齢を推定すると、およそ6才程度の成獣個体と推定される。

Ta11より出土している中手骨は、両骨端部と骨幹部後面が破損しているが、残存している骨幹部は19cm以上あることから体高115cm以上のウマであったと推定される。同様にM1から出土している脛骨の遠位端幅を計測すると、63mmとなり、体高120~125cmのウマであったと推定される。

ウマまたはウシ

ウマまたはウシは、上腕骨と中手骨、橈骨が各1点検出されている。

D51より検出された上腕骨と中手骨と橈骨はいずれも非常に小さく、骨端が癒合しておらず、骨幹部はスポンジ状で非常に脆い。これらのことから胎児の骨と考えられる。その形状からウマのものと考えられるが、胎児の骨では形態の近似するウシとの区別が困難であることからここではウマまたはウシと同定した。これらの骨の大きさから体長30cm程度の個体と考えられることから、1~2ヶ月程度の胎児であると考えられる。完全に骨化していない胎児の骨が残存する可能性は非常に低く、今回検出した骨は近代のものと考えられる。

シカ

シカは、下顎骨が1点検出されている。検出された下顎骨の残存部分は、下顎体臼歯部の第3大臼歯から下顎枝であるが、状態が悪く、一部破片化し、欠損している。残存している第3大臼歯の歯頸線は顎骨の縁のすぐ下あたりに存在し、出現しておらず、推定歯冠高は16~17mm程度である。磨耗指数(大森司, 1980)は、3~4となり、8~9歳程度の個体であったと考えられる。

イノシシ

イノシシは、基節骨と遊離歯破片が検出されている。基節骨は、焼かれて白色化している。遊離歯破片は、細片化しており、詳細な検討は困難である。

そのほか

そのほかに骨片がT1ほか5地点で検出されているが、細片化しているため、同定にはいたらない。また、T a 3からは巻貝の破片が検出されている。殻の一部しか残存していないが、アカニシのような大型の巻貝のものと考えられる。

3. まとめ

下信濃石遺跡から出土した動物遺体を同定した結果、ウマ、シカ、イノシシの存在が確認された。全体的に保存状態が悪いため、詳細な検討は困難であるが、ウマについては小型の成獣が、シカについては8~9歳の成獣個体が確認された。またウマまたはウシの胎児については保存性を考慮すると近代に埋められたものと考えられる。

引用文献

久保和上・松井章(1999)第9章家畜<その2-ウマ・ウシ>、西本豊弘・松井章編「考古学と動物学」、169-208。

大奈司紀之(1980)遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法、考古学と自然

表1 下信濃石遺跡出土動物遺体

試料 番号	出土位置	番号	種名	部位	左右	状態	備考
1	P20		不明			破片	
2	D2検出		ウマ	左下顎第2様臼歯			
3	D2検出		不明			破片	
4	T a 11	No.4	ウマ	中手骨	?	骨幹部	
5	D51		ウマまたはウシ(胎児)	上腕骨	左	骨幹部	骨端未融合
				橈骨	左	骨幹部	骨端未融合
				中手骨	右	骨幹部	骨端未融合
6	T a 3	No.3	巻貝			破片	アカニシのような比較的大型の巻貝片
7	M1	No.1	ウマ	脛骨	左	骨幹~遠位部	
8	T1	No.92	不明			破片	
9	T1	No.93	不明			破片	
10	T1	No.91	シカ	下顎骨	右	破片	第3大臼歯
11	Bお2	No.11	不明			破片	焼骨
12	Bお2	No.30	イノシシ	歯		破片	エナメル質破片
13	Bか1	No.21	イノシシ	基節骨		近位部	焼骨
14	Bか2	No.189	不明			破片	焼骨
15	T1整地10層		不明			破片	骨幹部
16	T1	No.94	不明			破片	
17	Dい8・9		ウマ	左上顎第2様臼歯			



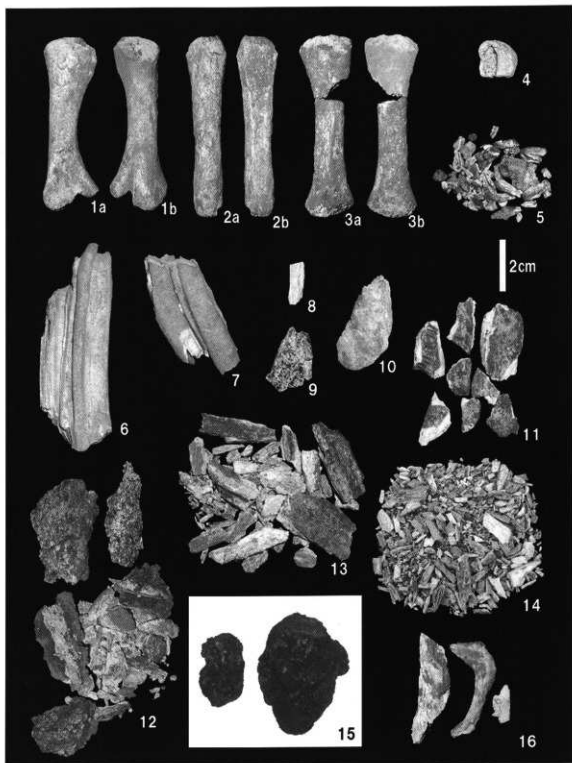
図版1 下信濃石遺跡出土動物遺体(カッコ内は試料番号)

1.ウマ 中手骨(Ta11No.4)

2.ウマ 脛骨 左(M1 No.1)

3.シカ 下顎骨 右(T1 No.91)

a:前面, b:後面, c:外面, d:内面



図版2 下信濃石遺跡出土動物遺体(カッコ内は試料番号)

1~3. ウマまたはウシ胎児(D51) 1:上腕骨 左, 2:中手骨 右, 3:橈骨 左

4. イノシシ 基節骨(Bか1Na21) 5. イノシシ 歯破片(Bお2Na30)

6. ウマ 左上顎第2後臼歯(Dい8-9), 7. ウマ 左下顎第2後臼歯(D2検出)

8~15. 種不明 骨片(8: Bお2Na11, 9: Bか2Na189, 10: P 20, 11: D2検出,

12: T 1Na94, 13: T 1整地10層, 14: T 1Na93, 15: T 1Na92)

16. 巻貝 破片(T a 3Na3)

a : 前面, b : 後面

下信濃石遺跡から出土した炭化種実

新山雅広 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

下信濃遺跡は、佐久市大字岩村田字仁土前3333-1他に所在する。本遺跡では、寺跡関連址、建物址土坑などの遺構や中世のかわらけ、内耳、常滑壺・甕などの他、古墳時代後期、弥生時代前期および後期の遺物が検出されている。ここでは、中世の利用植物を明らかにする一端として、炭化種実の検討を行った。

2. 試料と方法

炭化種実の検討は、タッパーに保存されたT1(Ta7)N95およびT1(Ta7)N96の合計2試料について行った。同定・計数・採集は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。

3. 出土した炭化種実

同定されたのはイネ炭化胚乳であった。以下に、各試料の記載を示す。

T1(Ta7)N95: 上壤試料中に炭化物が含まれていた。炭化物はイネと炭化材(もしくは草本茎状)であった。イネは完形と破片が含まれており、完形12個の重量は0.08gであった。破片は0.20gであり、重量換算すると30個分と推定される。従って、試料中には42個分のイネが含まれていたことになる。

T1(Ta7)N96: イネが塊状になったものが2個含まれていた。いずれも3cm前後の塊で重量は2.01gと3.46gであった。また、この塊から剥がれ落ちたと見られる単粒のイネが20個含まれており、0.15gであった。従って、2つの塊は重量換算すると268個分と461個分の塊と推定される。

4. 形態記載

イネ *Oryza sativa* Linn. 炭化胚乳

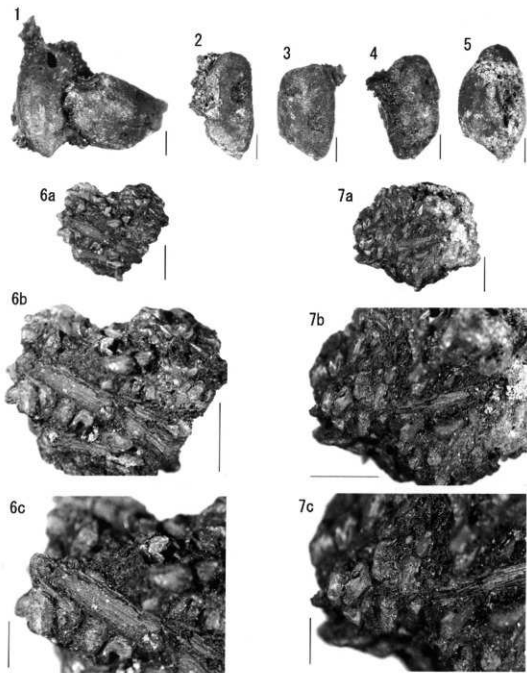
側面視・上面視共に楕円形。両面の表面には、縦方向の2本の筋が入り、3等分される。これの真ん中は隆起し、両端は一段下がる。変形・発泡・欠損などにより、正確な長さ・幅の分かる試料は殆どない。およその長さ・幅は、N95が3.5~5.2、2.1~2.9mm程度、N96が4.2~5.2、2.3~3.3mm程度。

5. 考察

検討した結果、いずれの試料もイネ炭化胚乳であった。イネは栽培植物であり、食用として利用されていたと考えられる。T1(Ta7)N96のイネは炭化胚乳が集合した塊であったが、細片が稀に見られ、内部に草本茎状の遺体が混じっていた。このことから、このイネ塊は、元は脱穀されていない穎果(粃)の集合であったが、穎(初穀)が剥がれ落ちて胚乳が集合したようになった可能性がある。また、塊の内部に草本茎状の遺体が混じることからも、調理に関連したもの(例えば、おにぎり、ちまき等)ではなく、生米が炭化したのだと予想される。

6. おわりに

栽培植物のイネが利用されていたと考えられた。T1(Ta7)N96のイネは塊状であったが、調理に関連したものではないと予想された。



図版1 出土した炭化種実(スケールは1~5が1mm、6a、6b、7a、7bが1cm、6c、7cが5mm)

1~3. イネ、炭化胚乳、T1(T a 7)No.95

4,5. イネ、炭化胚乳、T1(T a 7)No.96

6a. イネ、炭化胚乳(塊)、T1(T a 7)No.96

6b. 「6a」の拡大

6c. 「6b」左上部の拡大

7a. イネ、炭化胚乳(塊)、T1(T a 7)No.96

7b. 「7a」左側部の拡大

7c. 「7b」左下部の拡大

下信濃石遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、中世の寺院関連遺構から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。これらの炭化材は破片で元の形状や用途は不明であるが、地方の中世寺院で利用されていた木材利用の情報は乏しいので、基礎的資料として記録するために調査された。

2. 試料と方法

同定は、炭化材の横断面(木口)を手で削り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向(横断面・接線断面・放射断面)の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製 J S M-T100型)で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り試料は、佐久市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定結果の一覧を、表1に示した。検出された分類群は、針葉樹のスギ・マツ属複雑管束亜属、落葉広葉樹のクリ、単子葉類であった。単子葉類は、試料T1(Ta7)No97のワラ状の集積した塊から保存の良い一部を観察した結果である。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科

図版1 1a-1c (T1(Ta)No97)

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで、年輪幅は広い。分野壁孔は窓状、放射組織の上下端に放射仮道管がありその内壁や有縁壁孔対に突起状の肥厚がある。

マツ属複雑管束亜属に属するアカマツまたはクロマツであるが、炭化材では放射仮道管内壁の肥厚の形状が確認できないので、種までは特定できない。

(2) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科

図版1 2a-2c (Ta11No5) 3a-3c (Ta11No6)

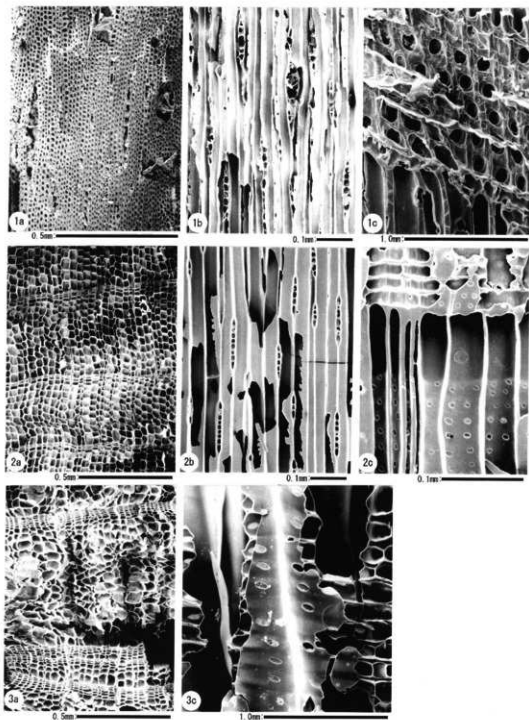
仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部の量は少ない。分野壁孔は大型、孔口は水平に大きく楕円形に開き壁孔縁は狭いスギ型、1分野に主に2個が水平に配置している。

(3) クリ *Castanea-crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 4a-4c (T1(Ta7)No98)

年輪の始めに大型の管孔が2層前後配列し、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。

(4) 単子葉類 *Monocotyledoneae* 図版2 5a (T1(Ta7)No97)

葉鞘に包まれて茎部があり、茎部の維管束は散在する不整中心柱であることから、単子葉類であることが判ったが、保存が悪いこともあり分類群は特定できていない。



図版 1 下信濃石遺出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真

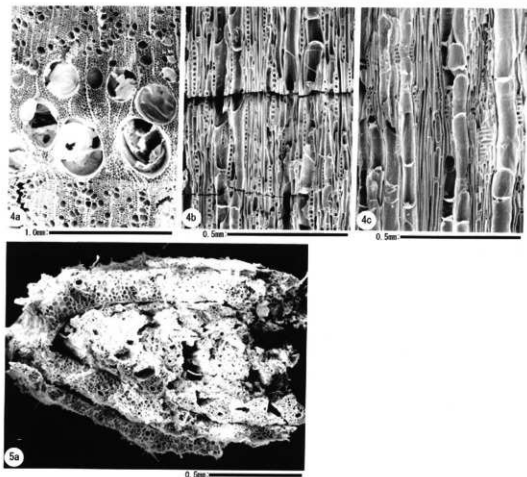
1a-1c:マツ属複維管束亜属(T1(Ta7)Na97) 2a-2c:スギ(Ta11Na5) 3a・3c:スギ(Ta11Na6)
 a:横断面 b:接線断面 c:放射断面

4. まとめ

検出された木材のスギ・マツ属複雑管束重亜属・クリは、いずれも建築材としても有用材であることから、寺院遺構で利用されていた可能性はありと考えられる。スギ材は比較的成長は早く、年輪幅が広いものが多いが、当遺跡のスギ材は晩材部の量は少ないものであった。有用建築材として、年輪幅の狭いスギ材が選択利用されていた可能性も類推される。また、ヒノキと類似して晩材部の狭いスギは、北陸地方や多雪地帯の遺跡出土材で見ることが多いが、当遺跡出土のスギも晩材部の量は少なく狭い材であった。

表1 下信濃石遺跡出土炭化材樹種同定結果

試料No.	出土位置	種類	樹種	備考
1	T a 11No5	炭化材	スギ	6X8.5cm破片年輪幅は1mm前後
2	T a 11P 1	炭化材	スギ	小破片多数・柱痕
5	T 1(T a 7)No97	炭化材	マツ属複雑管束重亜属単子葉類	破片、菌状、多数集積
6	T 1(T a 7)No98	炭化材	クリ	小破片



図版2 下信濃石遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真
4a~4c:クリ(T1(T a 7)No98) 5a:単子葉類(T1(T a 7)No97)
a:横断面 b:接線断面 c:放射断面

出土炭化物の植物珪酸体

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

イネ科植物は別名珪酸植物とも呼ばれ、根より吸収した珪酸分を葉や茎の細胞内に沈積させることが知られている。こうして沈積・形成された植物珪酸体(単細胞珪酸体や機動細胞珪酸体)のうち、機動細胞珪酸体についてはイネを中心に形態分類の研究が進められている(藤原 1978など)。こうしたことから、得られた植物遺体について植物珪酸体の検出を図り、機動細胞珪酸体の形態を観察ことによりその母植物について検討できると考える。以下には佐久市下信濃石遺跡より検出された炭化した草本遺体について行った植物珪酸体分析について記す。

2. 試料と分析方法

試料は中世の炭化物(T 1 (T a 7) Na99) 1点である。この炭化草本遺体を検討するにあたり、現生植物の標本作製と同様の方法を用いて植物珪酸体の有無を調べた。すなわち乾燥(105°Cで24時間)した炭化草本遺体を管瓶にとり、電気がを用いて灰化するのであるが、灰化する行程は藤原(1976)にほぼしたがって行った。その行程は、はじめ毎分5°Cの割合で温度を上げ、100°Cにおいて15分ほどその温度を保ち、その後毎分2°Cの割合で550°Cまで温度を上げ、5時間その温度を保持して、試料の灰化を行う。灰化した試料について一部を取り出し、グリセリンを浸液としたプレパラートを作製し、生物顕微鏡下で観察した(600倍)。

3. 結果および考察

観察の結果、多くの機動細胞珪酸体が認められ、数個体が連なった状態のものや繊維状遺体(細胞)にくっついた状態のもの(写真番号5)、崩れた繊維状遺体の塊のなかに埋もれているものも観察される。この機動細胞珪酸体の形態について、断面形態(写真番号1-a、2-a)は楔形をしており、裏面側においてなだらかなこぶ状の凸部と浅い溝状の凹部が認められる。側面形態(写真番号1-b、2-b)は長方形を呈しており、裏面側にごぶ状のものがみられる個体もある。表面形態(写真番号1-c)は台形状を呈し、裏面形態(写真番号1-d)は中央部分がやや窪んだ長方形をなしている。

また若干ではあるが単細胞珪酸体が認められる(写真番号3,4)。その形態は、中央部分(胴部)が細くくぼみ、その上下が丸みを帯びたコブ状に膨らんだ形状を示すなどいわゆる落花生の形状を示している。この膨らみの部分はやや厚みがあるように観察され(写真の黒い影様の部分)、上下の先端部分には浅いくぼみが認められる。

以上のような機動細胞珪酸体の形態からこの母植物はススキ属、チガヤ属などのウシクサ族と判断される。また単細胞珪酸体の形態的特徴はススキによく認められるものである。こうしたことからこれら植物珪酸体の母植物はウシクサ属のススキ属と判断されよう。

その他、側面形態(写真番号7,8)が長方形で、裏面部分にやや粗い亀甲状文様が認められる機動細胞珪酸体が連なった状態で少し観察され、こうした特徴からこの機動細胞珪酸体はキビ族と判断される。また1個体のみであるが断面形態(写真番号9-a)がイチョウの葉型をした機動細胞珪酸体も認められた。この珪酸体には側面部分に突起が、表面部分に窪みが、また裏面部分には細かく浅い亀甲状紋様が認められる。

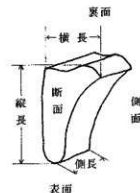


図1 機動細胞珪酸体模式図

側面形態（写真番号9-b）は長方形で、側面部には稜線がみられ、以上のような形態からこの機動細胞珪酸体についてはイネと判断される。

以上のような結果から、検出された炭化草本遺体の主体はウシクサ族のススキ属と判断され、これに若干のキビ族やイネが含まれていると推測される。

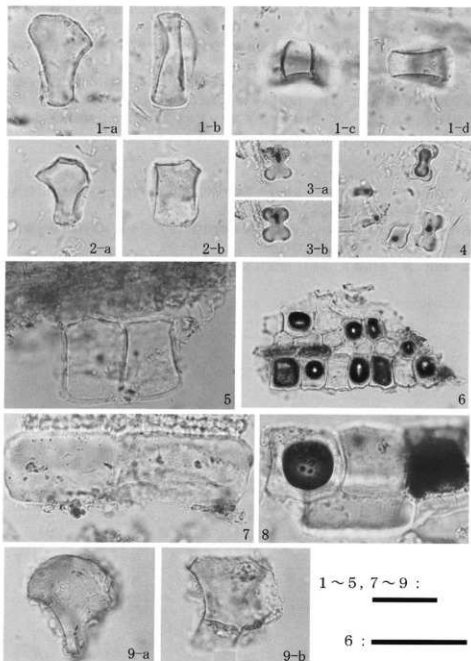
なお、ススキ属にはオギ、ススキ、トキワススキなどがあり、ススキはいたるところの原野に普通な多年草である（北村・村田・小山 1964）。またキビ族についてはその形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、イヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明である。

引用文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定域分析法—。考古学と自然科学， 9， p 15—29.

藤原宏志（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究（2）—イネ（*Oryza*）属植物における機動細胞珪酸体の形状—。考古学と自然科学， 11， p 9—20.

北村四郎・村田 源・小山鐵夫（1964）原色日本植物図鑑草本編〔Ⅲ〕， 保育社， p 465.



図版 下信濃石遺跡出土炭化物の植物珪酸体

(scale bar 1~5, 7~9 : 0.03mm, 6 : 0.1mm)

- 1, 2 : ウシクサ族機動細胞珪酸体 (a : 断面, b : 側面, c : 表面, d : 裏面)
 3, 4 : 単細胞珪酸体 5, 6 : ウシクサ族機動細胞珪酸体列 (側面)
 7, 8 : キビ族機動細胞珪酸体列 (側面) 9 : イネ (a : 断面, b : 側面)

赤彩土器の顔料分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

下信濃行遺跡の調査では、黒色土層から赤彩された水式土器（縄文時代晩期～弥生時代前期）が出土した。ここでは、赤色顔料の材質を検討するために蛍光X線分析を行った。

2. 試料と方法

試料は、黒色土層から赤彩された水式土器3試料である（表1）。

表1. 赤色顔料試料の詳細と分析項目

試料	実測No.	器種	土器型式	出土層位	赤色顔料位置	分析法	
						蛍光X線分析	顕微鏡検査
1	38	浅鉢	水式	黒色土層一括	外側口縁部	○	○
2	488	小型壺	水式	黒色土層一括	外側胴上半部	○	○
3	492	小型壺	水式	黒色土層一括	外側胴上半部	○	○

試料は、予め実体顕微鏡を用いて観察した後、最も赤味の強い場所を選んで1cm角程度を削り取った。蛍光X線分析の測定試料は、アクリル板試料台に載せて点分析した。測定は、X線分析顕微鏡（佛堀場製作所製XGT-5000Type II）を用いた。測定条件は、X線管管径100 μ m、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。なお、定量計算は、標準試料を用いないF P法（ファンダメンタルパラメータ法）で半定量分析を行った。

なお、測定に用いた試料は、簡易プレパラートを作成し、偏光顕微鏡で観察した。

3. 結果および考察

蛍光X線分析では、いずれの試料においても鉄のピークが明瞭に検出され、半定量分析において酸化鉄（Fe₂O₃）がNo.38において最大21.02%、No.488において最大33.12%、No.492において最大32.68%と高い。このことから、鉄の化合物（たとえば硫酸第一鉄）あるいは黄土を焼いたベンガラと考える。

表2. 分析顕微鏡による分析結果（半定量分析）

No.	実測No.	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	合計
1	38	13.56	58.69	2.04	0.20	1.20	2.34	0.77	0.18	21.02	100.00
2	488	20.63	35.75	6.38	0.54	0.28	1.94	0.55	0.81	33.12	100.00
3	492	17.81	39.23	4.49	0.59	0.66	2.94	1.48	0.12	32.68	100.00
最小値		13.56	35.75	2.04	0.20	0.28	1.94	0.55	0.12	21.02	
最大値		20.63	58.69	6.38	0.59	1.20	2.94	1.48	0.81	33.12	

ベンガラは、大きく鉄細菌系と非鉄細菌系に分かれる（馬淵ほか、2003）。鉄細菌系のベンガラとしては、パイプ状ベンガラが知られており、珪藻化石を伴うことから崖端の湧水部や水山などの環境下で生成されたことが考えられている（岡田、1997）。

なお、各赤色顔料について、偏光顕微鏡で観察した結果、パイプ状ベンガラは認められなかったことから、非鉄細菌系の褐鉄鉱などが使用されたものと考えられる。非鉄細菌系の褐鉄鉱は、たとえば地層中に見られる管状・樹枝状の褐鉄鉱の団塊として知られる高師小僧（地団研地学事典編集委員会、1970）あるいは同様の成因により形成された鬼板などが考えられる。

4. おわりに

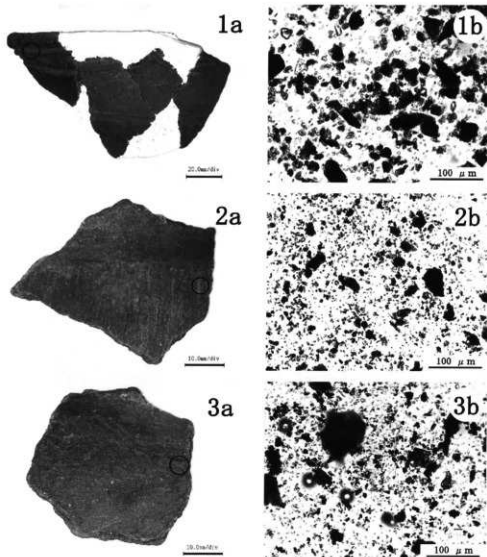
ここでは、下信濃石遺跡の調査において出土した赤彩土器の赤色顔料について蛍光X線分析を行った。その結果、いずれの赤色顔料もベンガラであることが分かった。なお、いずれの赤色顔料もパイプ状ベンガラは確認されないことから、非鉄細菌系の褐鉄鉱であることが考えられる。

引用文献

地団研地学事典編集委員会 (1970) 地学事典, 1540 p, 平凡社

馬淵久夫・杉下能一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定俊 (2003) 文化財科学の事典, 522 p, 朝倉書店

岡田文男 (1997) パイプ状ベンガラ粒子の復元, 日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, p 38-39.



図版1. 赤彩土器と赤色顔料の顕微鏡写真 (○: 試料採取範囲)

- 1 a. 遺物No.38 1 b. 遺物No.38赤色顔料の顕微鏡写真
2 a. 遺物No.488 2 b. 遺物No.488赤色顔料の顕微鏡写真
3 a. 遺物No.492 3 b. 遺物No.492赤色顔料の顕微鏡写真

放射性炭素年代測定結果報告書

株式会社 加速器分析研究所

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- 2) B P年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。
複数回（通常は4回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{13}\text{C} = \left[\frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{試料}}}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{標準}}} - 1 \right] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = \left[\frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{試料}}}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{標準}}} - 1 \right] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 $^{14}\text{A S}$ ：試料炭素の ^{14}C 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{試料}}$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_{\text{試料}}$

$^{14}\text{A R}$ ：標準現代炭素の ^{14}C 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{標準}}$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_{\text{標準}}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 $(^{13}\text{A S} = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{試料}}$ を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、1AAでは加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ （‰）であるとしたときの ^{14}C 濃度 $(^{14}\text{A X})$ に換算した上で計算した値です。（1）式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$$^{14}\text{A X} = ^{14}\text{A S} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000))^2 \quad (^{14}\text{A S} \text{として} ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{A S} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000)) \quad (^{14}\text{A S} \text{として} ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = \left[\frac{(^{14}\text{A X} - ^{14}\text{A R})}{^{14}\text{A R}} \right] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭素ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するB P年代値が比較的良好でその只と同一時代のもと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つ表記として、pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (p\text{MC}/100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$p\text{MC} = \Delta^{14}\text{C}/10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age; yrBP）が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln \left[\left(\frac{\Delta^{14}\text{C}}{1000} + 1 \right) \right]$$

$$= -8033 \times \ln (p\text{MC}/100)$$

1AA Code No	試料	B P年代および炭素の同位体比
IAAA-50942	試料採取場所:下信濃石	Libby Age(yrBP) : 2,390± 30
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (加速器) : -25.21±0.97
	試料形態:炭化物	$\Delta^{14}\text{C}$ (‰) : -257.7± 3.1
	試料名(番号):379	pMC(%) : 74.23±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -258.0± 2.8
#1006-1		pMC(%) : 74.20±0.28
		Age(yrBP) : 2,400± 30
IAAA-50943	試料採取場所:下信濃石	Libby Age(yrBP) : 2,400± 40
		$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (加速器) : -27.20±0.86
	試料形態:炭化物	$\Delta^{14}\text{C}$ (‰) : -258.4± 3.3
	試料名(番号):430	pMC(%) : 74.16±0.33
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -261.7± 3.0
#1006-2		pMC(%) : 73.83±0.30
		Age(yrBP) : 2,440± 30

分析法	エネルギー分散蛍光 X 線分析法 (EDX)
分析装置	セイコーインスツルメンツ桌上型蛍光 X 線分析計 SEA-2110L
分析条件	管電圧 50kV 管電流 自動設定 測定時間 240sec 雰囲気 真空 照射径 10mm 検出器 Si(Li)半導体検出器
測定元素	Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム)
分析法の特徴	長所 非破壊分析 多元素同時分析 前処理不要 → 洗浄は必要 迅速分析 操作が簡単 短所 微量分析は不得意 表面分析 → 試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。 → そのため、汚れた試料、風化した試料は汚れ、風化を測定したことになり、正確でない。 類似した組成の標準試料が必要
試料の洗浄	5 分間 (汚れがひどい場合は15分間) 超音波洗浄器で洗浄。 さらに汚れを拭き取ってから測定。 試料は破壊せずに分析できますが、以下のような試料は分析できません。
測定不可能な試料	・風化した試料 → 割ることが可能ならば、できます。 ・汚れがとれない試料 → 削ることが可能ならば、できます。 ・厚さが 1 mm 以下の試料 ・大きさが 5 mm 以下の試料 ・遺物番号などの書き込みで測定できる向がない試料
産地推定可能な石材	上記の条件をクリアしていれば、以下の分析ができます。 ・現在は黒曜石 (日本全国) と下呂石 ・ガラス質安山岩は分類可能。 ただし、原石データが不足しているため、産地推定は不可能。 現在、原石データを収集中 ・その他の石材 (特に堆積岩) は分類不可能。
産地推定法	得られた蛍光 X 線スペクトル強度を元素記号で表すとする。 二つの方法とも以下の指標を用いる。
指標	Sum=Rb+Sr+Y+Zr とする。 Rb 分率=Rb/Sum Sr 分率=Sr/Sum Zr 分率=Zr/Sum Mn * 100 / Fe log (Fe/K) 産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。 測定結果から上記の指標を算出する。 以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。 下記の二つの方法で産地推定を行う。 ①判別四法 (判別図のシート参照)
	用いる指標 図1 縦軸: Rb 分率、縦軸: Mn/Fe 図2 横軸: Sr 分率、縦軸: log(Fe/K)
	特長 簡単な計算であり、誰にでも作成可能 視覚的に確認でき、分かりやすい。
	推定方法 遺跡出土試料を蛍光 X 線分析し、指標を計算。 指標を図にプロットする。 重なった原石産地を推定結果とする。
	②判別分析 (推定結果表参照)
	用いる指標 算出された指標全て
	特長 各産地との類似度を距離で算出 既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。 → 未知の産地の判別はできない。
	推定方法 判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。 この産地は試料と 2 次元の最も距離に近い。 判別分析ではこの距離を数式的に n 次元で計算する。 試料と最も距離 (マハラノビス距離) が近い産地を推定結果とする。 この距離から、各産地に属する確率を計算する。

推定結果表の見方

推定結果 下記の右の表に判別図法の結果と判別分析の結果を挙げてあります。
左の表は二つの方法から導いた推定結果をまとめたものです。

研究室 年間通番	分析番号	産種	推定産種
MK05-10534	S S N-1	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10535	S S N-2	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10536	S S N-3	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10537	S S N-4	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10538	S S N-5	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10539	S S N-6	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10540	S S N-7	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10541	S S N-8	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10542	S S N-9	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10543	S S N-10	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10544	S S N-11	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10545	S S N-12	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10546	S S N-13	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10547	S S N-14	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10548	S S N-15	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10549	S S N-16	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10550	S S N-17	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10551	S S N-18	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10552	S S N-19	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10553	S S N-20	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10554	S S N-21	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10555	S S N-22	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10556	S S N-23	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10557	S S N-24	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10558	S S N-25	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10559	S S N-26	有茎石旗	非黒曜石
MK05-10560	S S N-27	有茎石旗	非黒曜石
MK05-10561	S S N-28	有茎石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10562	S S N-29	凹基石旗	和田土層橋西群
MK05-10563	S S N-30	凹基石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10564	S S N-31	凹基石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10565	S S N-32	凹基石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10566	S S N-33	石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10567	S S N-34	石旗	諏訪屋ヶ台群
MK05-10568	S S N-35	キリ	諏訪屋ヶ台群
MK05-10569	S S N-36	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10570	S S N-37	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10571	S S N-38	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10572	S S N-39	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10573	S S N-40	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10574	S S N-41	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10575	S S N-42	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10576	S S N-43	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10577	S S N-44	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10578	S S N-45	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10579	S S N-46	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10580	S S N-47	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10581	S S N-48	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10582	S S N-49	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10583	S S N-50	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10584	S S N-51	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10585	S S N-52	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10586	S S N-53	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群
MK05-10587	S S N-54	石旗未製品	諏訪屋ヶ台群

判別図 判別群	判別群	第1候補産地		判別分析		
		距離	標準	判別率	注数	
SWHD	SWHD	17.8	1	S B I Y	88.93	0
SWHD	SWHD	8.06	1	S B I Y	91.29	0
SWHD	SWHD	5.75	1	S B I Y	110.1	0
SWHD	SWHD	3.57	1	S B I Y	78.1	0
SWHD	SWHD	19.33	1	S B I Y	116.49	0
SWHD	SWHD	2.8	1	S B I Y	114.96	0
SWHD	SWHD	13.86	1	S B I Y	102.71	0
SWHD	SWHD	12.41	1	S B I Y	72.95	0
SWHD	SWHD	9.69	1	W D T N	106.37	0
SWHD	SWHD	11.09	1	S B I Y	94.06	0
SWHD	SWHD	11.92	1	S B I Y	83.06	0
SWHD	SWHD	11.33	1	S B I Y	79.72	0
SWHD	SWHD	9.49	1	W D T N	131.63	0
SWHD	SWHD	3.41	1	S B I Y	86.74	0
SWHD	SWHD	1.58	1	S B I Y	68.6	0
SWHD	SWHD	9.26	1	S B I Y	121.51	0
SWHD	SWHD	1.01	1	S B I Y	97.92	0
SWHD	SWHD	7.92	1	S B I Y	46.9	0
SWHD	SWHD	8.03	1	S B I Y	77.01	0
SWHD	SWHD	8.87	1	S B I Y	110.97	0
SWHD	SWHD	20.72	1	S B I Y	63.86	0
SWHD	SWHD	9.27	1	S B I Y	124.31	0
SWHD	SWHD	6.78	1	S B I Y	92.63	0
SWHD	SWHD	8.88	1	S B I Y	64.25	0
SWHD	SWHD	9.32	1	S B I Y	98.15	0
非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
SWHD	SWHD	5.24	1	S B I Y	69.12	0
W D T N	W D T N	4.48	1	W D T K	31.28	0
SWHD	SWHD	1.98	1	S B I Y	84.77	0
SWHD	SWHD	11.85	1	S B I Y	123.78	0
SWHD	SWHD	14.72	1	S B I Y	153.65	0
SWHD	SWHD	9.56	1	S B I Y	131.2	0
SWHD	SWHD	15.68	1	S B I Y	129.62	0
SWHD	SWHD	2.79	1	S B I Y	87.48	0
SWHD	SWHD	19.06	1	S B I Y	70.38	0
SWHD	SWHD	7.12	1	S B I Y	101.49	0
SWHD	SWHD	3.59	1	S B I Y	108.25	0
SWHD	SWHD	16.65	1	S B I Y	120.84	0
SWHD	SWHD	7.12	1	S B I Y	106.56	0
SWHD	SWHD	18.27	1	S B I Y	95.24	0
SWHD	SWHD	18.5	1	S B I Y	103.23	0
SWHD	SWHD	16.02	1	S B I Y	104.69	0
SWHD	SWHD	16.66	1	S B I Y	64.3	0
SWHD	SWHD	3.89	1	S B I Y	61.78	0
SWHD	SWHD	20.83	1	S B I Y	154.26	0
SWHD	SWHD	12.2	1	S B I Y	129.77	0
SWHD	SWHD	8.13	1	S B I Y	111.98	0
SWHD	SWHD	21.99	1	S B I Y	143.23	0
SWHD	SWHD	9.71	1	S B I Y	101.6	0
SWHD	SWHD	21.96	1	S B I Y	158.78	0
SWHD	SWHD	14.67	1	S B I Y	101.53	0
SWHD	SWHD	12.89	1	S B I Y	109.44	0
SWHD	SWHD	5.63	1	S B I Y	105.94	0

推定結果表の見方

推定結果 下記の右の表に判別図法の結果と判別分析の結果を挙げてあります。

左の表は二つの方法から導いた推定結果をまとめたものです。

MK 05-10588	S S N-55	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	13.96	1	S B I Y	123.34	0
MK 05-10589	S S N-56	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	5.76	1	S B I Y	88.76	0
MK 05-10590	S S N-57	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	13.98	1	S B I Y	98.06	0
MK 05-10591	S S N-58	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	17.34	1	S B I Y	85.12	0
MK 05-10592	S S N-59	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	5.3	1	S B I Y	84.63	0
MK 05-10593	S S N-60	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	17.47	1	S B I Y	143.51	0
MK 05-10594	S S N-61	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.47	1	S B I Y	135.16	0
MK 05-10595	S S N-62	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	10.35	1	S B I Y	78.28	0
MK 05-10596	S S N-63	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	14.64	1	S B I Y	64.96	0
MK 05-10597	S S N-64	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	14.02	1	S B I Y	91.15	0
MK 05-10598	S S N-65	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.81	1	S B I Y	81.48	0
MK 05-10599	S S N-66	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.17	1	S B I Y	109.06	0
MK 05-10600	S S N-67	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	5.51	1	S B I Y	103.65	0
MK 05-10601	S S N-68	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	12.47	1	S B I Y	116.78	0
MK 05-10602	S S N-69	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	15.48	1	S B I Y	109	0
MK 05-10603	S S N-70	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	3.84	1	S B I Y	89.78	0
MK 05-10604	S S N-71	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	14.59	1	S B I Y	122.49	0
MK 05-10605	S S N-72	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.54	1	S B I Y	88.7	0
MK 05-10606	S S N-73	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	10.64	1	S B I Y	110.84	0
MK 05-10607	S S N-74	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	21.35	1	S B I Y	113	0
MK 05-10608	S S N-75	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	18.7	1	S B I Y	70.38	0
MK 05-10609	S S N-76	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	17.6	1	S B I Y	160.7	0
MK 05-10610	S S N-77	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	10.58	1	S B I Y	95.02	0
MK 05-10611	S S N-78	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.6	1	S B I Y	87.78	0
MK 05-10612	S S N-79	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.51	1	W D T N	85.32	0
MK 05-10613	S S N-80	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	12.07	1	S B I Y	84.13	0
MK 05-10614	S S N-81	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.26	1	S B I Y	60.16	0
MK 05-10615	S S N-82	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9	1	S B I Y	103.05	0
MK 05-10616	S S N-83	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	10.21	1	S B I Y	81.76	0
MK 05-10617	S S N-84	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	3.22	1	S B I Y	79.72	0
MK 05-10618	S S N-85	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	10.53	1	S B I Y	85.35	0
MK 05-10619	S S N-86	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.72	1	S B I Y	64.84	0
MK 05-10620	S S N-87	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	8.74	1	S B I Y	124.28	0
MK 05-10621	S S N-88	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	16.02	1	S B I Y	147.89	0
MK 05-10622	S S N-89	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	1.03	1	S B I Y	104.93	0
MK 05-10623	S S N-90	石鏝未製品	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	12.44	1	S B I Y	95.71	0
MK 05-10624	S S N-91	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	20.6	1	S B I Y	146.55	0
MK 05-10625	S S N-92	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	8.79	1	S B I Y	70.82	0
MK 05-10626	S S N-93	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	8.52	1	W D T N	126.74	0
MK 05-10627	S S N-94	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.52	1	S B I Y	109.89	0
MK 05-10628	S S N-95	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	4.69	1	S B I Y	55.44	0
MK 05-10629	S S N-96	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	4.56	1	S B I Y	78.22	0
MK 05-10630	S S N-97	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	5.53	1	S B I Y	79.96	0
MK 05-10631	S S N-98	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	7.71	1	S B I Y	104.39	0
MK 05-10632	S S N-99	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.2	1	S B I Y	114.63	0
MK 05-10633	S S N-100	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	2.73	1	S B I Y	92.32	0
MK 05-10634	S S N-101	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	11.44	1	S B I Y	133.31	0
MK 05-10635	S S N-102	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	9.45	1	S B I Y	82.88	0
MK 05-10636	S S N-103	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.53	1	S B I Y	65.62	0
MK 05-10637	S S N-104	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.02	1	S B I Y	109.33	0
MK 05-10638	S S N-105	二次加工割片	諏訪屋ヶ台群	SWHD	SWHD	2.9	1	S B I Y	82.92	0

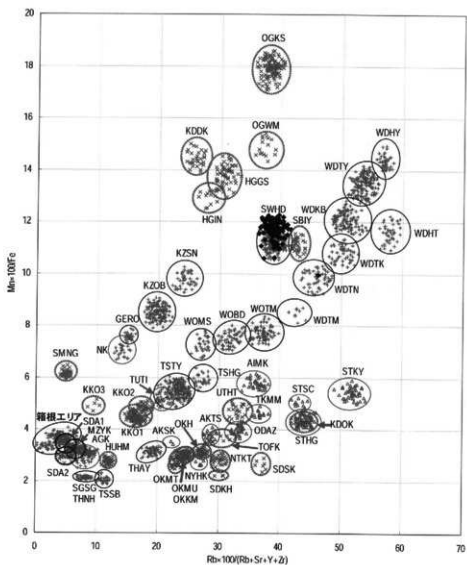
右側の表

判別図判別群： 判別図法によって推定された産地 判別分析と結果が異なるときは“*”をつけて示す。

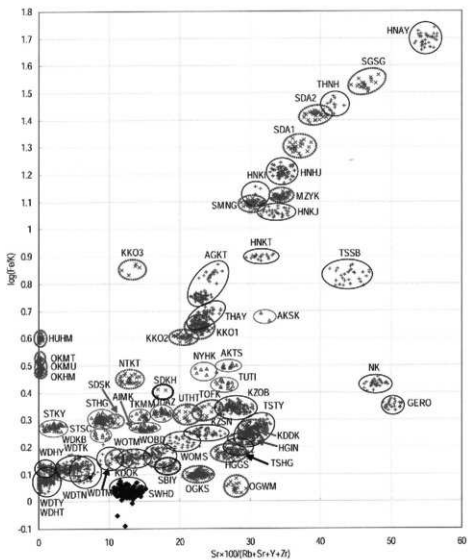
判別分析： 第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補

第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補

判別群 候補産地記号→判別図法による産地と通常は一致する。



+ 中部・関東の産地 x 東北北陸・隠岐の産地 △ 北海道の産地 ◆ 遺跡出土試料



十 中部・関東の産地 × 東北北陸・隠岐の産地 △ 北海道の産地 ◆ 遺跡出土試料

産地産石判別群 (SEIKO SEA-2110L 蛍光 X線分析装置による)

都道府県	地質区	エリア	群/河群	旧判別群	新記号	旧記号	産石採取地(分析群)		
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)		
	2	上士幌	三股群		K SMM		十三ノ沢(16)		
	3	釧路	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)		
	4	旭川	高砂台群		A K T S		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)		
			春光台群		A K S K				
	5	名寄	布川群		N Y H K		布川(10)		
	6	新十津川	須田群		S T S D		須田(6)		
	7	赤井川	曲川群		A I M K		曲川(25)、土木川(15)		
青森	8	奥浦	豊泉群		T U T I		豊泉(16)		
	9	木造	出来島群		K D D K		出来島海岸(34)		
秋田	10	深浦	八森山群		H U H M		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)		
	11	男鹿	金ヶ崎群		O G K S		金ヶ崎温泉(37)、猫本海岸(98)		
山形			猫本群		O G W M		猫本海岸(16)		
	12	羽黒	月山群		H G G S		月山荘前(30)、朝日町田代沢(18)、御引町中沢(18)		
新潟			今野川群		H G I N		今野川(9)、大綱川(5)		
	13	新津	金津群		N T K T		金津(29)		
栃木	14	新発田	板山群		S B I Y		板山牧場(40)		
	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	T H A Y	T K H 1	甘湯沢(50)、桜沢(20)		
長野			七尋沢群	高原山2群	T H N H	T K H 2	七尋沢(9)、自然の家(9)		
	16	和田 (WD)	鹿山群	和田峠1群	W D T Y	W D T 1			
			小深沢群	和田峠2群	W D K B	W D T 2			
			土屋橋北群	和田峠3群	W D T K	W D T 3		鷹山(53)、小深沢(54)、東野屋(36)、美善ライト(87)、古井(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御嶽(18)	
			土屋橋西群	和田峠4群	W D T N	W D T 4			
			土屋橋南群	和田峠5群	W D T M	W D T 5			
			芙蓉ライト群			W D H Y			
			古峠群			W D H T			
			ブドウ沢群	男女倉1群	W O B D	OMG1		ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)	
	17	諏訪	牧ヶ沢群	男女倉2群	W O M S	OMG2			
			高松沢群	男女倉3群	W O T M	OMG3			
	18	蓼科	星ヶ台群	霧ヶ峰系	S W H D	K R M		星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月雲園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)	
			冷山群	蓼科系	T S T Y	T T S		冷山(33)、変草峠(36)、変草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、ハヶ岳7(17)、ハヶ岳9(18)、双子池(34)	
			双子山群		T S H G			双子池(26)	
			播磨山群		T S S B			播磨山(31)、亀甲池(8)	
			芦ノ湯群	芦ノ湯	H N A Y	A S Y		芦ノ湯(34)	
煙霞群			煙霞	H N H J	H T J		煙霞(71)		
19	箱根	黒岩橋群	箱根系A群	H N K I	H K N A		黒岩橋(9)		
		鍛冶屋群	鍛冶屋	H N K J	K J Y		鍛冶屋(30)		
		上多賀群	上多賀	H N K T	K M T		上多賀(18)		
静岡	21	天城	柏峠群	柏峠	A G T	K S W	柏峠(80)		
	22	神津島	忍懸島群	神津島1群	K Z O B	K O Z 1	忍懸島(100)、長浜(43)、尻尻湾(8)		
東京			砂嘴崎群	神津島2群	K Z S N	K O Z 2	砂嘴崎(40)、長浜(5)		
	23	久見群			O K H M		久見パーライト中(30)、久見探掘現場(18)		
鳥根	24	隠岐	箕浦群		O K M U		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)		
			峠群		O K M T		峠地区(16)		
その他			N K 群		N K		中ヶ原1 G、5 G (濃縮試料)、原石産地は未発見		

佐々木繁喜氏提供試料(まだ地図には入れていない)

青森	小泊	折原内群	K D O K	小泊市折原内(8)
岩手	北上川	北上折原1群	K K O 1	水沢市折原(36)、花巻日形田ノ沢(36)、翠石小赤沢(22)
		北上折原2群	K K O 2	水沢市折原(23)、花巻日形田ノ沢(8)、翠石小赤沢(2)
		北上折原3群	K K O 3	水沢市折原(5)
宮城	宮崎	瀬ノ倉群	M Z Y K	宮崎町瀬ノ倉(54)
	色麻	根岸群	S M N G	色麻町根岸(48)
	仙台	秋保1群	S D A 1	仙台市秋保土蔵(17)
		秋保2群	S D A 2	仙台市秋保土蔵(35)
	塩竈	塩竈群	S G S G	塩竈市塩竈漁港(22)

佐久市下信濃石産路出土黒曜石産地組成

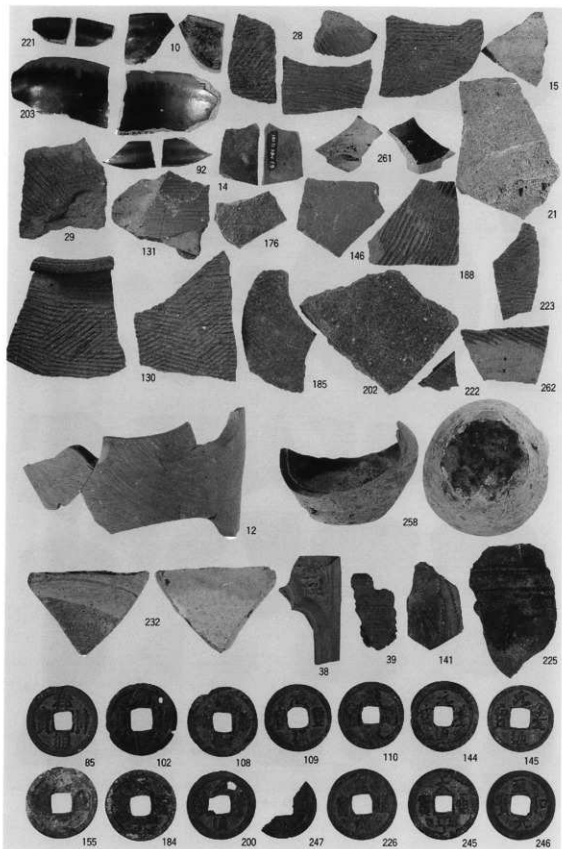
エリア	産別番	記号	試料数	%
和田 (WO)	フトウ沢	WOBD	0	0
	敦ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田 (WD)	芙蓉ライト	WDHY	0	0
	廣山	WDTY	0	0
	小深沢	WDKB	0	0
	土屋橋北	WDTK	0	0
	土屋橋西	WDTN	1	0.97
	土屋橋南	WDTM	0	0
諏訪	古峠	WDHT	0	0
	星ヶ台	SWHD	102	99.03
茅科	冷山	TSTY	0	0
	双子山	TSHG	0	0
天城	播鉢山	TSSB	0	0
	柏峠	AGKT	0	0
箱根	畑宿	HNHJ	0	0
	御治屋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
神津島	恩馳島	KZOB	0	0
	砂糠崎	KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
	七尊沢	THNH	0	0
新津	金津	NTKT	0	0
新発田	板山	SBIY	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0
	金ヶ崎	OGKS	0	0
男鹿	脇本	OGWM	0	0
	月山	HGGS	0	0
羽黒	今野川	HGIN	0	0

エリア	産別群	記号	試料数	%
北上川	折居1群	KKO1	0	0
	折居2群	KKO2	0	0
	折居3群	KKO3	0	0
宮崎	湯ノ倉	MZYK	0	0
	秋保1群	SDA1	0	0
仙台	秋保2群	SDA2	0	0
	横屋	SMNG	0	0
色麻	塩電	SGSG	0	0
	塩電港群	KDOK	0	0
小泊	折腰内	KDOK	0	0
	草月上野	UTHT	0	0
魚津	二上山	TOFK	0	0
	眞光寺	SDSK	0	0
高岡	金井ニッ坂	SDKH	0	0
	久見	OKHM	0	0
藤枝	柳地区	OKMT	0	0
	箕浦	OKMU	0	0
	8号沢	STHG	0	0
白滝	黒曜の沢	STKY	0	0
	赤石山頂	STSC	0	0
赤井川	曲川	AIMK	0	0
	置戸	ODAZ	0	0
豊清	豊泉	TUTI	0	0
	十勝	TKMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
	高砂台	AKTS	0	0
旭川	春光台	AKSK	0	0
	不明産地1	NK	0	0
下島石	不明産地1	NK	0	0
	不明産地2	GERO	0	0
合計			103	100
不可など			2	
総計			105	

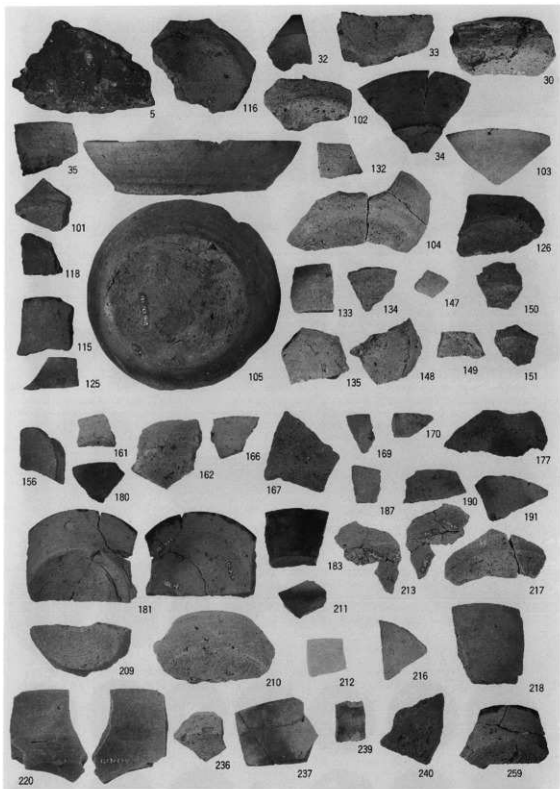




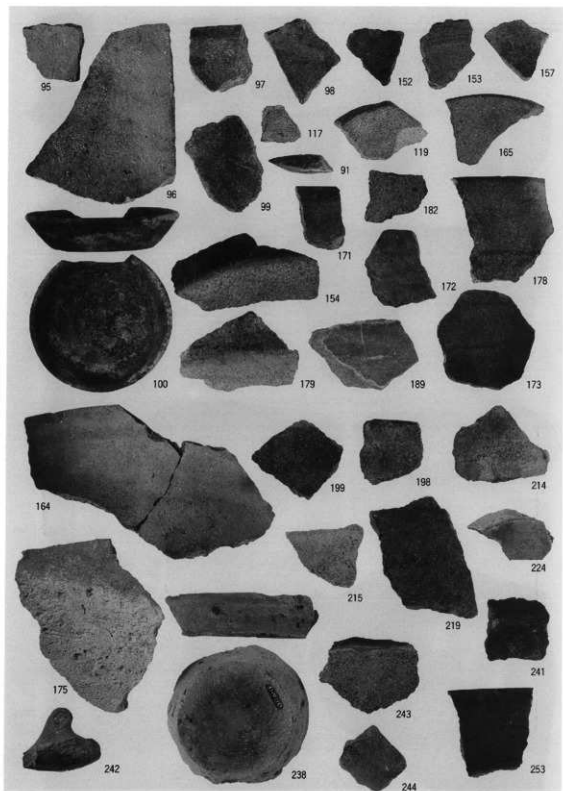
版



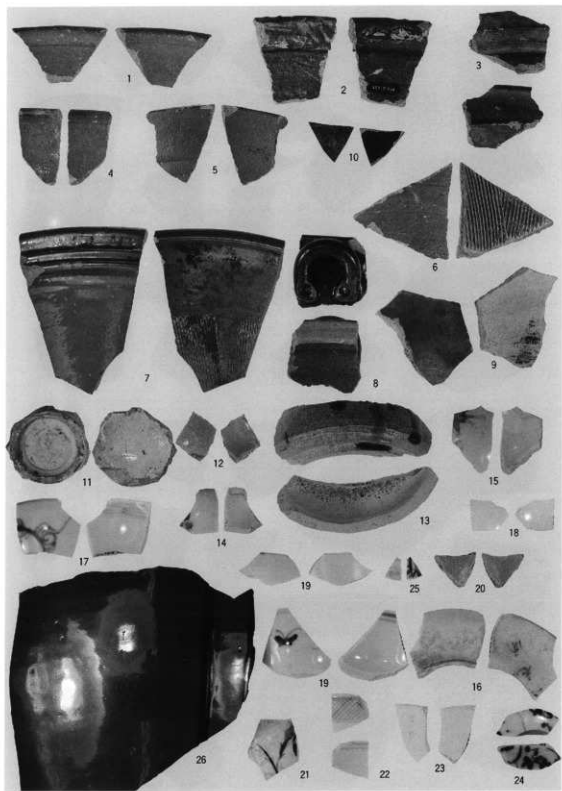
中世陶磁器 (1:2)、硯・青銅製品・渡来銭 (1:1)



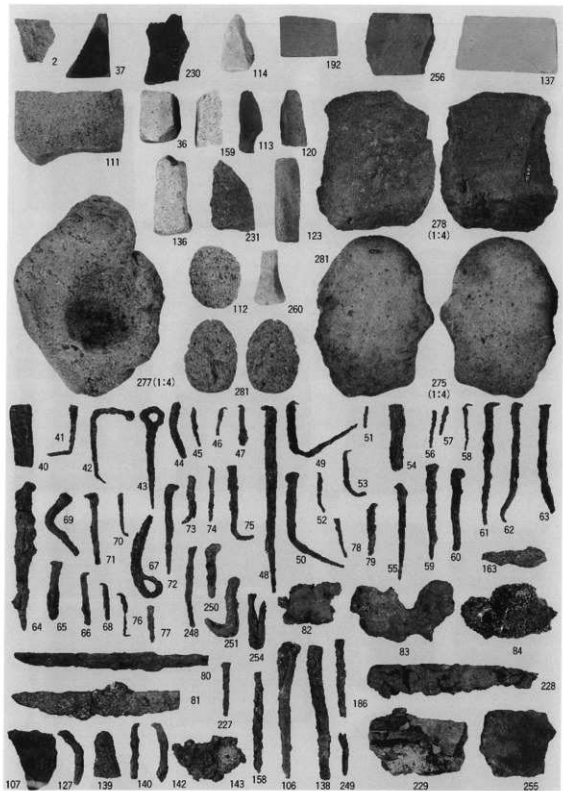
カワラケ



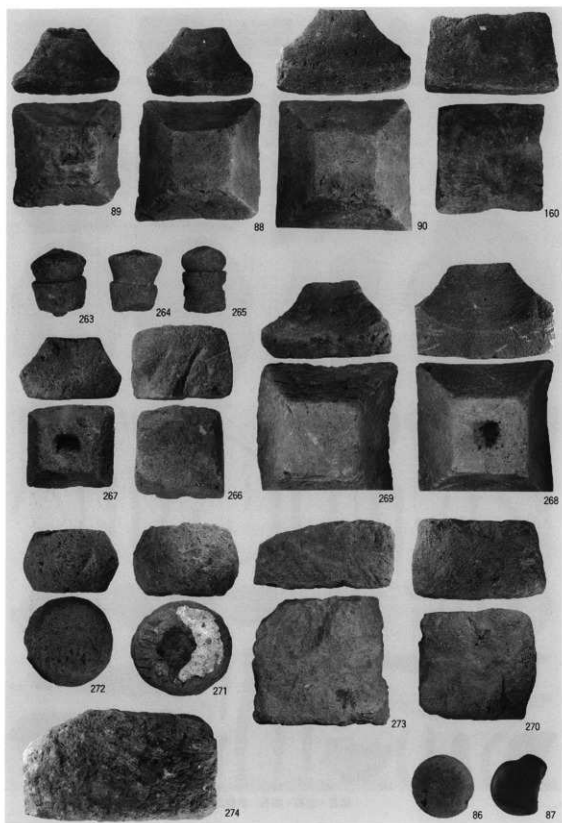
常滑カメ・カワラケ・内耳



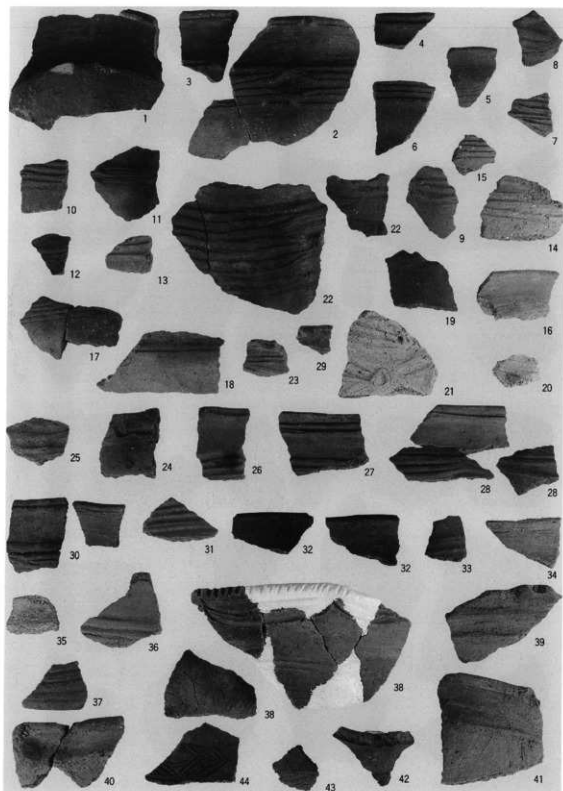
近世・近代陶磁器



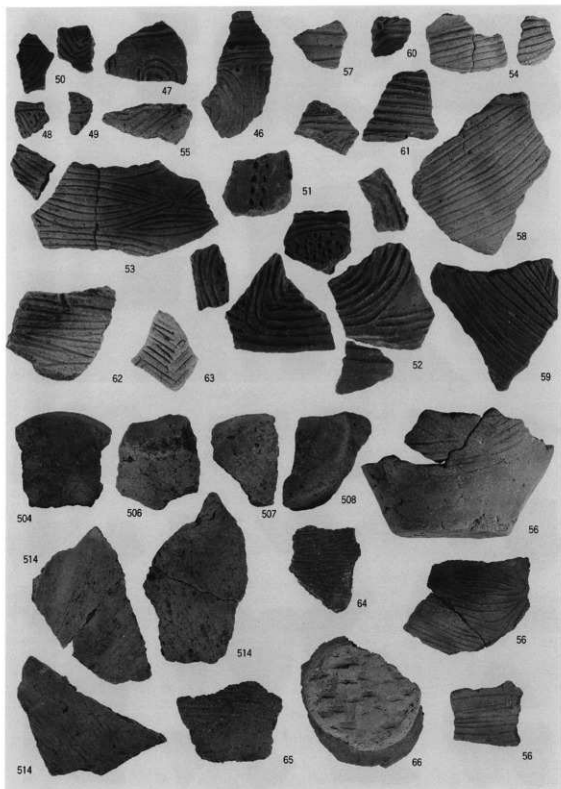
砥石・台石・凹石・鉄製品



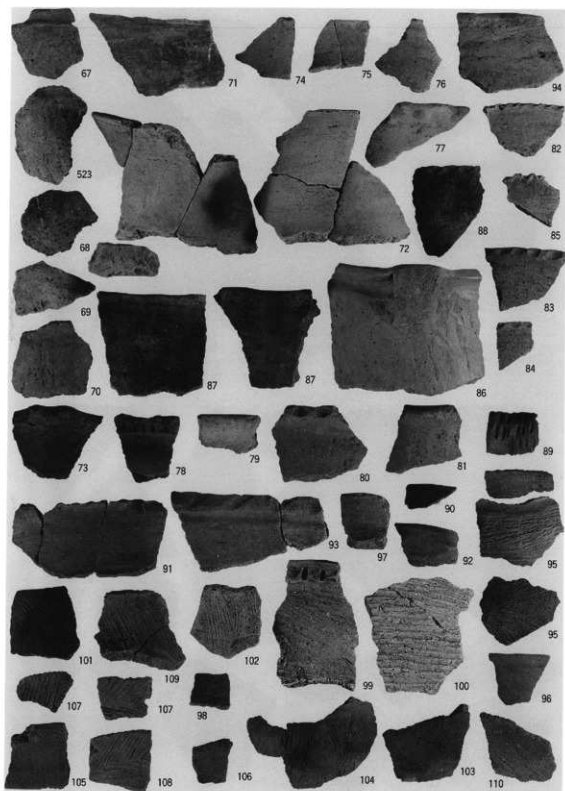
五輪塔 (1:6)・基石 (1:1)



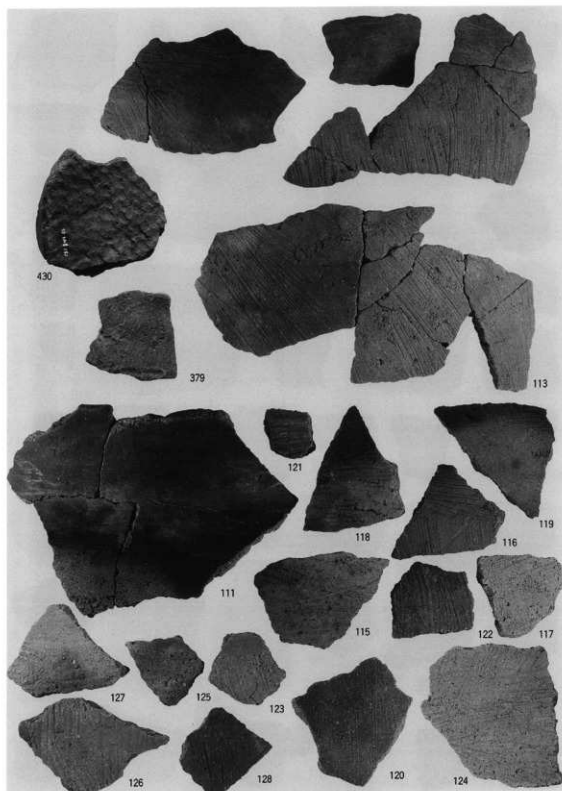
弥生前期土器（浮線文・沈線文の土器）



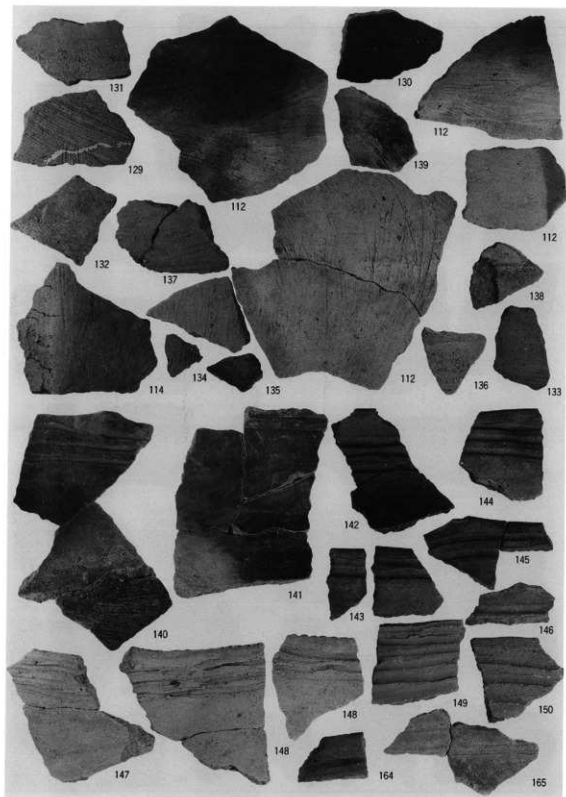
弥生前期土器（沈線文の土器他）



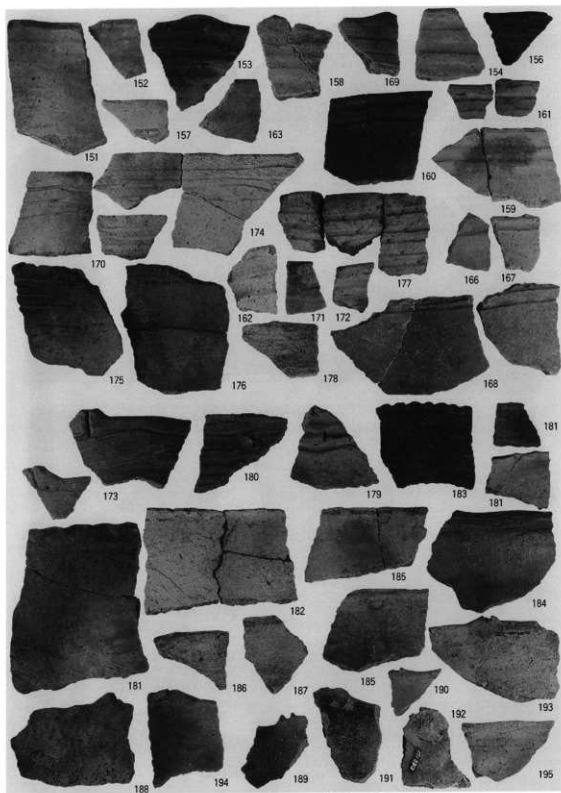
弥生前期土器（壺口縁部・東海模倣土器）



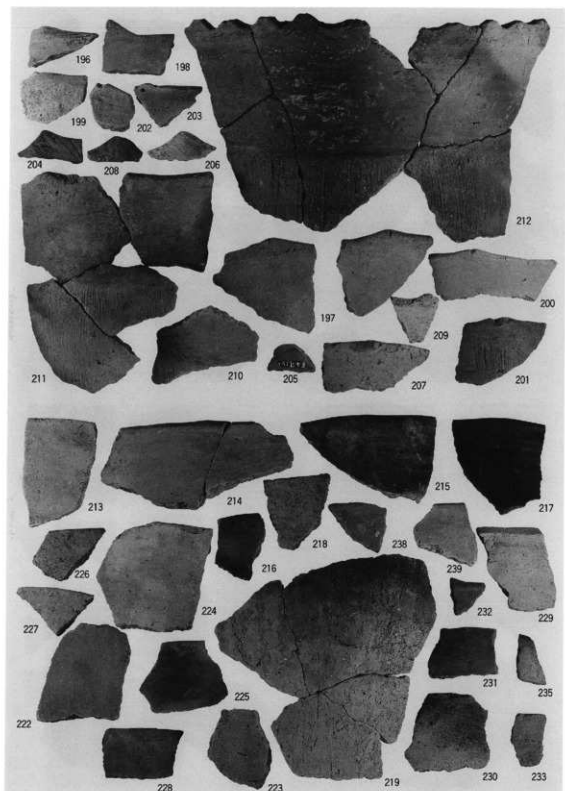
弥生前期土器（条痕文の土器）



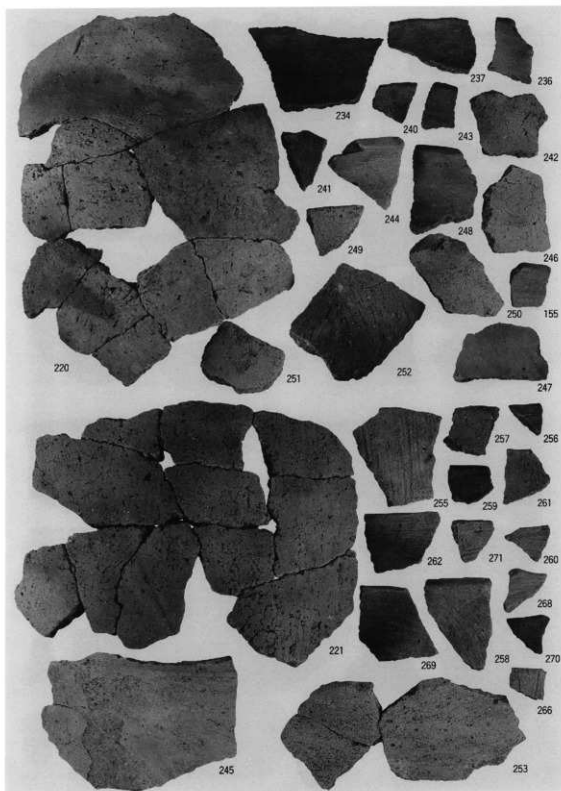
弥生前期土器（条復文の土器・口縁部沈線文の土器）



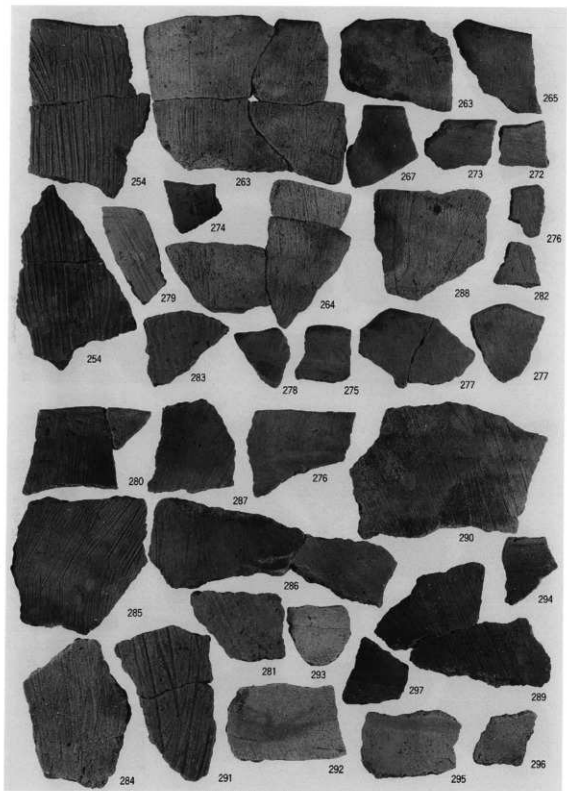
弥生前期土器（口縁部沈線文・口唇部押捺・刻目の土器）



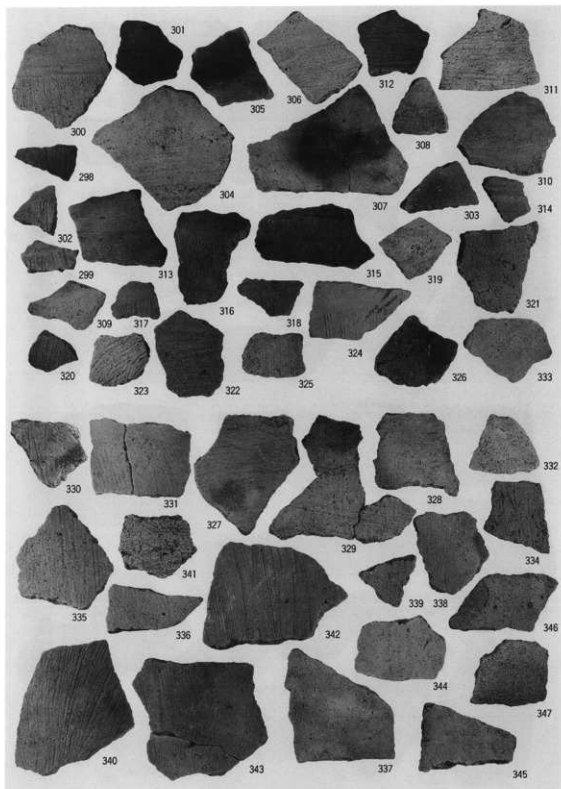
弥生前期土器 (条痕文の土器・波状・平口縁の土器)



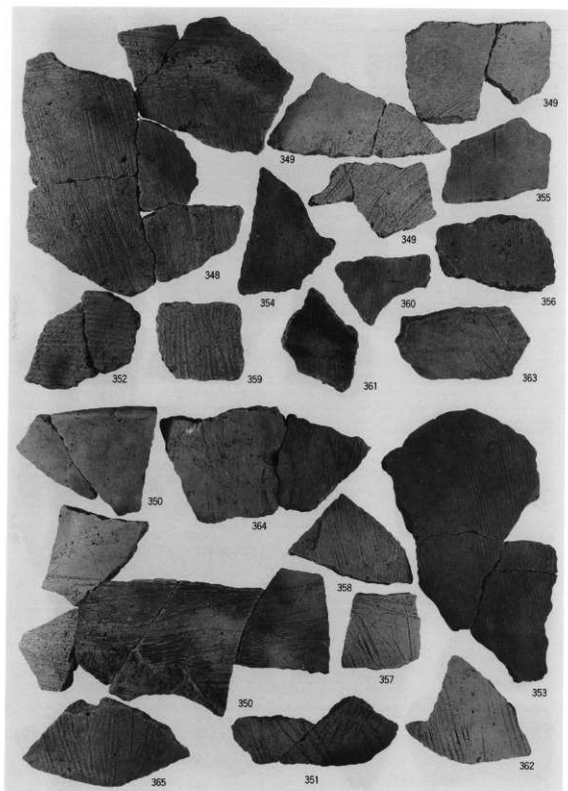
弥生前期土器（無文の土器）



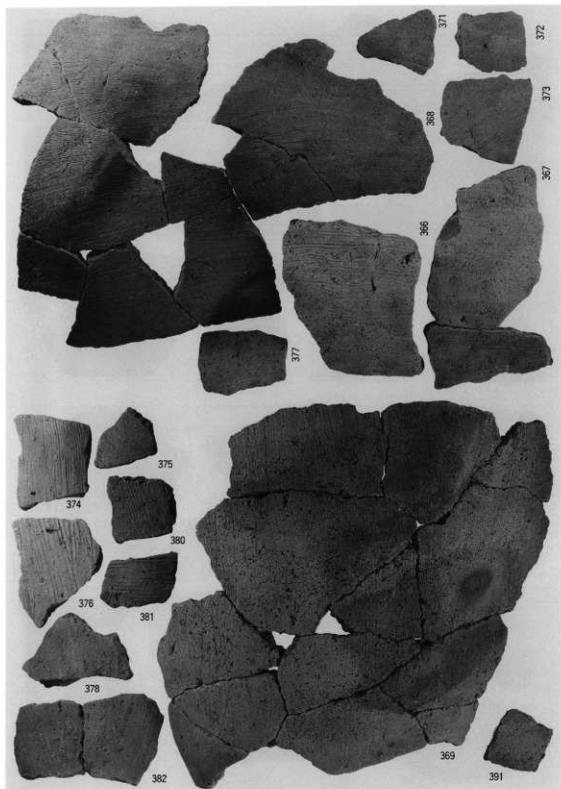
弥生前期土器（条痕文の土器）



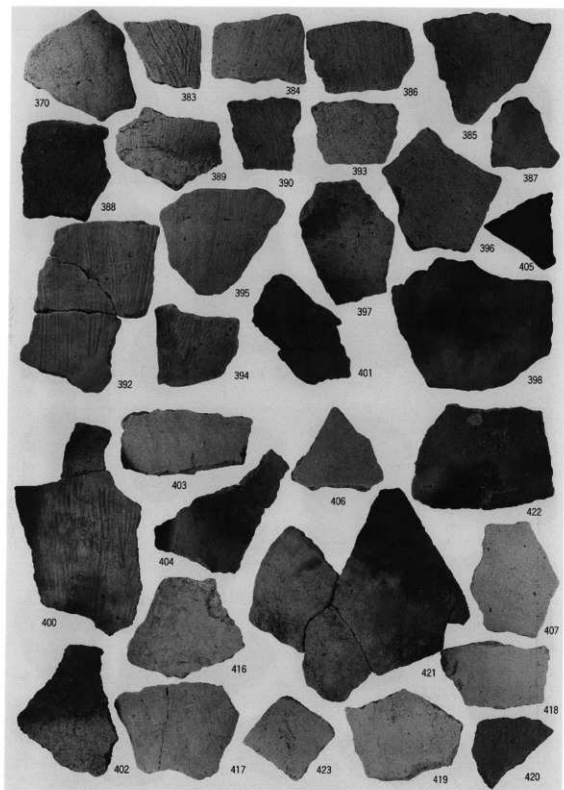
弥生前期土器（条痕文の土器）



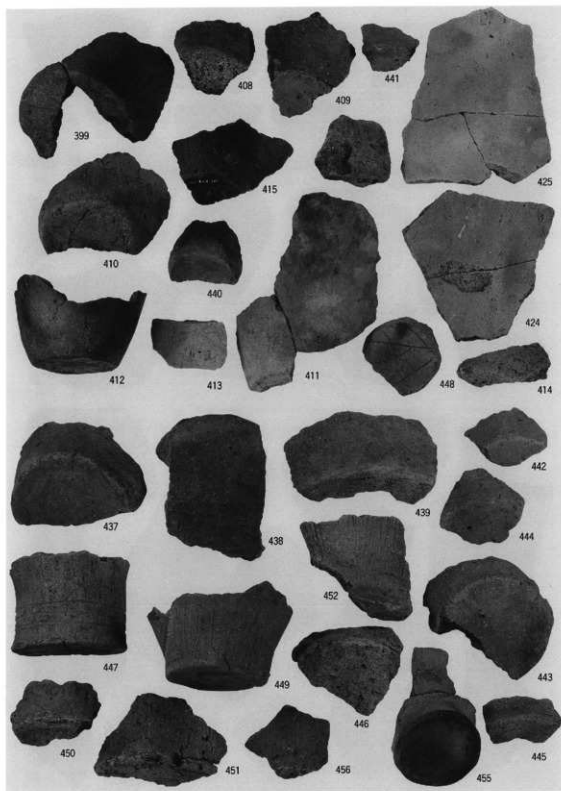
弥生前期土器（条痕文の土器）



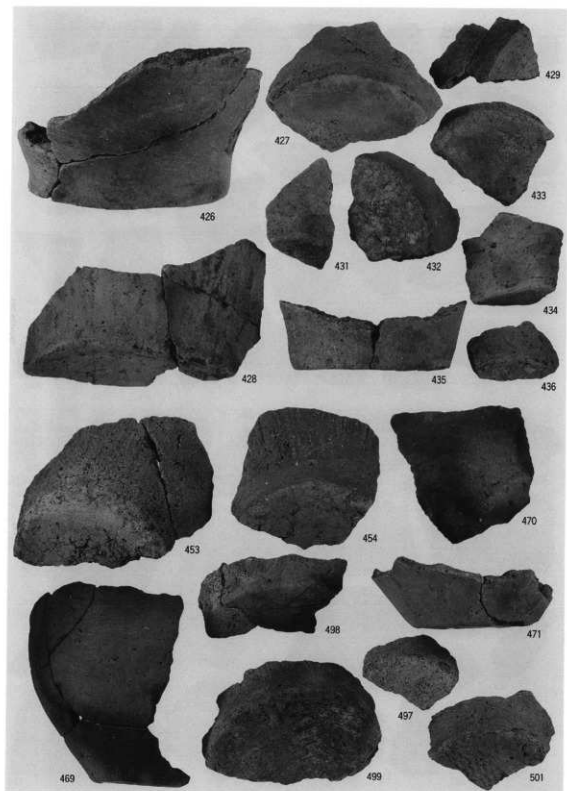
弥生前期土器（条痕文の土器）



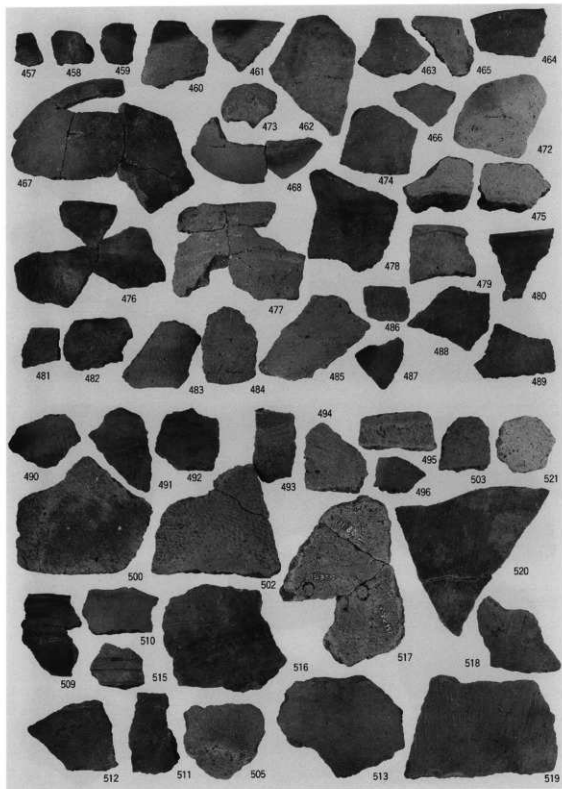
弥生前期土器（条復文の土器）



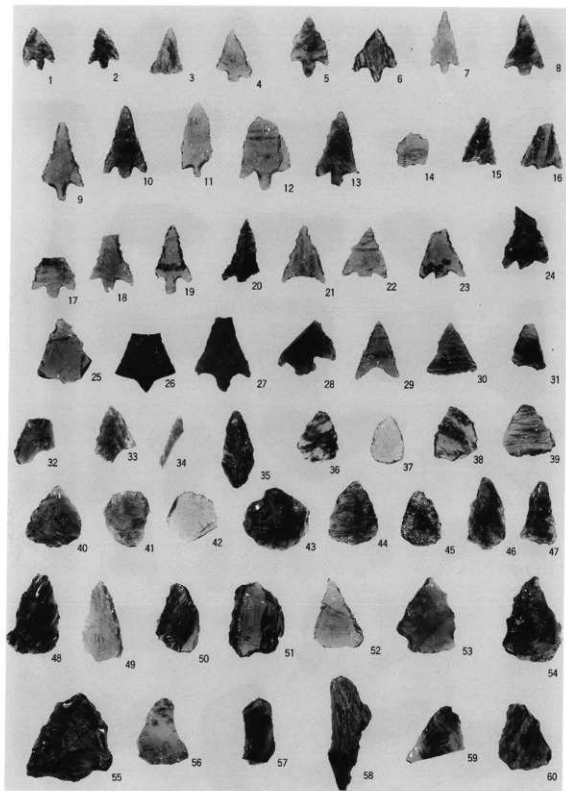
弥生前期土器（胴部・底部）



弥生前期土器（底部）



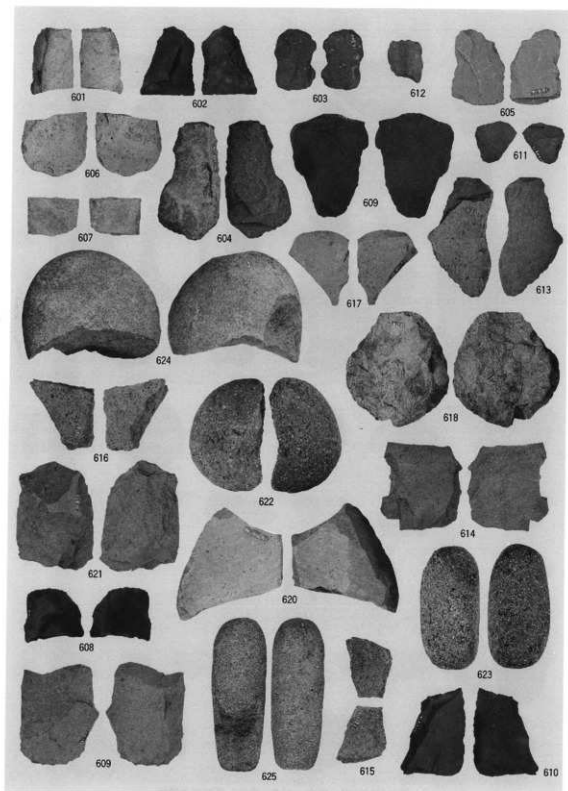
弥生前期土器



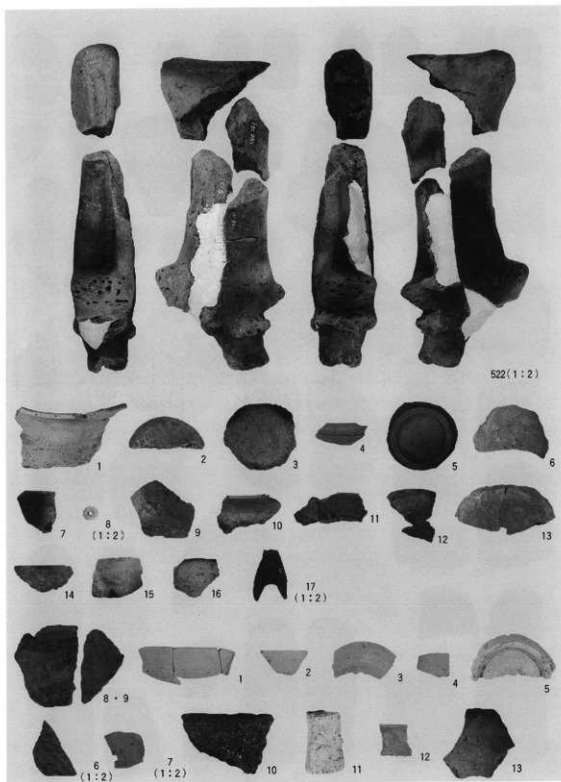
弥生前期黑曜石・安山岩製剥片石器 (1:1)



弥生前期黑曜石剥片石器 (1:1)



弥生前期安山岩・凝灰岩・砂岩製等石器 (1:3)



弥生前期土偶・縄文・古墳・奈良・試掘出土遺物

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第134集

下信濃石遺跡

2006年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒383-8301 長野県佐久市中込3056

文化財課
〒383-0006 長野県佐久市志賀5053
TEL 0267-68-7321

印刷所 佐久印刷所

報告書抄録

ふりがな	しもしなのいしいせき
書名	下信濃石遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	134集
編著者名	森原かよ子
編集機関	佐久市教育委員会
発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20060331
作成機関ID	
郵便番号	3850096
電話番号	0267687321
住所	長野県佐久市志賀5653
ふりがな	しもしなのいしいせき
遺跡名	下信濃石遺跡
ふりがな	ながのけんさくしいわむらだあざにおうまえ、しもしなのいし
遺跡所在地	長野県佐久市岩村町字仁上前、下信濃石
市町村コード	20217
遺跡番号	118
北緯	361558
東経	1382913
調査期間	20041101-20060331
調査面積	1200
調査原因	佐久市花岡上地区西整理事業
種別	包舎屋・寺院関連遺構
主な時代	弥生前期・中世
遺跡の概要	包舎屋一弥生前期一浮線文土器+沈線文土器+条痕文土器+礫石器+黒曜石剥片石器-寺院関連遺構-中世一段切り平場+竪穴建物址+ビット群+土坑+溝址-占瀬戸水滝+青磁+青白磁+占瀬戸+青銅製品+鉄製品+瓦輪塔